

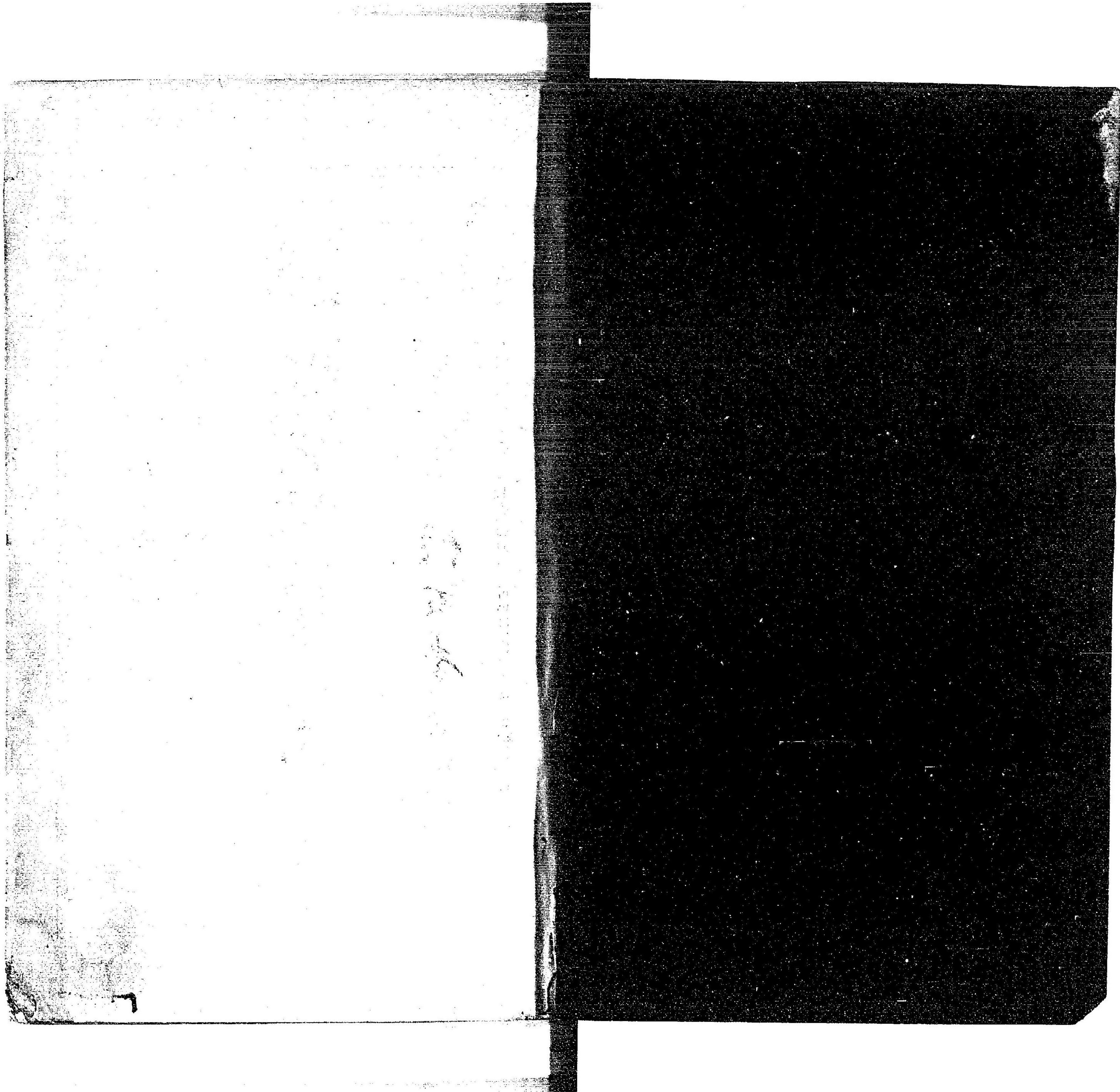
17

431

配景

安

日本家屋
建造後編
間取装飾集



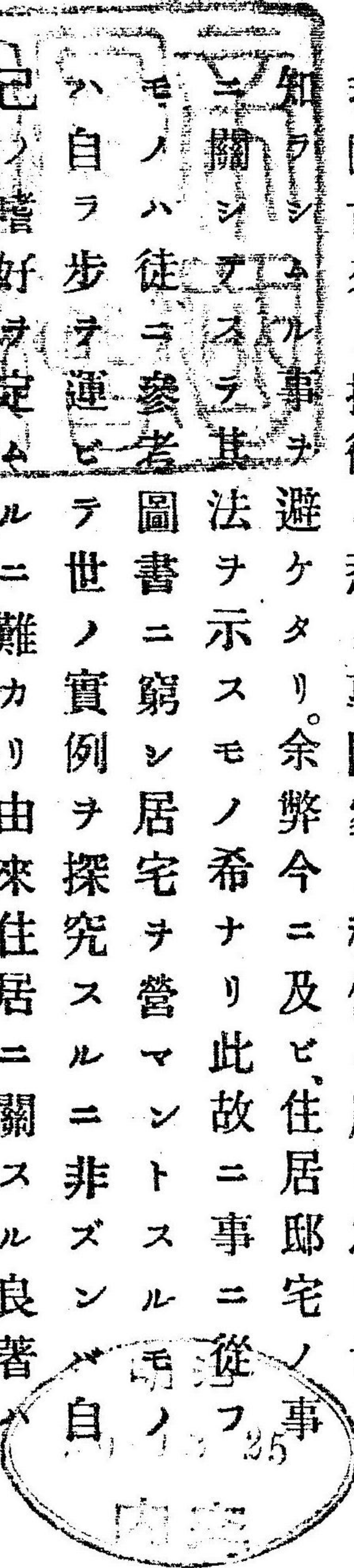
在太学院ニ學士位利若君序
東京高等工業學校建築科高橋正三郎編

配景 安圖

日本家屋
棟造續編
間取裝飾集 全

東京 信友堂發行

我國古來ノ技術ハ悉ク專門家ノ秘傳ニ屬シ之ヲ世ニ
知ラシムル事ヲ避ケタリ。余弊今ニ及ビ住居邸宅ノ事
ニ關シテ其法ヲ示スモノ希ナリ此故ニ事ニ從フ
モノハ徒ニ參考圖書ニ窮シ居宅ヲ營マントスル
ハ自ラ歩ヲ運ビテ世ノ實例ヲ探究スルニ非ズン
己ノ嗜好ヲ定ムルニ難カリ由來住居ニ關スル良著
長ク斷然ヲ渴望セラレタルナリ茲ニ我友齋藤兵次郎
君ハ規矩繩墨ノ術ヲ以テ夙ニ江湖ニ名アリ今ヤ住居
ニ關スル圖面ヲ輯集シテ梓ニ上サントス之ヲ見ルニ
紳士ノ邸宅ヨリ農家ニ至リ間取雜作ノ手法ヲ示スモ
ノ其數百數十有余ヲ加フルニ詳細ノ説明ヲ以テス新
ニ居宅ヲ營マントスルモノハ依テ以テ自己ノ嗜好ヲ



定ムルヲ得ベシ事ニ從フモノハ參考シテ設計其法ニ
合スルヲ得ベシ斯界ノ渴望ハ茲ニ良藥ヲ得タルナリ、
世ノ所謂家相ナルモノニハ玉ノ如キアルベク石ノ如
キアルベシ立關寸尺ノ差異ニ依テ吉凶ヲ云々スルガ
如キハ愚ノ最ナルモノナリト雖モ中ニハ自然ノ方則
ニ一致スルモノアリ高地ヲ北ニ有スル居宅ヲ吉トシ
テ南ニ有スルヲ凶トナスノ類切是ナリ、著者ハ是等ヲ
一束シテ卷中ニ參考セバ玉石自ラ分ツニ難カラザラ
ン良著ニ接シ感ズル所ヲ記シテ序ニ代フ

明治三十九年十二月

工學士 佐野利器 識ス

緒言

我國在來の建物は歐米のものに比し堅牢の點に於て欠く
る所なきにあらざれど最も經濟的にして稍々衛生に適ひ
加之其容姿の雅なるは實に千古に傳ふべきものこそ然れ
ども其間取裝飾配景姿圖或は室内起し圖等に至りては一
ツの參考とすべき好圖畫甚だ寥々たるは實に悲むべきこ
とたりとす余は之を思ひ曩に日本家屋構造書を公にし聊
か斯道の欠陥を補ひたりと雖も其内容は構造法を主とせ
しものかれは間取裝飾姿圖等に至りては僅少なれば之が
補足せんが爲從來の貴顯縉紳の邸宅を始め現時和洋折衷
邸宅農家商店旅館等其數百數十有餘圖を集め一卷となし
斯道及世の好譜請家の參考となさん

明治卅九年十二月

編者 識す

日本家屋
構造續編

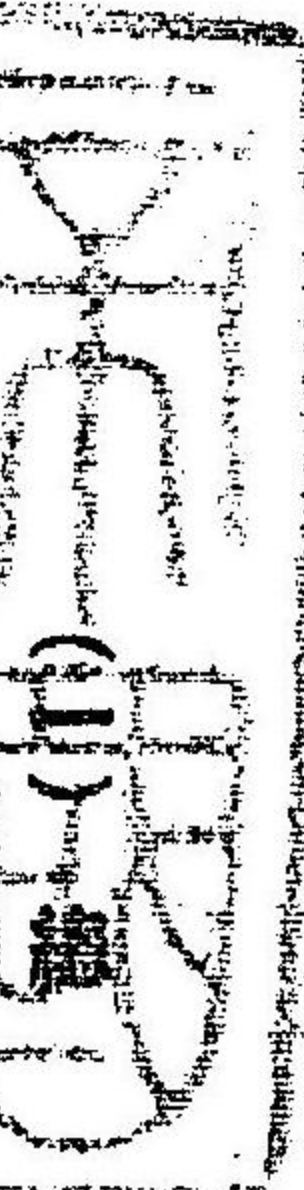
間取裝飾集 目次

- 一 總 說……………一
- 二 床、棚、書院等の位置及之に適する
良材……………五
- 三 壁塗色彩配合……………七
- 四 床の種類と欄間及窓……………九
- 五 家の方位により配置圖……………十一
- 六 五家相實大意……………十二
- 一圖舊大名表門兩出番所付配景圖
- 二圖御所之正門 姿圖
- 三某邸表門 配景圖
- 四 右某邸玄關先 配景圖
- 五 右邸居宅裏面 配景圖
- 六 右邸庭園之一部 姿圖
- 七 紳士住宅正面 姿圖
- 八乃至廿圖 各住宅平面及配景圖
- 廿一至廿八圖 各種平面及姿圖
- 廿九乃至卅一圖 和洋折衷住宅平面圖

目次終

- 卅二圖 和洋折衷住宅 姿圖
- 卅三乃至五十二圖 室内各起シ圖
- 五十三圖 紳士邸宅裏面 配景圖
- 五十四、五十五圖 住宅姿、切斷圖
- 五十六圖 土藏 骨組圖
- 五十七乃至六十圖 各玄關之姿圖
- 六十一、二圖 茶室 姿圖
- 六十三、六十五 各商店姿圖
- 六十六、七圖 銀行、寫真館配景圖
- 六十八乃至七十一圖 和洋折衷家屋姿圖
- 七十二圖 病院 姿圖
- 七十三、七十五圖 各旅館配景圖
- 七十六、七十九圖 紳士邸宅配景圖
- 八十乃至九十圖 庭園及公園等之建物

齊藤兵次郎編纂



説

住家を構造するは常に雨露を防ぐ爲めのみならず其實貨什器を保護し其生活を愉快に送らんとするあり愉快の感を得るは經濟的堅牢的要素より組成する衛生便利に適合する家屋にありとす建築如何に壯麗なるも不便利にして採光換氣其當を得ざれば奚ぞ快樂を感ずるを得ん家を建設せんとするものは宜しく此に留意して先づ其地質の良否邊景の如何及び採光換氣間取の配置等より排水給水に至るまで切に研究すべからざるものとす

地質土地高燥にして砂層なるは住家に適すれども古池沼の埋没したる地両丘間一帶の低地其他一般低地にして粘土質のものは健康に適せず蓋し低地は悪水滯溜し易く加之粘土質は熱を吸入すること比較的少なく且濕氣を吸収すること他層より多くして其重さの百分の二に達するとあれども砂層は之れに反す故に粘土層は寒くして濕氣多く砂層は暖にして濕氣

少なし

邊景。市外土地撰擇の自由なる所にありては容易に人造的風致を構成し得べしと雖も尙周圍に存在する天然の風景を利用するは建築設計者の責にあり眺望瀾達にして新鮮の空氣を吸入し精神を爽快ならしむる程愉快なるはなし實に住家の目的は之にあり然れども市中商買の如き熱鬧常に塵埃を生し或は大厦宏樓の前面に屹立し光線を遮らるゝが如き箇處に住居せざるべからざる場合にありては窓其他間取の配置を宜しくし空氣の流通を完全にし可成的光線を多量に取るの構造を考へざるべからざるなり方位我國夏時は東南風多く冬は西北風多けれども地方によりては山脈の方向海岸線の如何によりて多少其方向を異にするものとす且氣候寒熱の度によりて家屋の位置方向を異にすべきものにして本邦の如き溫暖なる所においては大差なしと雖も尙其位置如何によりて好和なる處も不好和となるものなれば宜しく位置を撰擇し風の方向により室内空氣の流通を利用し樹木を植て夏時來襲する暴風の防備を施設することを要す

間取。住家の内部は尙一都市に於けるが如し都市は公共の性質を有する建物一個人特有に屬する建物公共の道路公園あるが如く住家にも應接室

容間階段廊下便所等の他人の入るを許すは勿論裝飾をなして却て來客を歓迎するの趣向をなすあり居間臺所押入物置等の如き毫も外來者をして窺ふ事を許さざるの性質のものあり而して宏厦にありては完全に室を配置せんには數十種の室を要すれども現今中等以上の住家にありては左の室を要す即ち玄關脱帽室應接室客間次間主人居間次間主婦居間次間寢室老人室佛間茶の間子供部屋書齋書生室下女部屋下男室臺所湯殿便所物置土藏等とす然れども之は家族數によりて大に斟酌を加ふるべきものにして左の平面圖を参照すべし

玄關は家屋正面に位して衆目の集注して其品格を顯はす所なれば不体裁なく嚴肅に構ふることを要す其方位は東南或は東方を可とすれども又北に向ふもよし

客間は賓客を此に誘ひ談話應接し或は饗宴等に使用する一種の表座敷とする家屋中尤も肝要なる室なれば空氣の流通を能くし方位を撰び邊景を利用し内部に裝飾を施し前面に庭園を設くるを常とす其方位は南面するを良しと云ひ或は南面すれば客をして植物の裏を觀せしむるものなれば北面するを可とするの説あれども本邦の如き來訪時間の定まり無き所に

ありては客間の北面するは陰氣滿ち來客をして不愉快の感有らしむる蓋し多かるべし裝飾は床棚には掛け物花瓶香箱置物等を陳列し欄間には彫刻を施し書院を設けて美術的障子組子をなす等とす尙上等客間にありては第二十一圖乙の如く座敷と椽側との間に入偏と稱して疊廊下を設け此所より客を座敷に誘ふものとす

次間は主要なる間に連り平時は襖を以て境界をなせども宴會等多人數の集合して其狹隘を感ずるとも襖を撤し一廣間を得るの目的に具へたるものにて普通二の間三の間等あり其周襖等に畫く繪畫等によりて命名す書齋は尤も閑靜にして正東又は東南を可とす寢所は食物を調理するの場所なれば清潔にして下婢の働くに便利なる位置を要し勉めて採光換氣に注意し北向は冬季寒冷にして日光の直射するなく從て板間等の濕潤を乾すの暇なし西向なれば夕日の直射甚だしく夏時にありては調理用火氣と混じて炎熱堪へ難く食物の腐敗を速かならしむるものとす

廊下は通風採光充分にして來客通行の際家人の狀態を見る能はざる様最も便利なる位置を取り湯殿便所は殊に清潔を旨とする所にして可成座敷より見へざる所特に便所は庇屋造りとし土藏は本家と隔離せしめ椽側は

四

交通用のみならず雨天の時は或は子供の遊戯場となす如き事あれば東南方に設くるを貴ふ(椽側中普通三尺とせども中等以上の住宅にありては四尺又は六尺位とすべし)同所は庇し建にして椽の上に木小舞(巾一才内外厚六七分位)を三四寸間に横に打裏板を立張となし屋根裏天井となしたるは最も美なり

我國の習慣上來客に對し別に食堂の設けなければ其客室に於て酒食の饗應をなすを常とすれば其室の大きは横二間半以上となさざれば其狹隘を感すべし何となれば(片側に客の座蒲團二尺と膳の大き一尺五寸又次の膳一尺とすれば四尺五寸と)なる故最も狹隘室にても客室として十帖若くは十二帖半餘になさざればからず尙次の間及三の間等を續くるを可とす

(二) 床書院等の位置及之に適する木材

通常床の間は椽側附きに設け又椽に連らならざる座敷は左床を正式とす又床柱は角材にして室内他の柱と同一のものを正式とすれども現今唐木の類にて丸柱を用ゆること大に流行せり床框の正式なるは蠟色塗にして床の内部を疊敷とす

落し掛の木材は最上なるは桐柁桑、黒柿等なれども神代杉の木理(空目)或は杉柁等も良し其高さは内法長押の上より床柱一本以上三本位上げ落し

五

掛の下バと定む同内部の天井高さは床框上バ及落し掛下バ間を五等分し其一ツを落し掛上バより天井廻り縁下バ迄の高さとす同天井板は杉板若しくは同上木理板等の鏡天井となせば最も美なり
 附書院は床と矩の手に椽側に張出し設くるを普通とし其巾一尺三寸位迄にして柱建を正式とす略式なるは妻板建にして其巾七八寸より一尺位とす右高さは其室の内法高さを五等分して其一ツを書院地板(棚板)上バとし其三ツを中障子の長さ即ち中鴨居の下バに定め以上一ツを欄間の高さとする

床脇きの棚は通常地袋、違棚、袋戸棚とし袋戸棚の内法高さは九寸以上九寸五分位地袋高さ一尺二寸若しくは一尺五六寸位にして違棚の高は地袋板上バ及袋戸棚板下バ間の中央を違棚の下板ヒバに定め同二段共の高さは床柱直経程の高さとす木材は通常多く槻板を用ゆれども上等は槐、桑、黒柿等とし違棚板は特にアラ、ギ(杉の類)を用ゆるは最も上品なり(現時は多く唐木板を使用するを見る)袋戸棚の前に於て本柱との明きは普通本柱二本以上三本位の明きを取り同所上へ天井は杉杵目板を流し出しとなし鏡天井となすも可なり

而して鴨居、長押上へ天井との間だを小壁と稱す此所の高さは其室の畳敷に三又は三半を乗じたる敷を其高さとす例は六帖の座敷なれば一尺八寸又は二尺一寸となるが如し尙京間(柱間六尺五寸の時)の如きは四尺五寸位となすもあり此場合には蟻壁を設け天井は猿棒又は格天井とす

天井の竿縁は床の間に向ひ其左右に長く掛渡し床に其木口を向けべからず又天井板の張方も其座敷に入るべき方向即入口に板の厚さを見るを正式の張方とす是板の羽重子を見るも一の裝飾ならん(天井板の良材は薩摩産の杉材に黒部杉等之に次尙杉系杉板等何れも巾一尺五寸以上を長とす)

(三) 壁塗色彩配合 中等以上之住宅

本邦従来諸家に於て専ら好みし壁色の一例を左に記す

- 一 上等家屋の外部軒下通り即ち庇し上及玄關等の壁は白漆喰壁にして色壁は用ひず
- 一 室内天井板縦板或は檜板の如き白色ならば其小壁の色は根岸土上等薄色(藕色)同地附壁の色は黄大津の濃色か又は玉子色(即黄色)の漆喰壁とす
- 一 天井板杉板のとき小壁は金剛砂又は薄黒砂等の砂壁とし同地附壁は

濃茶色の漆喰壁とす

一 天井板神代杉或は黒部杉等のとき小壁は薄茶色亦は薄緑地に金砂等を蒔く地付壁は焦茶色の漆喰壁とし亦襖等も成べく壁色と同種のものにして塗より少しく濃色なるものを用ゆ

一 床の間内部の壁は抽物を一層目立たしむる様銀砂及上等鐵砂等とし最上等は淺黄色の絹糸を短く切り塗込ことあり床脇棚及書院等の壁は床の間と同一とす

一 最上等室にして蟻壁を設け格天井となす等は白の漆喰壁とす廊下の壁は淺黄色或は黃大津亦は鼠大津壁何も漆喰塗とす

一 一側の内部は焦茶亦は玉子色或は薄鼠色等とす

一 料理店及び貸席等の室内小壁は松葉色(綠)亦は薄緑地に青貝塗或は茶色等とし地附壁は薄淺黄色若しくは薄鼠の漆喰塗其他様々の色壁とす

以上は本邦人の最好みの配合なれ共尙現時の色彩配合の説は天井板杉柱の如き薄紅色なれば小壁の色 薄緑(松葉色)其他地附壁は小壁より稍濃綠色亦襖は壁面より尙一層濃綠色と三者の調和を計り徐々に變化せしむる

良と云ふ

各種色土及色砂等は何れの國にても産出すれ共一名大坂土と稱し市場の壁材料販賣店に至れば買求むる事を得

尙右色彩配合は其専門家即ち左官職に一任するものとす

(四) 床の種類欄間及窓

- 凡床には正式と畧式ありて大別すれば七種位となし得
- 一本床とは即正式なる床にして疊上バより上へに框を入れ其内部に疊を敷たるものにして柱は角柱なるもの
 - 二蹴込床とは床のときと同高さに地板を入れ其下に蹴込板をはめこみ框に代用するものにして畧式のものなり
 - 三踏込床とは床の内部板上バを疊と均一なるものを云ふ
 - 四袋床とは床の内巾より横に入込み床脇きに小壁を設けたるものにして小堀遠江守政一の好みたるものと云ふ
 - 五洞床とは床の内方左右及天井又は落し掛共壁の塗廻しとなしたるもの片桐石見守貞昌の好みしものと云ふ
 - 六釣床とは室内の一隅天井より束を下げ落し掛を入れ折廻し釣壁とな

したるもの

十

七織部床とは室内のある壁中天井の廻り縁下々に巾六七寸位の板を柱と柱間だ横に挿こみたるものにして右二者共古田織部正重勝の好みと云ふ

右四乃至七は何も古諸大家の好にして多く茶室に設たるも今は専ら小座敷に用ふ

室内小壁の欄間模様には種々あり箴欄間と稱するは即組子障子様のものにして厚一分五厘位の組子を四五分程隔て恰も織物の箴の如く組立しものは最も室の嚴格なる風を添ふ又板入欄間は種々の彫刻透明等をなし或は角柄窓を設け引違障子とし又は角切形及楕形等は壁の塗廻しにして何も座敷と縁側との境に適す此場合には外側より折釘を打掛障子となす凡下地窓は通常の座敷に多く用ひらるものなれども皆茶室のものより應用したるものにして其小舞の掻方は大小共に指先三本入る程の明とし堅長窓の時は各小舞の間堅を長くし又横長窓は可成正四角形に見ゆる様にして竹の組方は寒竹紫竹萩等は末を上へ向け女竹は打返して使用し其組方は一、二、三、四本を組み合せ決して五本は組む可からず而して藤蔓の掻方

は堅長窓の時は外方より横長窓は内方より掻き初むるものとす外部に設くる窓は東南方は大にして西北に設くる時は小さくすべし以上は間取注意床棚及室の高さ等の概略を記せしものなれば其建物の定度により宜しく設計に注意すべきものとす

尙室内各部割合及建地割等は日本家屋構造篇に明記しあれば茲に略す

(五) 家相方位

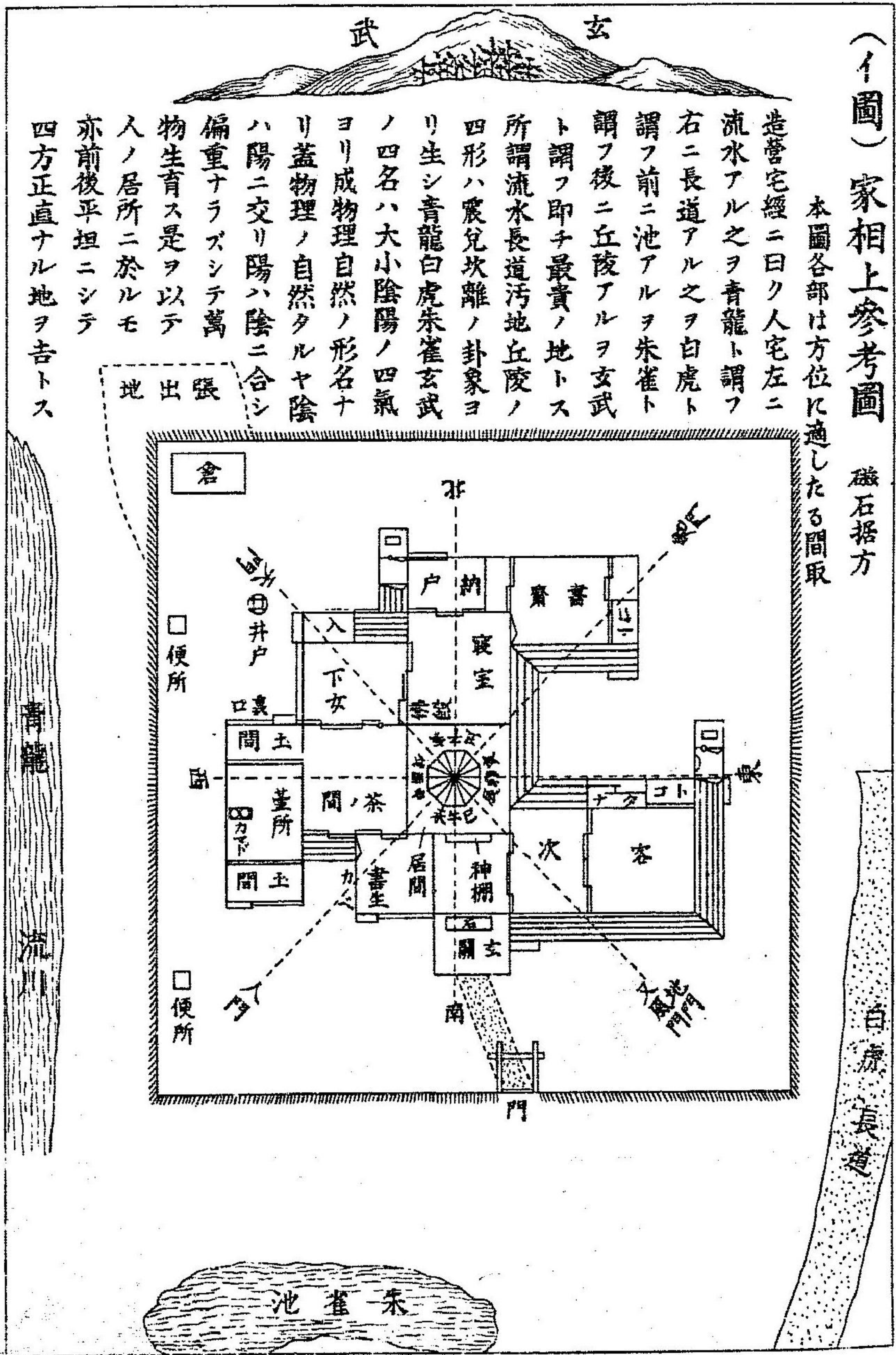
附記

我國古來より間取配置に付き家相方位云々を唱へ之を尊む輩有りと雖も廿世紀の今日家相方位の如き實に舊弊極り其住宅に不便を與へ信すべからざる説なれ共習慣として現時以て間取配置圖作成するに當り之を信する輩往々あれば家相學中より其大要を撰み第Ⅰ圖と共に記載し以て參考に資す(礎石の掻方は該圖中あり)

(イ圖) 家相上参考圖

本圖各部は方位に適したる間取

磁石揺方



象吉通書に曰く宅地後高く前下るを名て晋土と云ふ之に住する人は吉なり、前高く後下りを名て楚土と云ふ之に住する人は凶なりと按するに是南面に備たるを正とするの説に因て前後高低の吉凶を論せしものならん彼住宅は南面を正と云るゝは畢意陽氣に向ひ陰氣を避るものにして陰陽避趨の術は相法の本なり

東低く西高く南低く北高き等の地は東方南方の陽氣を受の理なり故に東向辰巳向南向杯にして後高き地 乃西戌亥北等の高き地形となるゆへ大吉なり亦西及北向にして後高き地は乃東辰巳南等高き地形となるゆへ大凶なり

四方の連山次第に高く其中央平坦にして巡の山腹に遠からざる地は大有福の相とす亦四方低く空々として中央のみ高く巡によるものなき地は大凶相なり總て地は其濶狭に應じ宜しく氣の止るべき山岡樹木なければ萬代不易とは云難し

- 一、地勢により往還の行當りに住居する事あれど是は凶なり故に其門及立關共道路の中央より多少右又は左によせ建るを良とす
- 三、宅地の東方及西方の中央特に凸りたる地勢は凶なりとす

三、南方の中央の凹みたる地は良地とす

四、北方の中央張出したる地勢は吉なれども其地面廣くして建物西によりて建るときは凶なりとす

五、土藏の位置は主人居間より戌亥の方向に建るを戌亥藏と稱して大吉相と云ふ。なれども之は其地勢正直の地面の時にして若し戌亥の方特に張出したる地面は其張出の所に藏を建つるは強張の象にして極めて凶とす。但し之に限らず總て東西南北天地人鬼の八官共張出したる備は即ち強張にして種々の難あるものなり

六、宅地の丑寅の方張出し又は欠けたる地は凶地とす亦辰巳の方張出したる地は良地とす

七、門及び入口の方向は辰巳、戌亥を大吉とす次て東南も良なれ共其正當より多少左右によるを可とす西北の二方は凶なれ共其正當を除けて壬癸、庚辛の位置なれば良し未申の向は大凶なり然れども何れの方面にあるも各其正當を除ける時は妨なし

八、門、玄關、住宅等の構造をなすに當り其高さ及び巾等の寸法の良否のあつるものにして乃唐尺と稱して本邦の曲尺表目一尺二寸の長さを八ッ

割として即ち一寸五分にして唐尺の一寸となる是に吉凶の文字を附し（從來の曲尺の裏に附あり）上の一寸を財二寸を病三寸を離四寸を義五寸を官六寸を劫七寸を害八寸を吉とす。有る八星の司さるものと云ふ（即ち九星の類とす）今間口柱真々六尺なる門を建つるとすれば唐尺にて五度計りたる寸は六尺にして即ち吉の寸に當り之れ良の寸となる亦三尺なるときは唐尺にて二度計り残り六寸となるべし之れ六寸は唐尺の義の寸に當るを以て良とす右は其柱間或は高さ等を唐尺にて何度計り其残りの寸が唐尺の何寸に當るやを見て吉凶の寸を定むるものとす

九、玄關の位置は表門の正當にあるは凶にして右或は左に寄て建つるを良とす

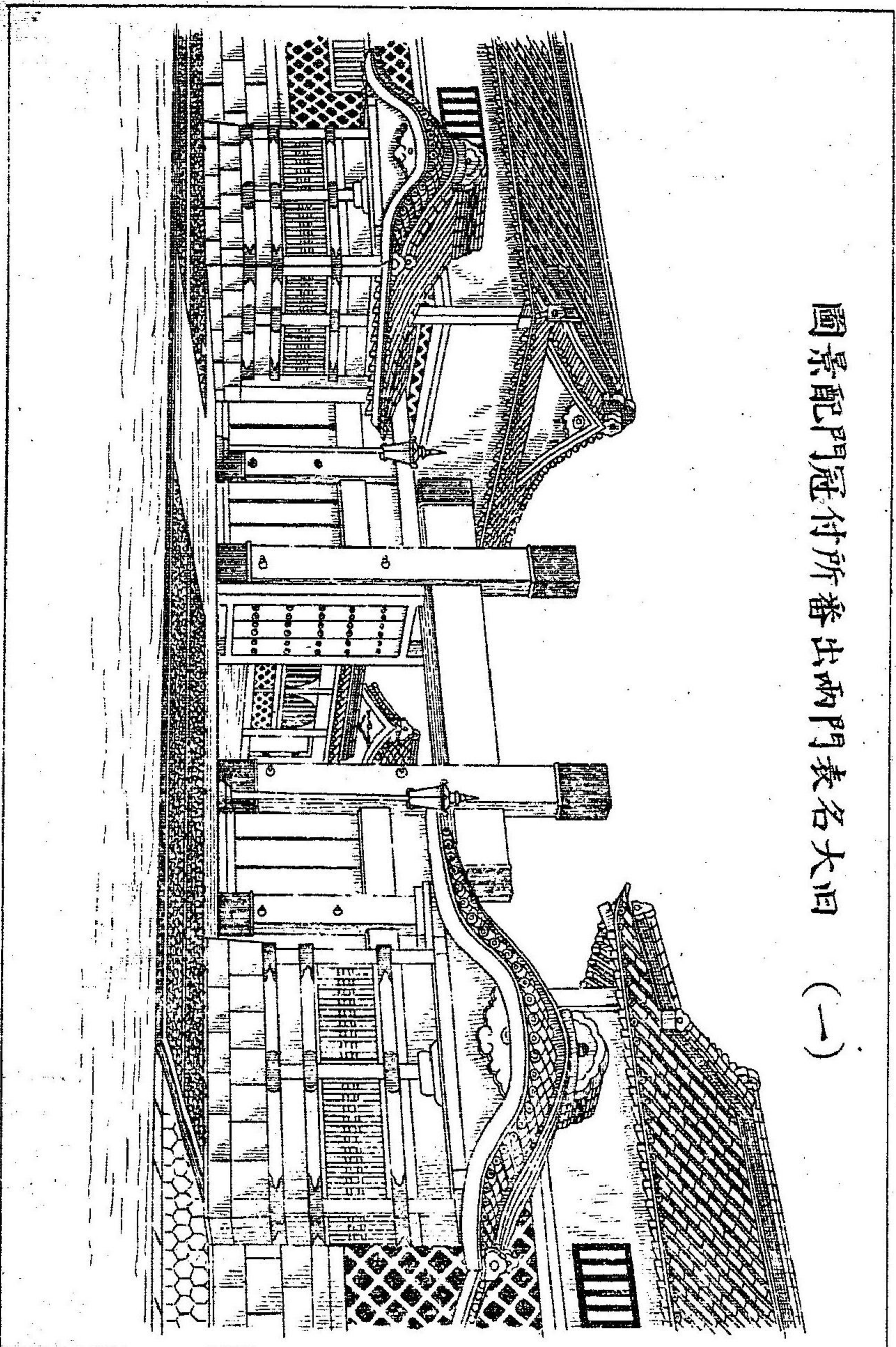
玄關又は商家の店等は未及申の方向を受るは凶にして止むを得ざる時は正當を避て建つべし亦戌亥或は辰巳を受る構は大吉又東西南北を受る構も次で吉とす

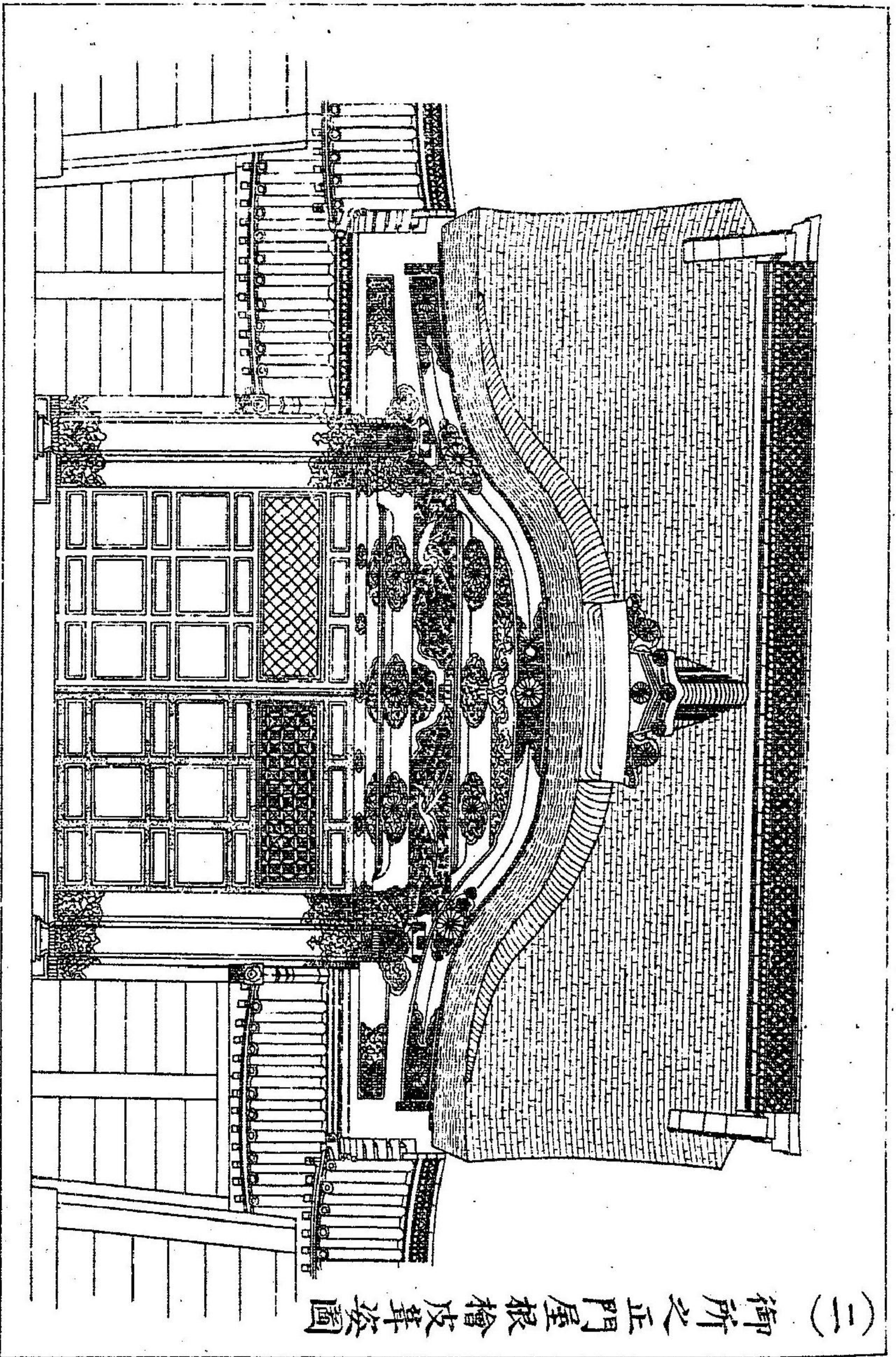
十、神棚は可成家人の寢室内に設けるべからず其方向は東南の正當を最吉とす辰巳及び北向も之に次ぐ未申、丑寅に向ひては神徳なきものぞ知るべし

- 十一、佛壇の位置は辰巳及び戌亥を吉とす未申の二方は凶なり但し其方向は東西に向ふを吉とす
- 十二、竈座は未申及び其室の中央の所に置は凶なり東西南北の正當及び辰巳戌亥を除きて置を吉とす亦其火口は東辰巳及び未の方向を吉とす凡て竈の焚口は往來即ち門外より見ゆるを凶とす
- 十三、井戸は東西南北の正當にあるは凶とす辰巳及び戌亥の方向にあるを最吉とす
- 十四、圃は井戸より二十尺以上離れたる所にして東西南北天地人鬼の八官及び十二子の正當を除くの外は皆吉とす
- 十五、凡四隅の名稱たるや戌亥を天門是に對する辰巳を地門又は風門と稱へ人は天地の間に立つ故に未申を人門と云ふ丑寅は萬物の終始を包みたる所にして鬼門と稱へ住地居室の鬼門なる隅は張出し又は欠け入らず其備方形にして常に清きを良とす圃等凡て不淨のものを置べからず之鬼門は貴重の方なるを以て之を慎むものとす故に此所は壁或は押入等となし開放しとなすを凶む又は空地となして樹木を植込み置も吉し

- 十六、礎石の据所は住家としては其主人の居間の中央に据るを可と云ふの説と又其家屋全体の中央に据るを可と云ふ説もあり何れが眞なるや詳ならざれ共要するに後説を可とす是により各方位を定むべし
- 十七、圃は北向及び北窓等は凶とすれ共此場合には他の建物北にあるか又は樹木を植へ覆ふときは妨げなし
- 十八、浴室は未申の方向に設くるは凶なり其他東西南北及び辰巳戌亥の正當を除くの外は妨げなし
- 十九、門立關大黒柱等の根接をなし置は宜しからず
- 家相術大要以上の如し

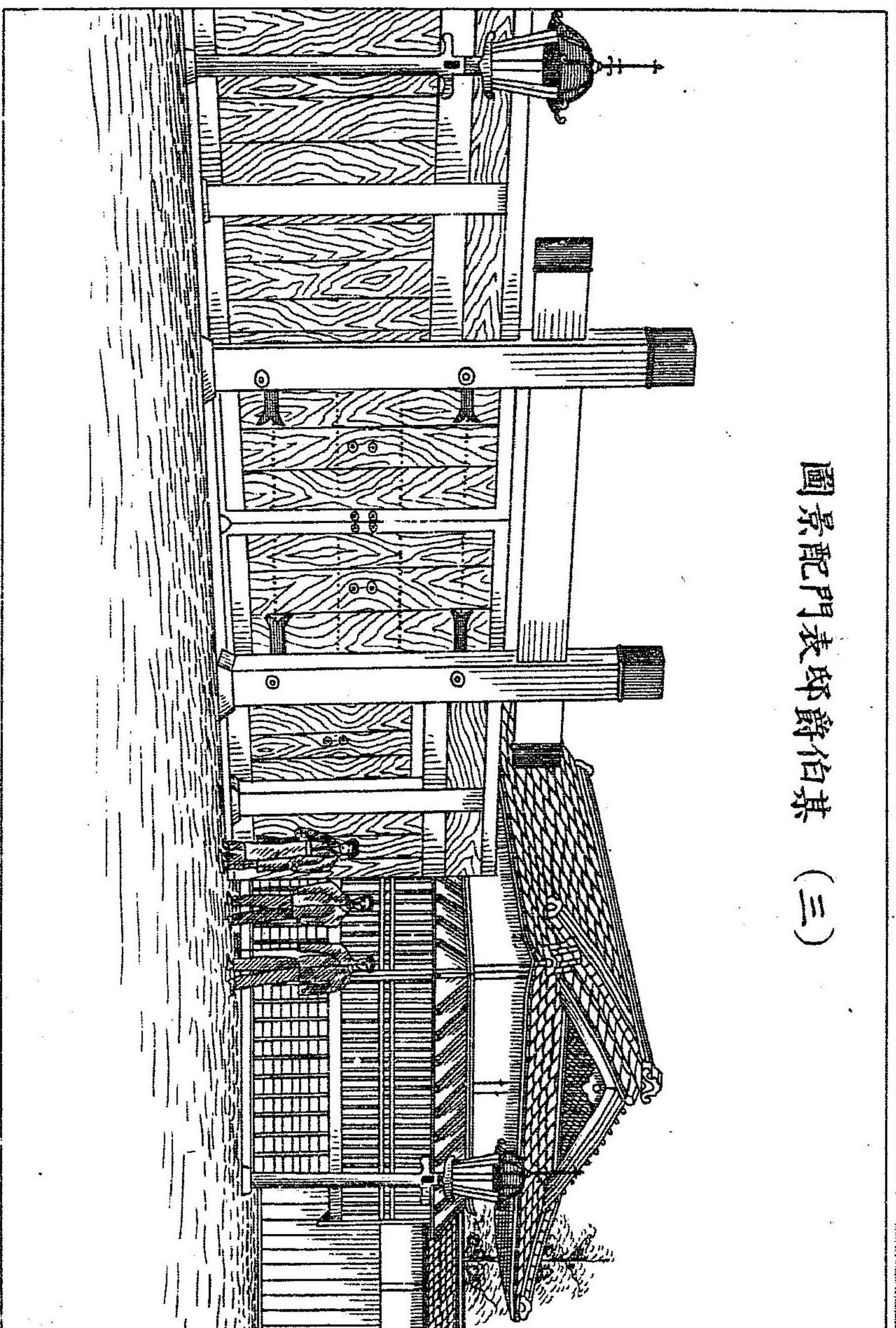
圖景配門冠付所番出兩門表名大旧 (一)



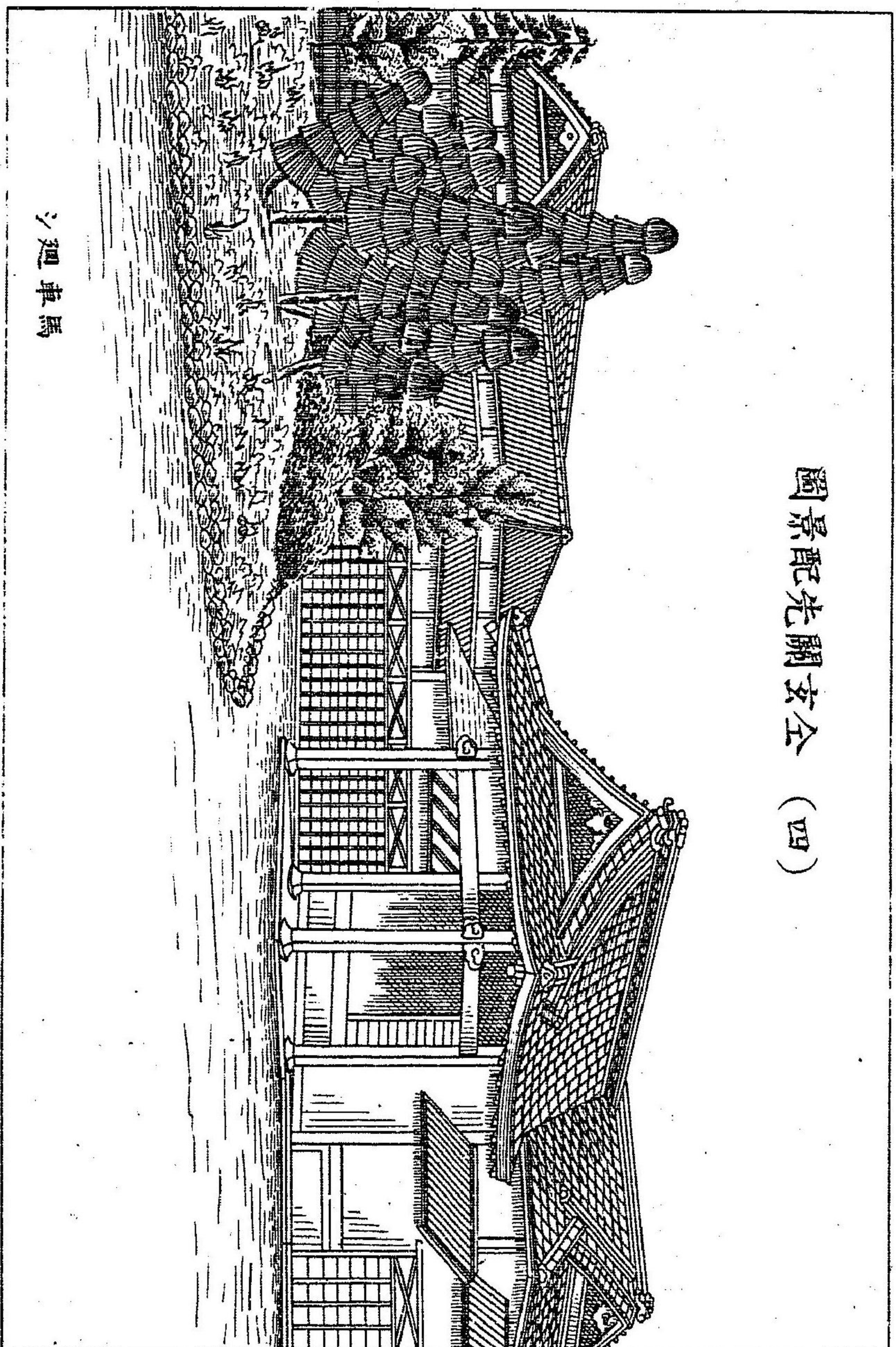


(三) 御所之正門屋根檜皮葺姿圖

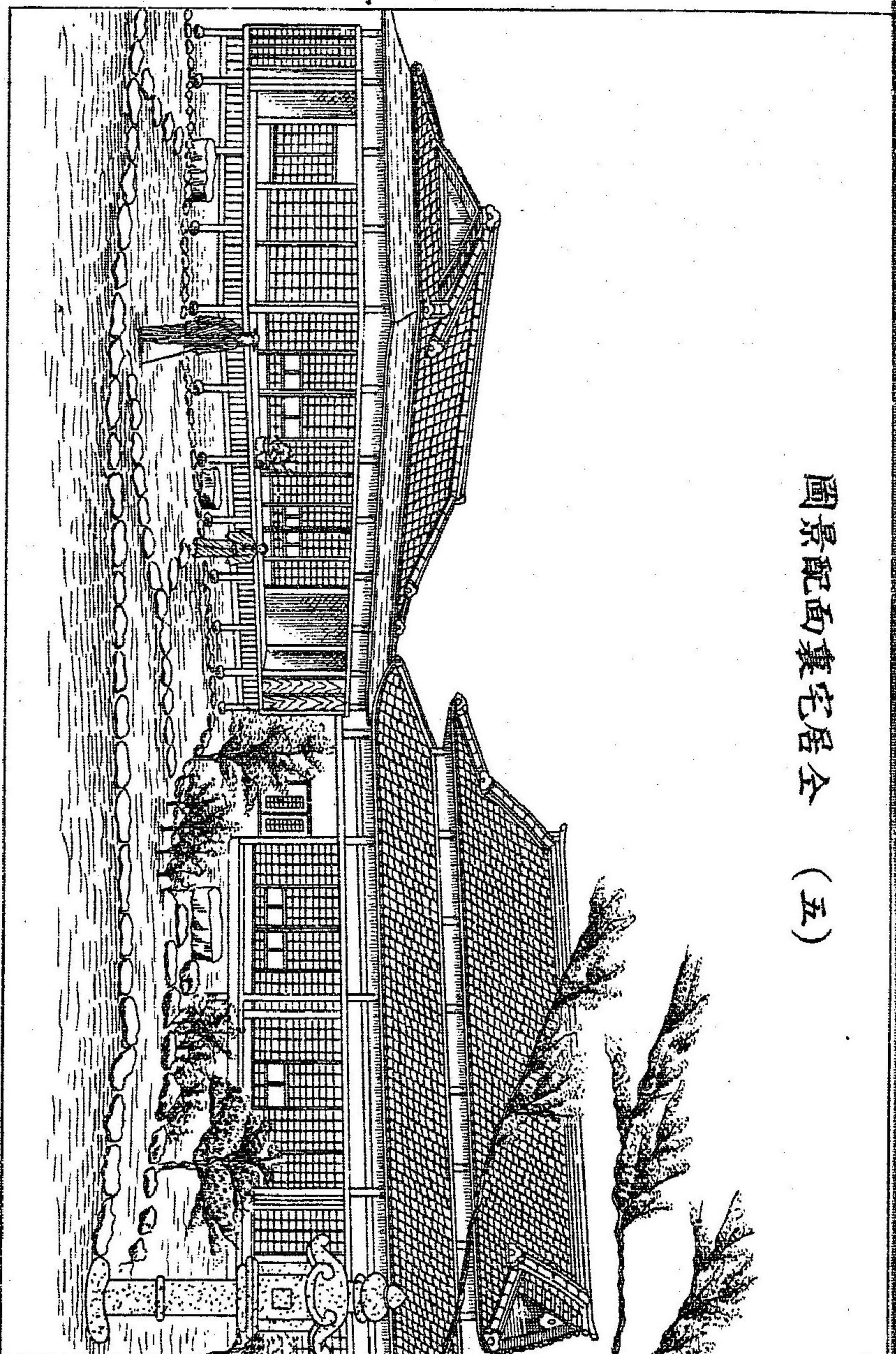
圖景配門表塚爵伯某 (三)



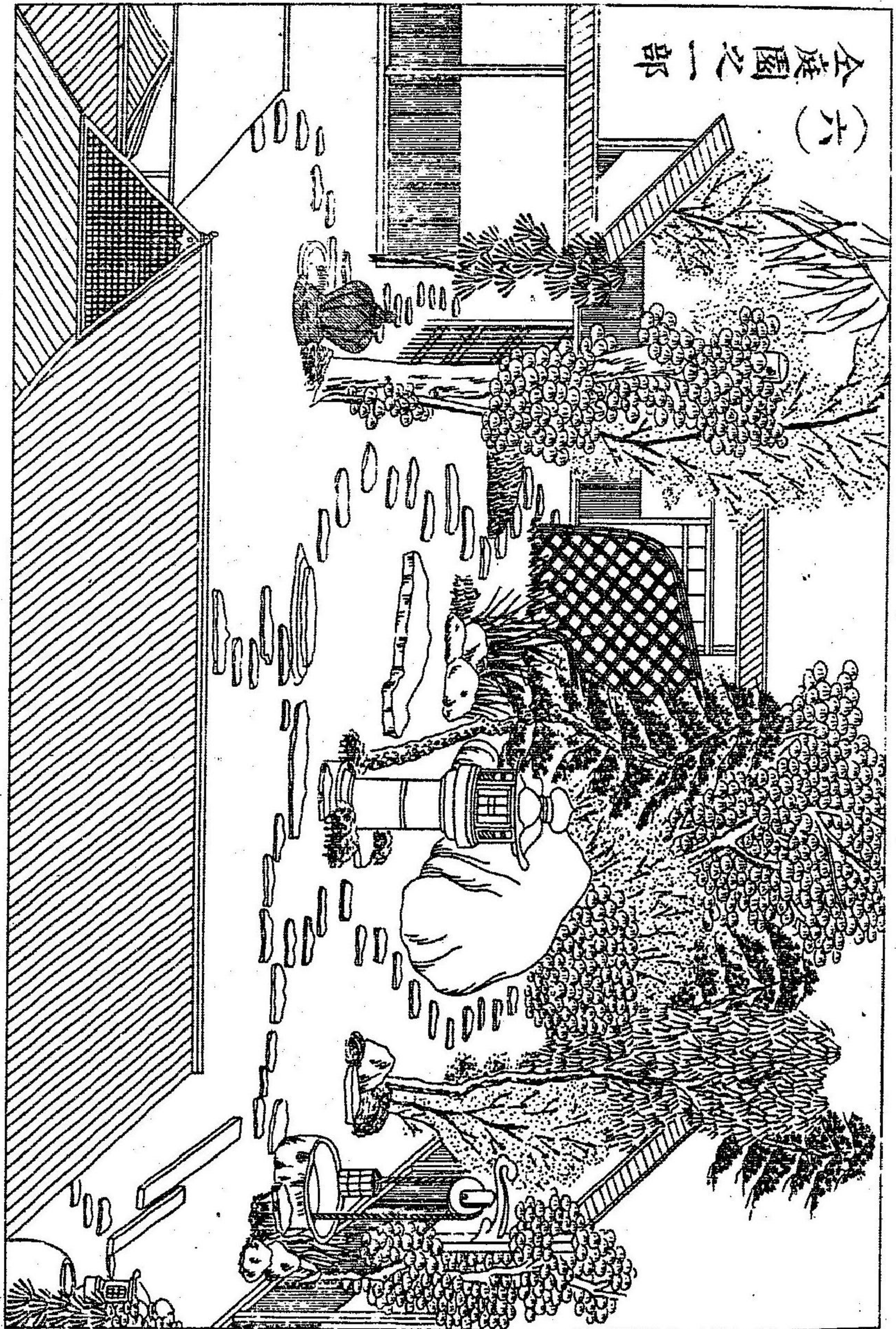
圖景配先關玄全 (四)



馬車廻り

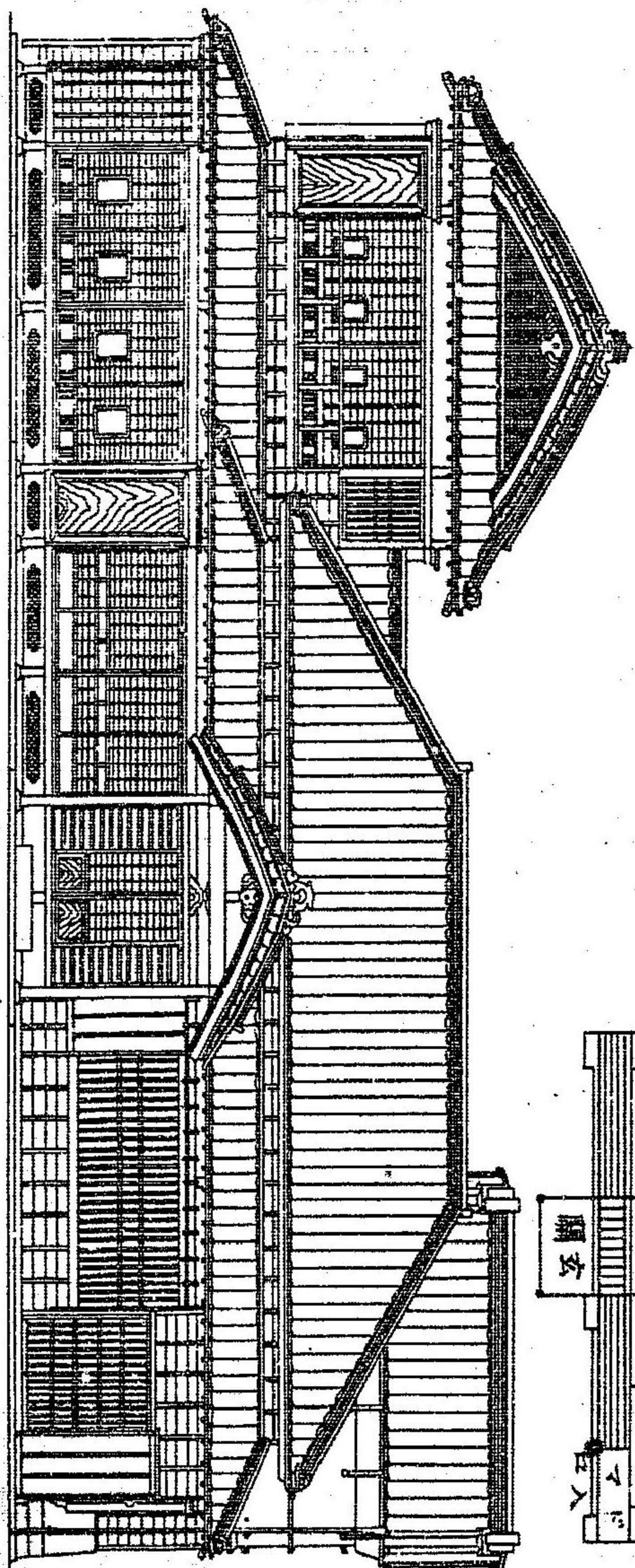


圖景配面裏宅居全 (五)

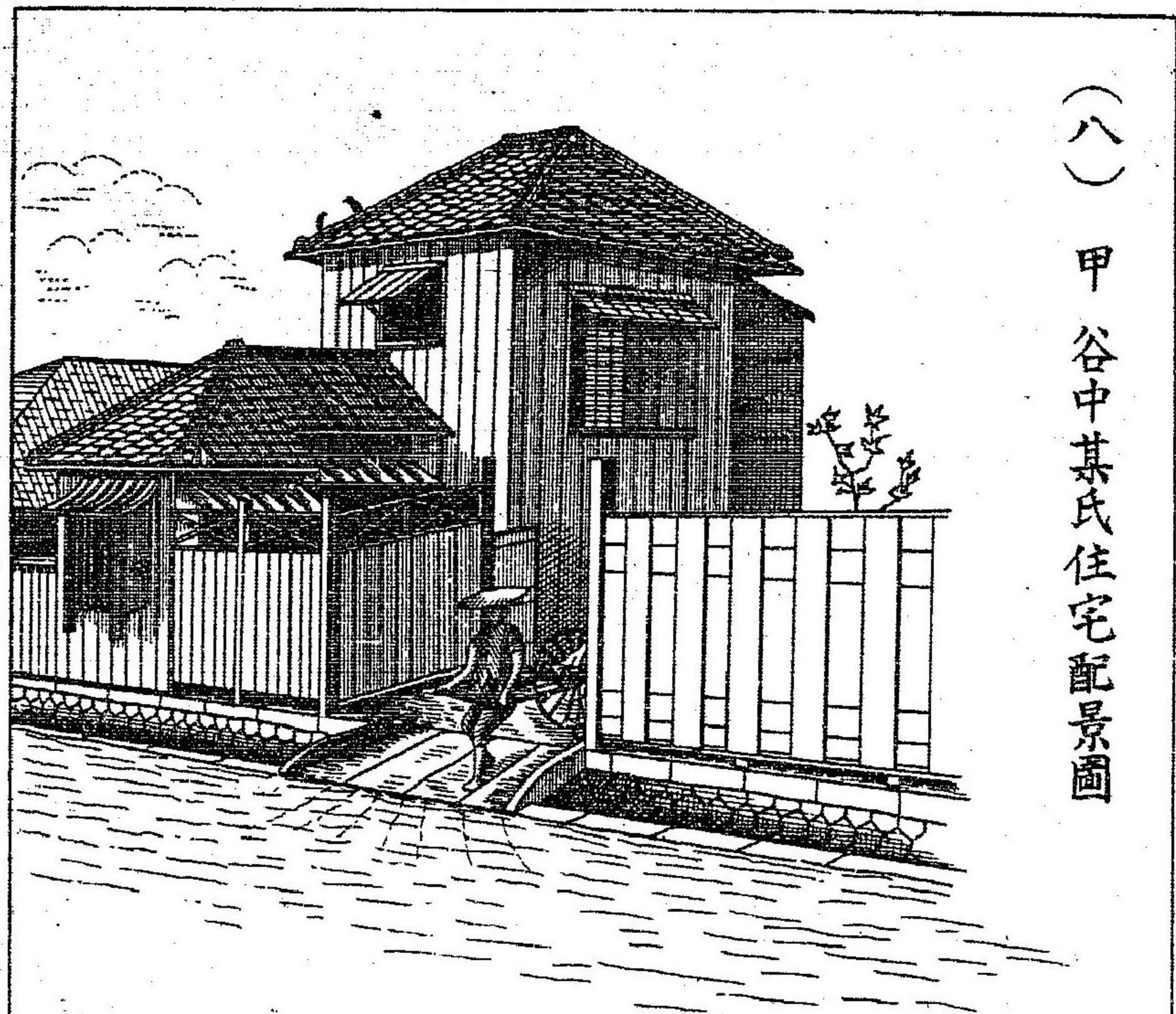


圖姿面正宅住士紳 (七)

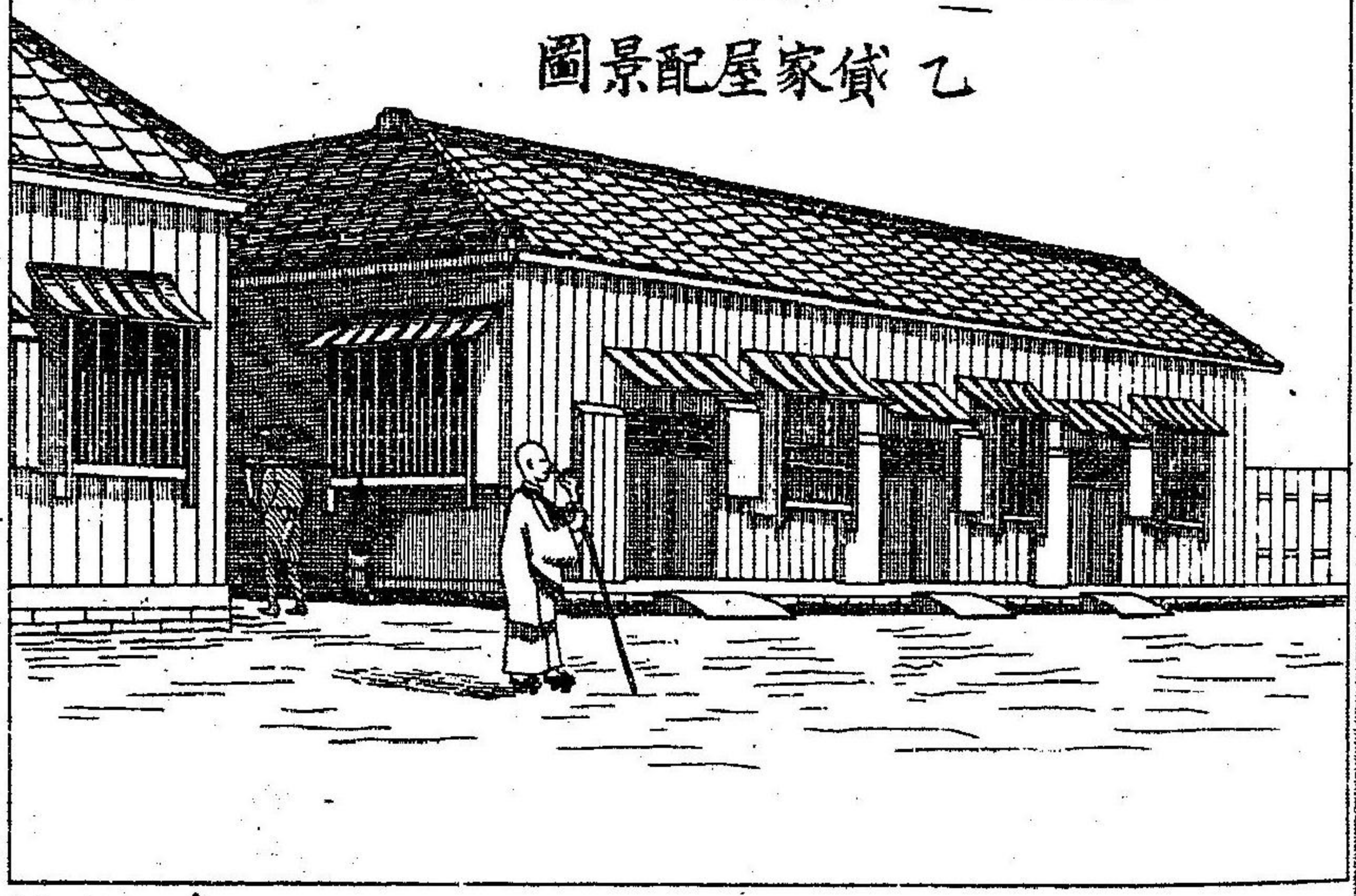
階下七坪
階上十五坪
去藏五坪

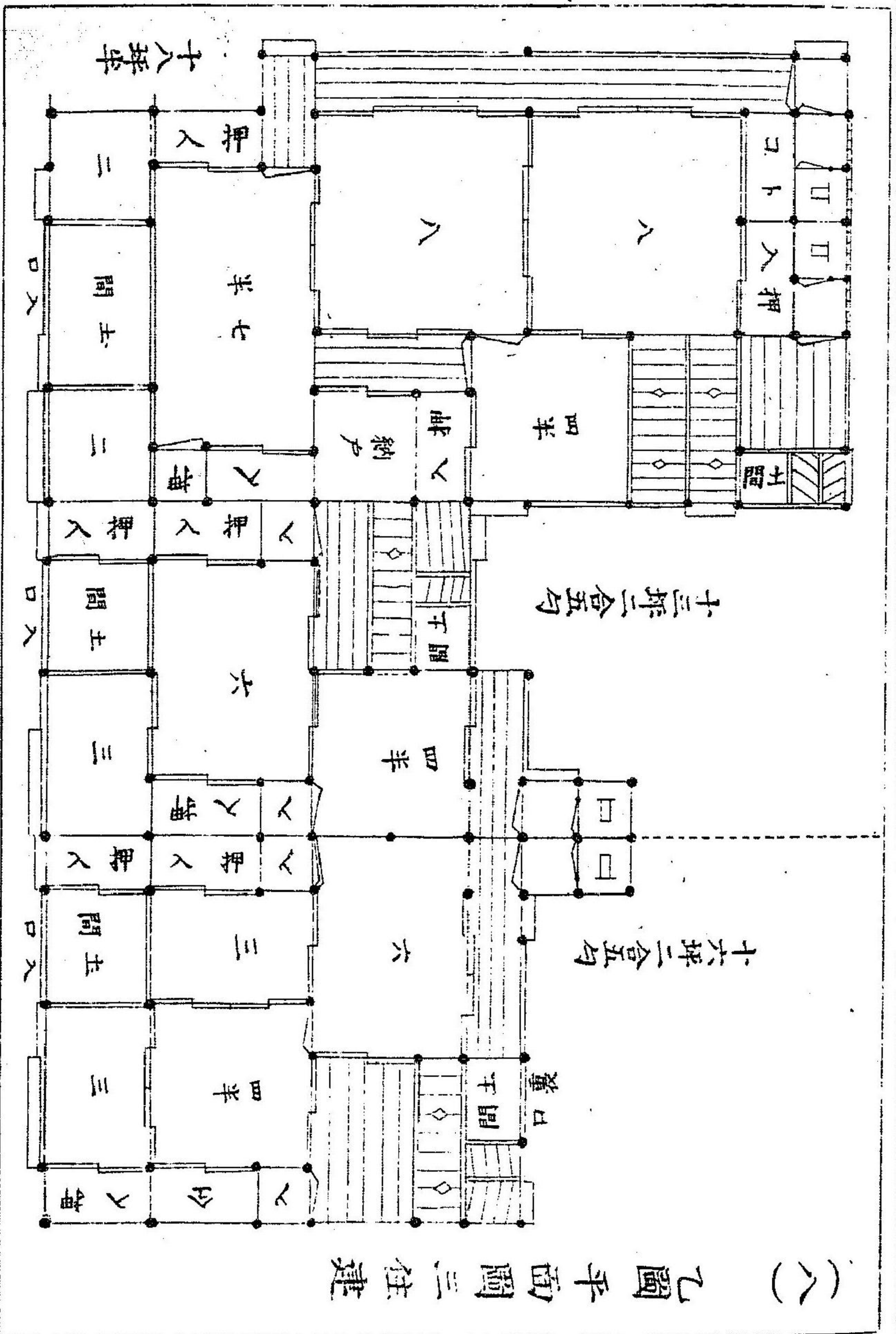


(八) 甲谷中某氏住宅配景圖

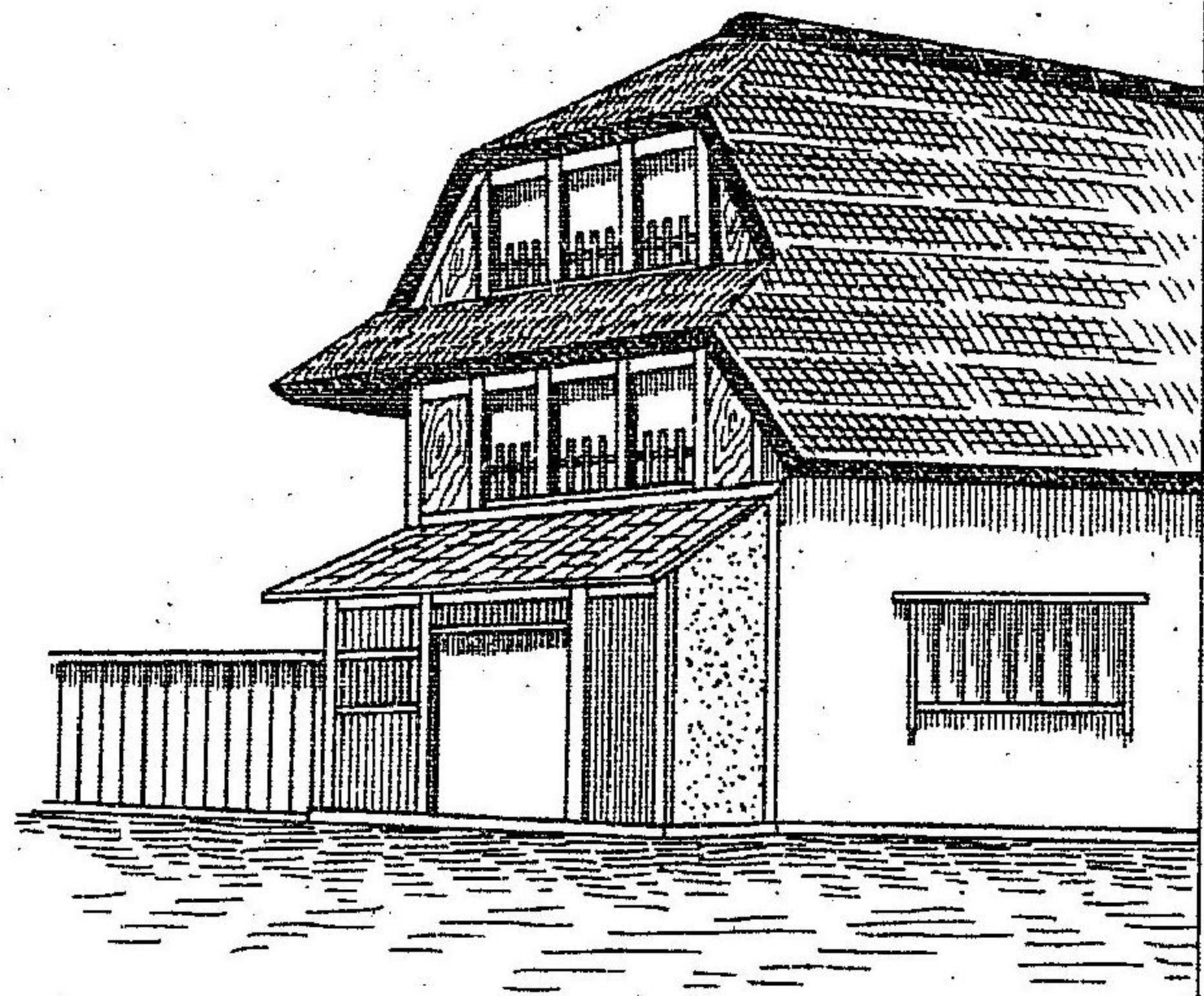


乙 貸家屋配景圖

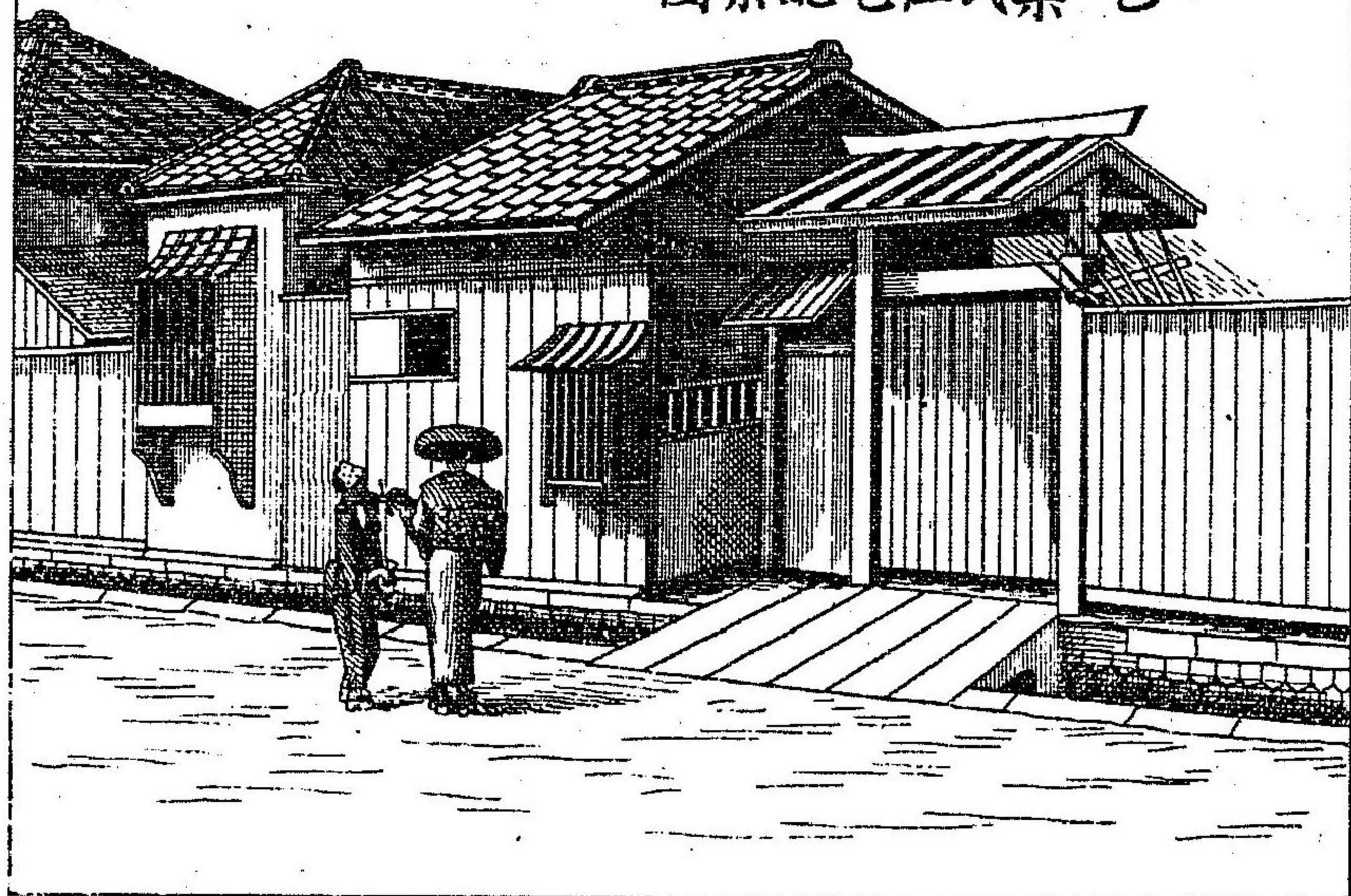


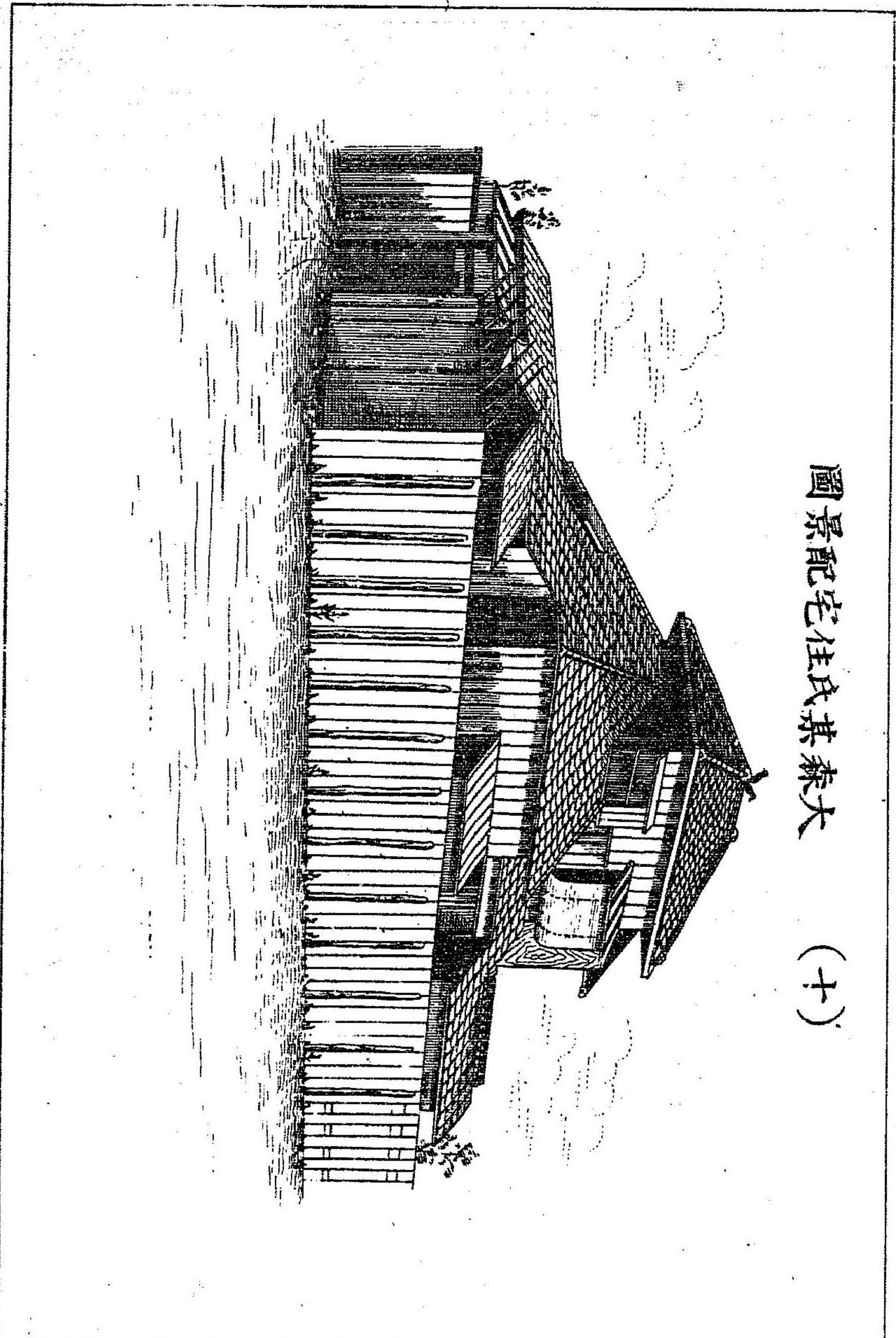


(九) 甲 埼玉地方之住家三階妻入圖



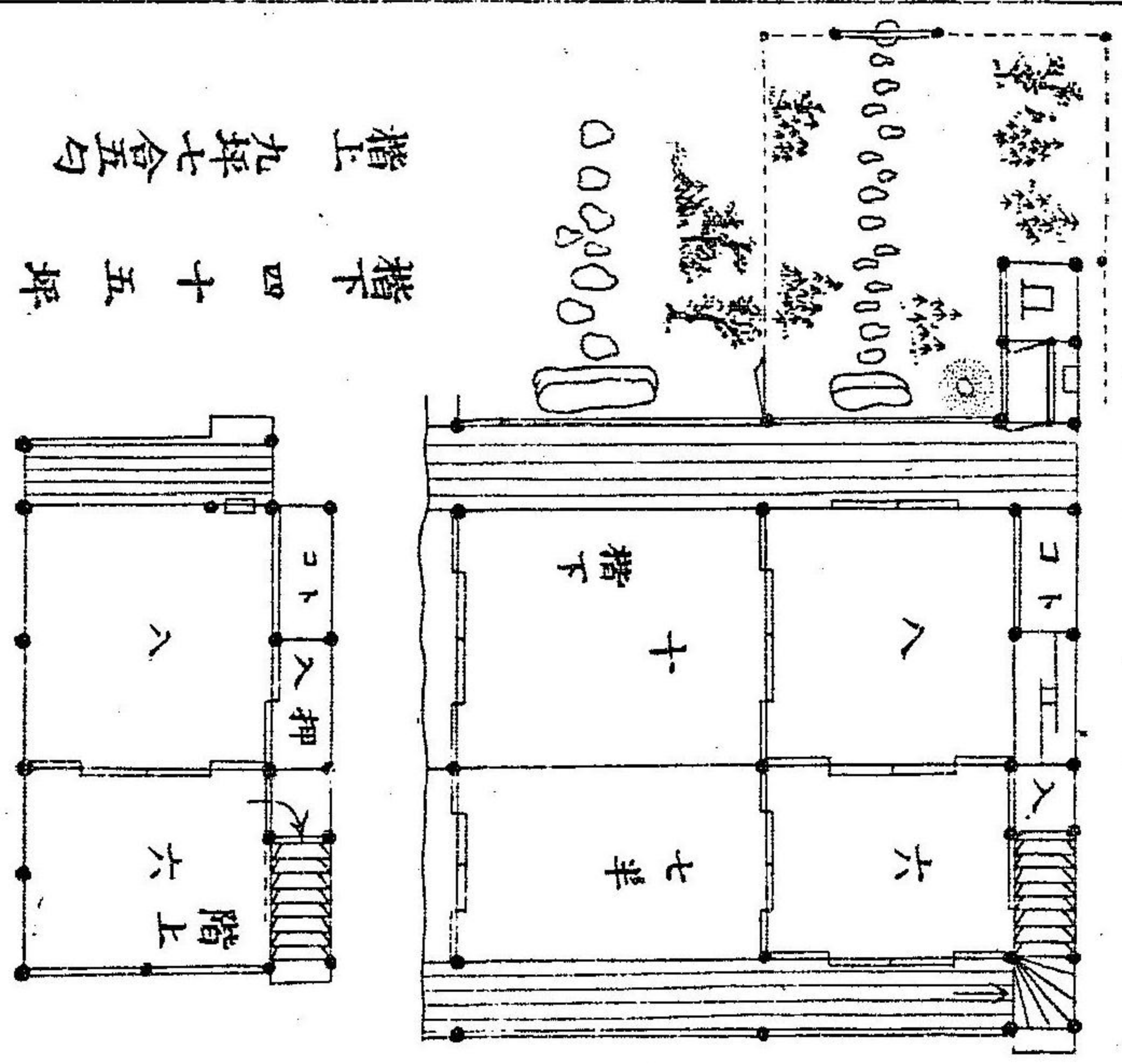
乙 某氏住宅配景圖



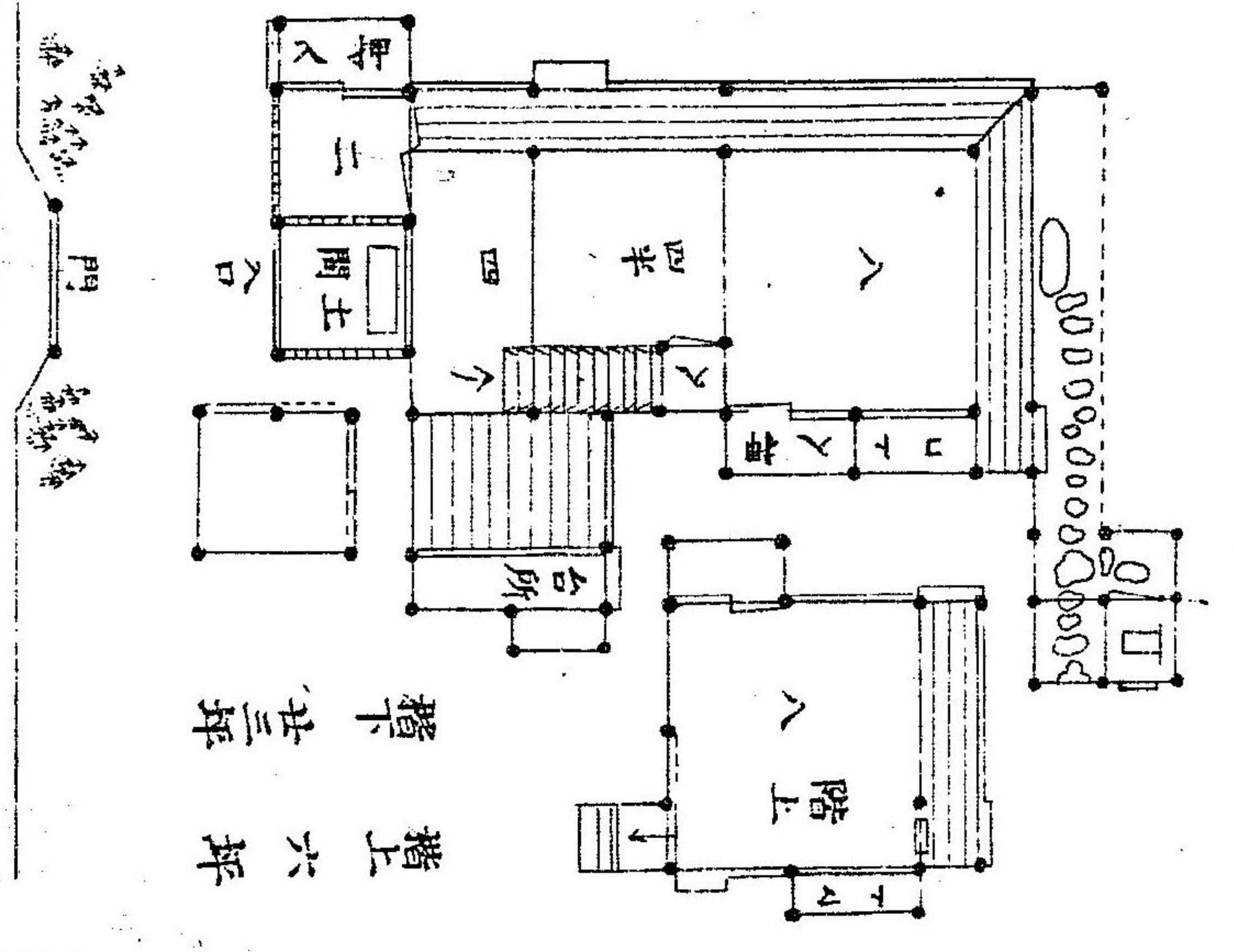


大蘇詩人住宅配景圖 (十)

圖面平 (一十)

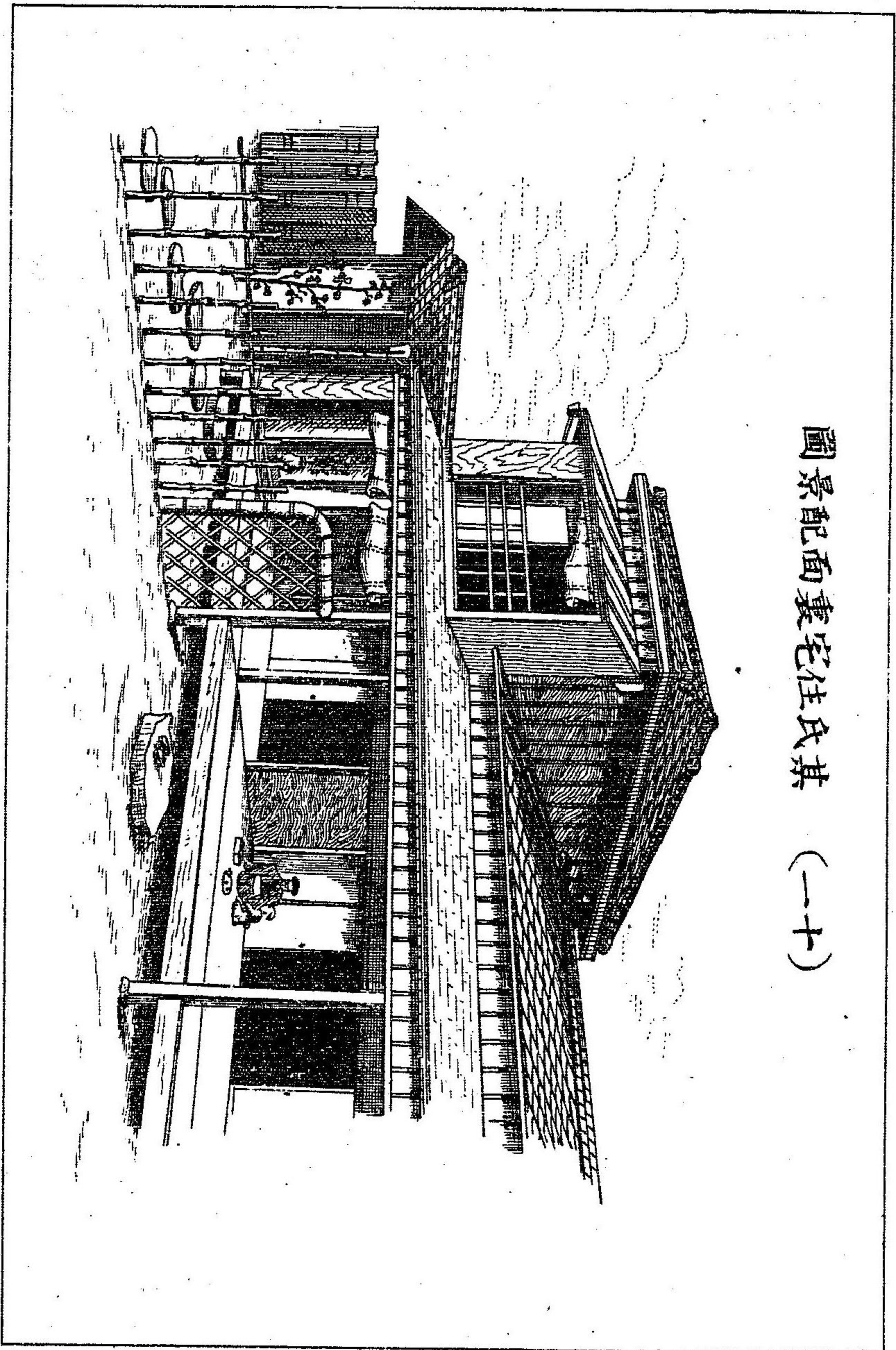


圖面平 (十)

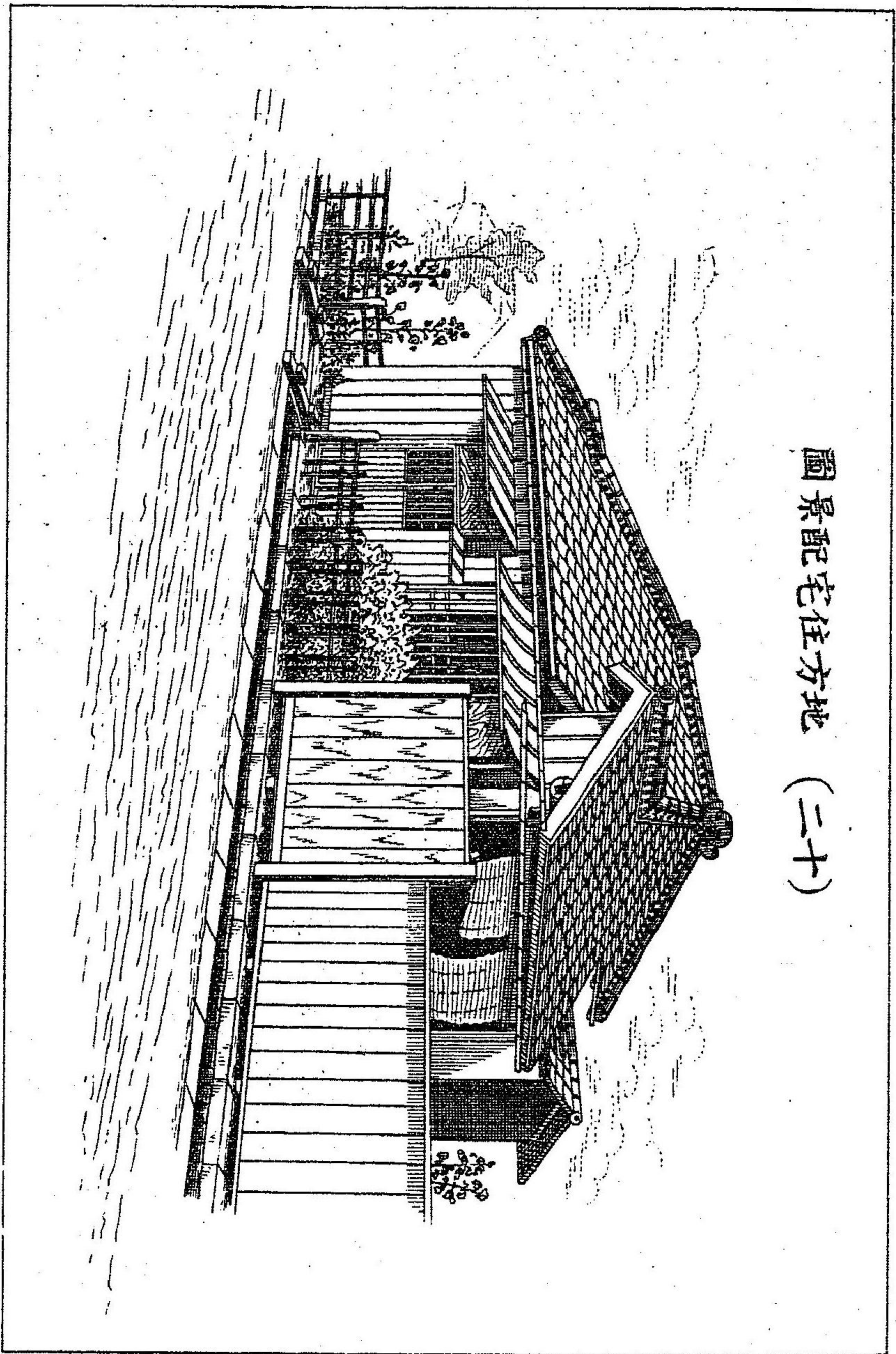


階下 四十五坪
階上 九坪七合五分

階上 六坪
階下 三坪

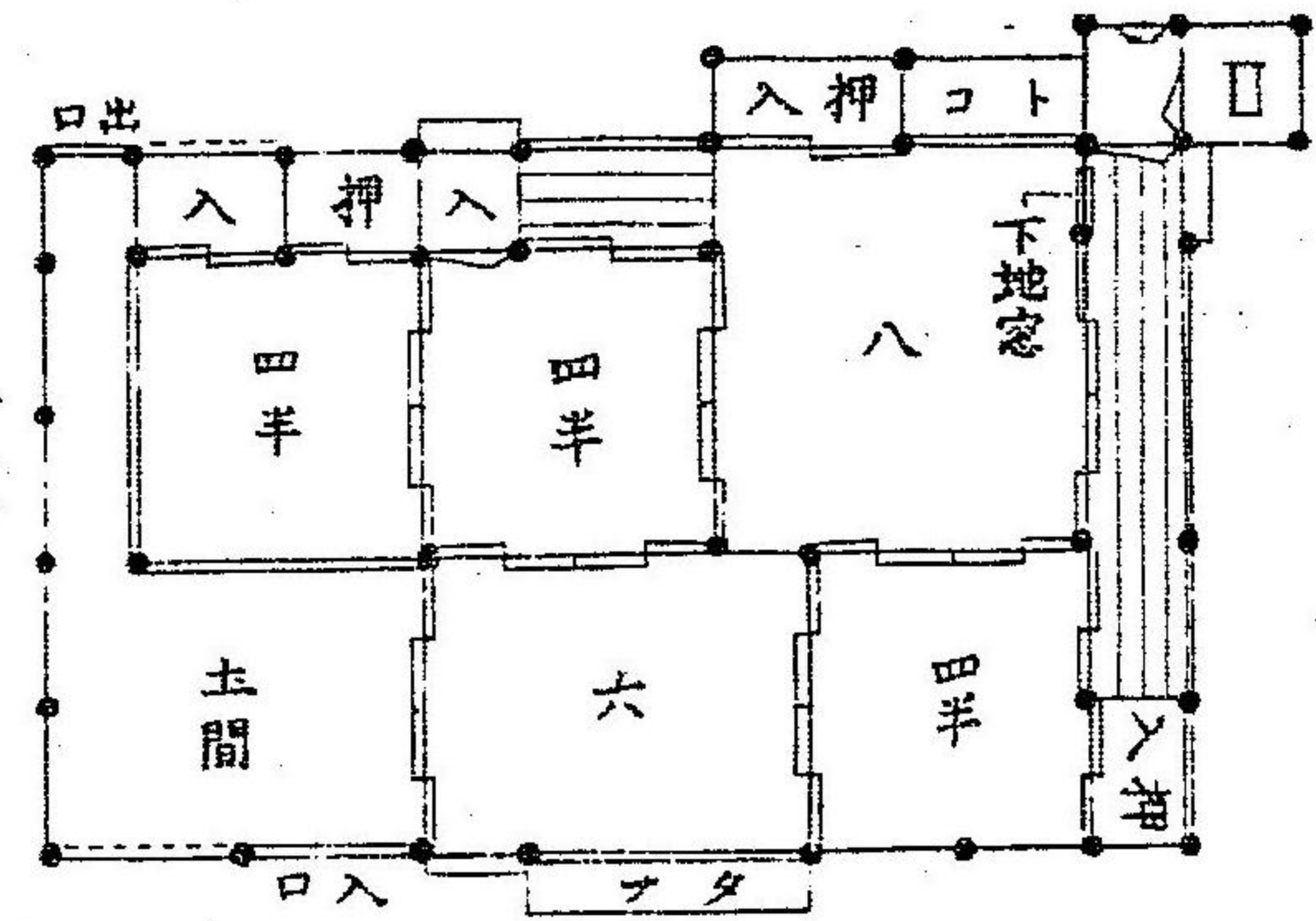


圖景配面襄宅往氏某 (一十)



圖景配宅住方地 (二十)

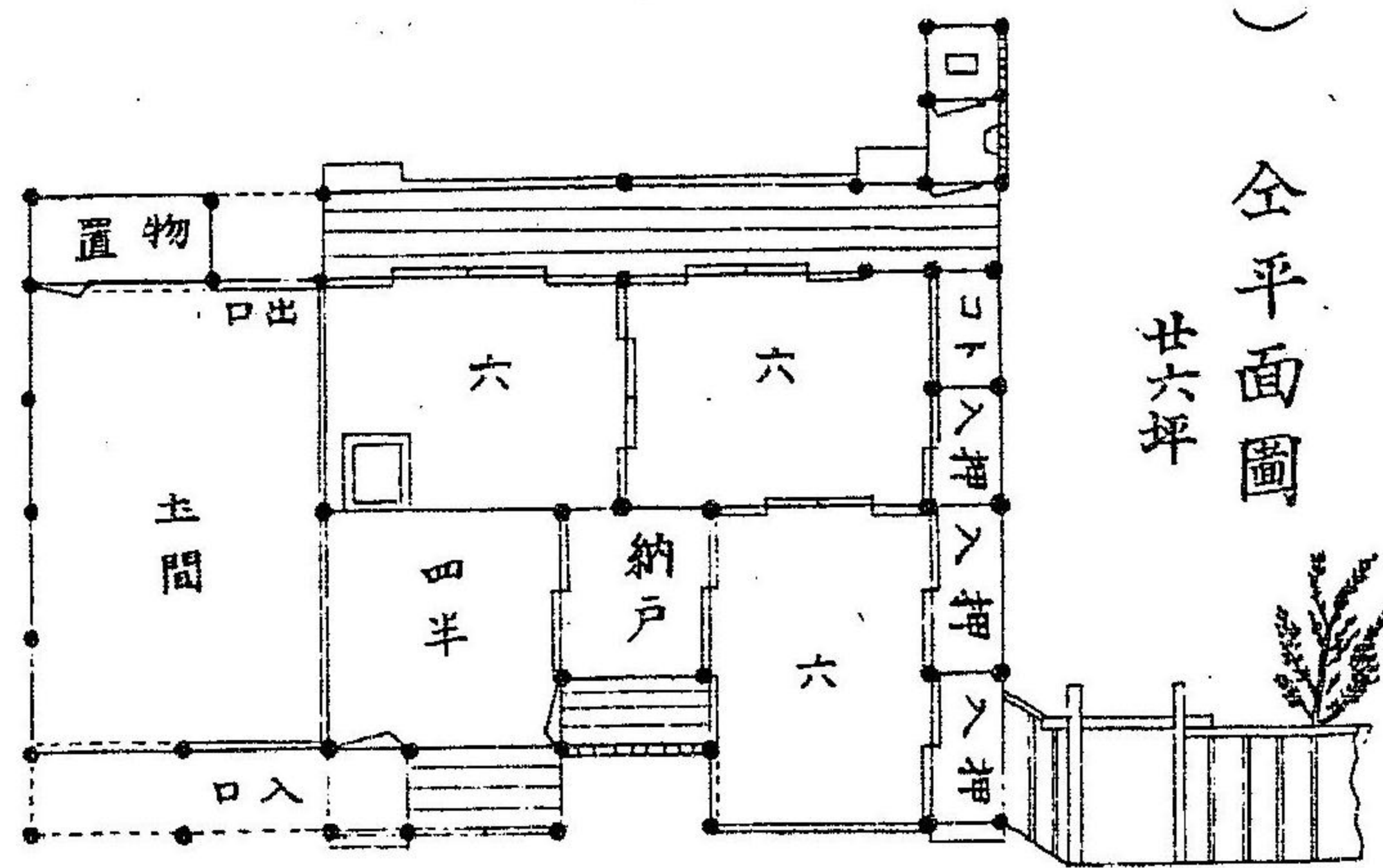
半坪二廿 圖面平全 (二十)



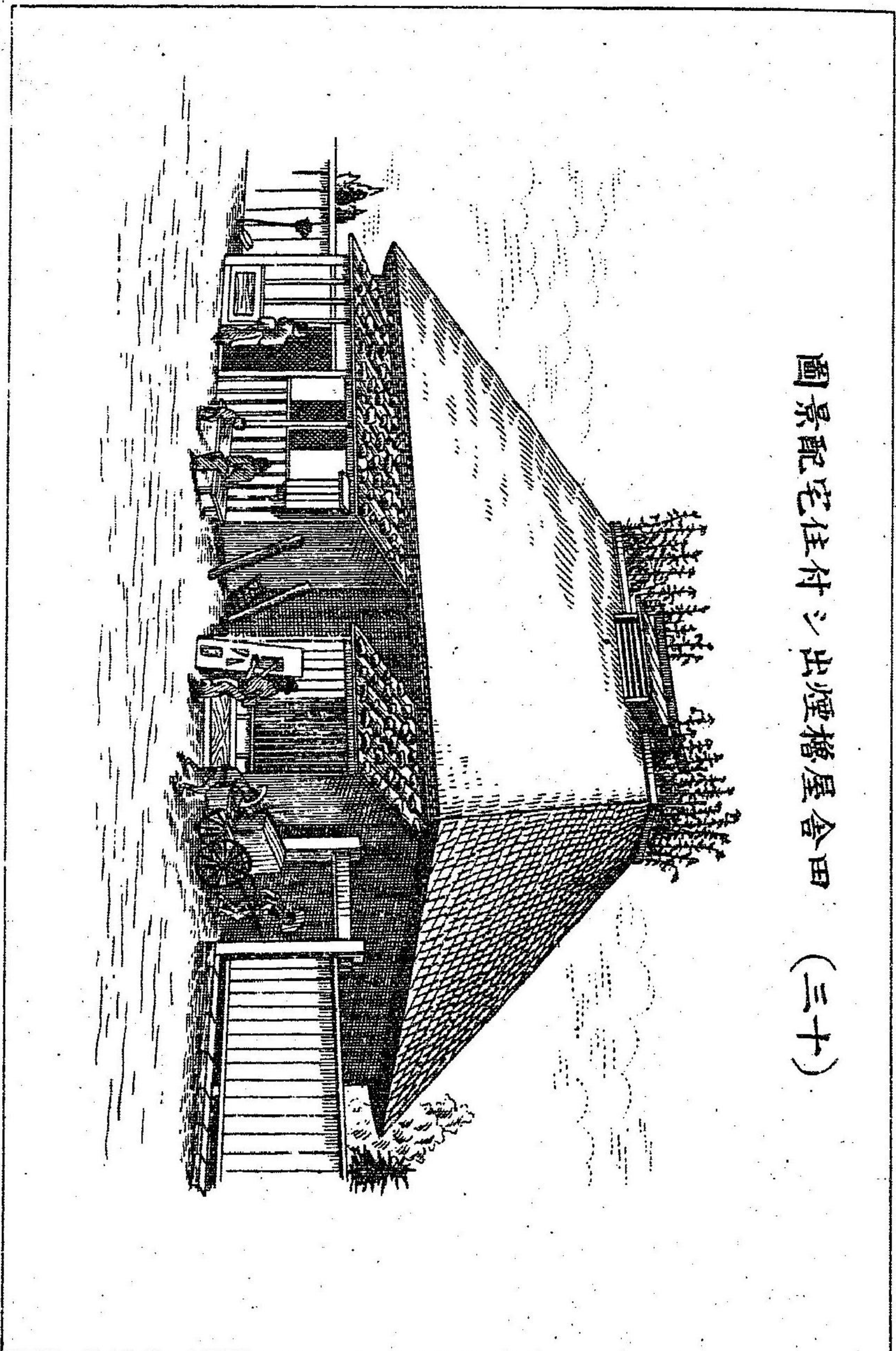
(十三)

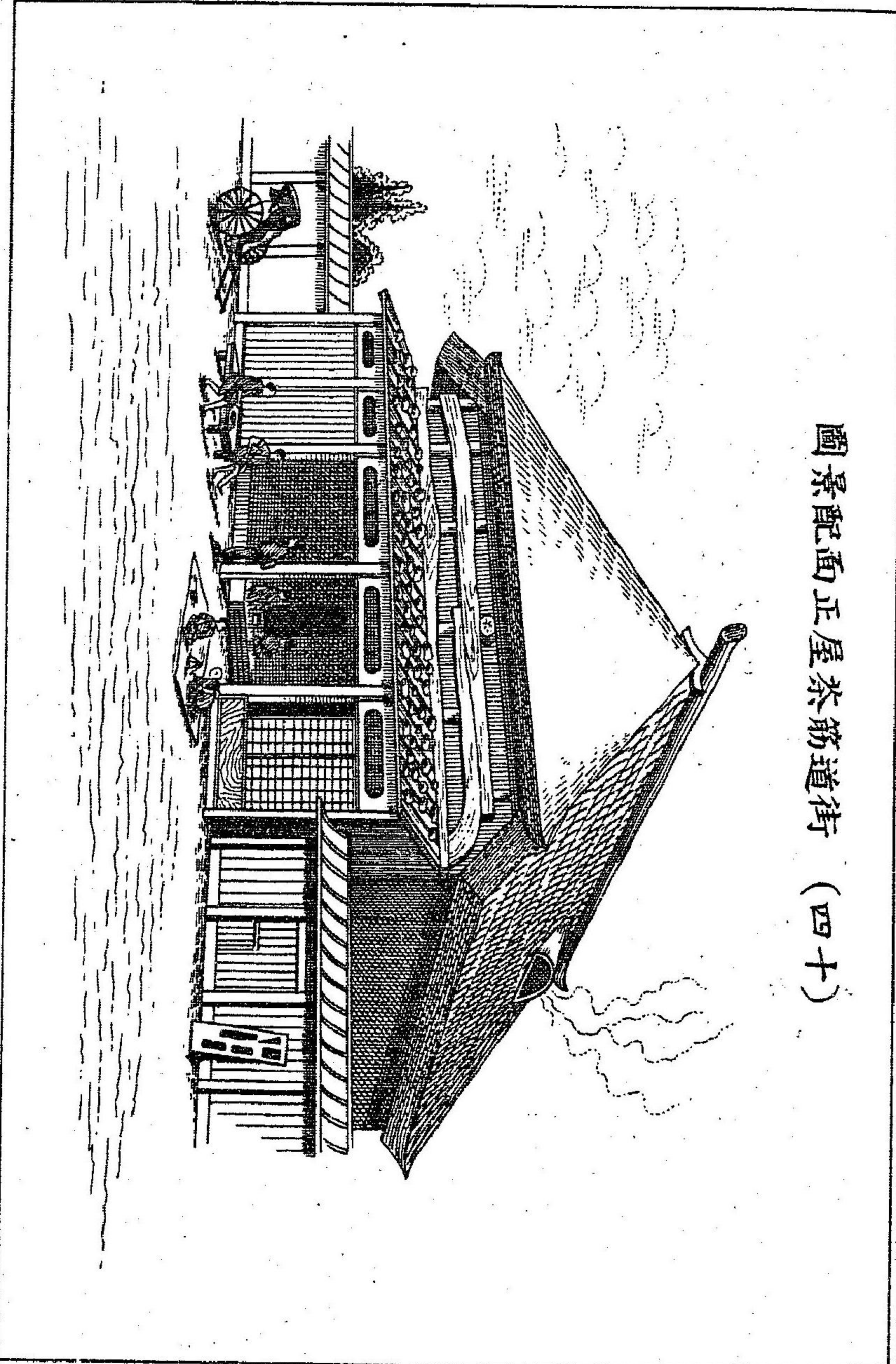
全平面圖

廿六坪



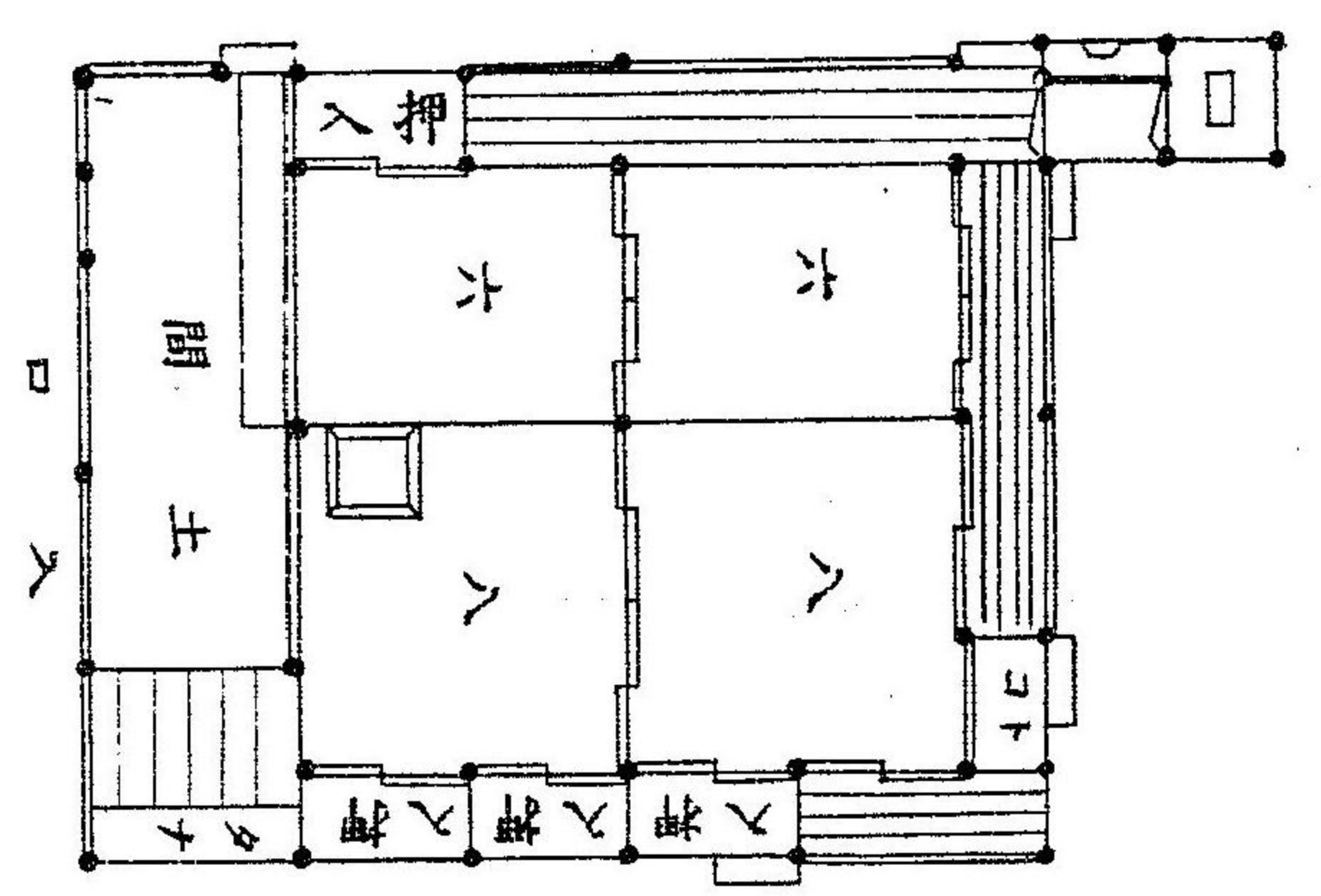
田舎煙櫓屋宅配景圖 (三十)



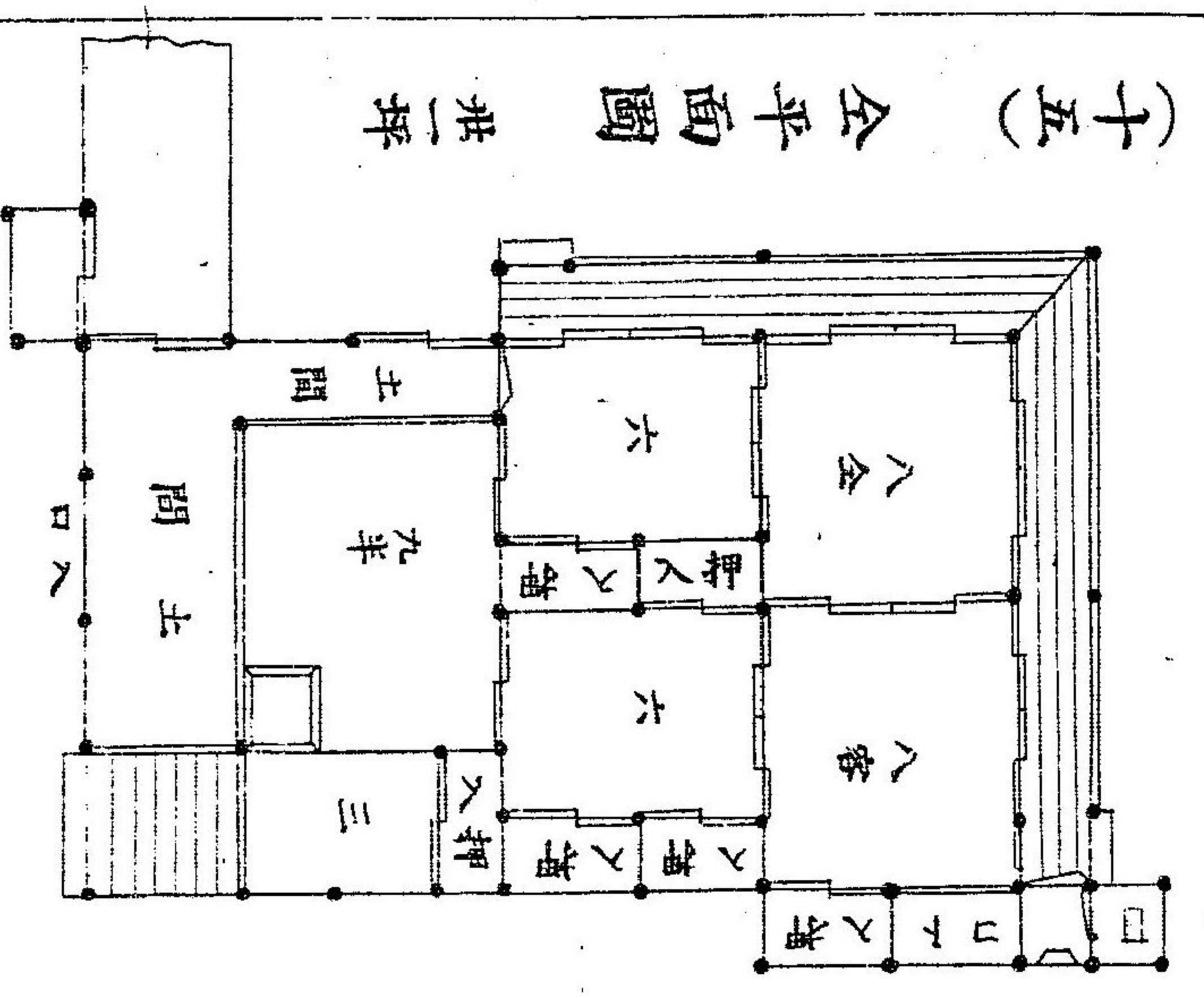


圖景配面正屋茶筋道街 (四十)

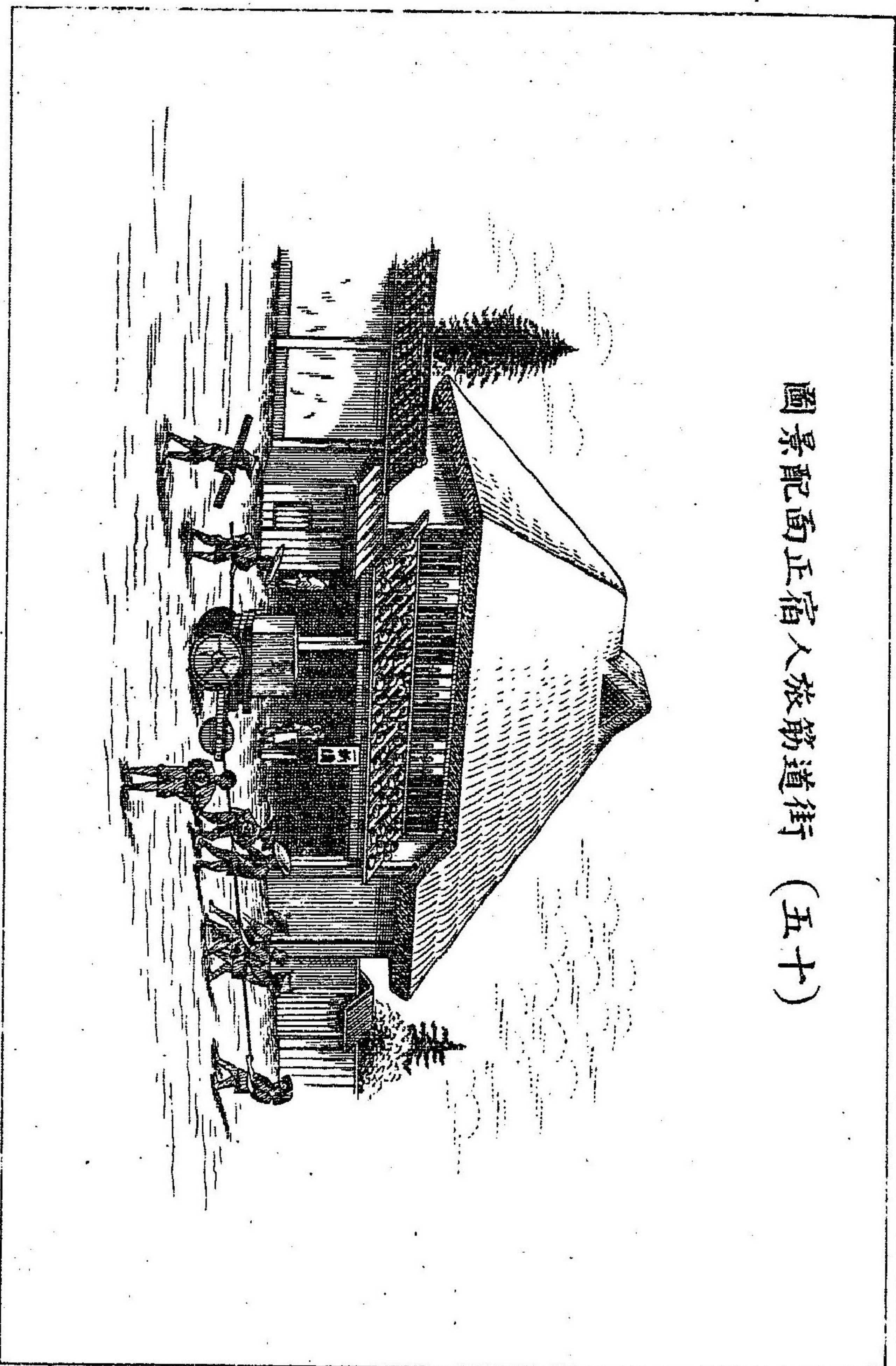
(十四) 全平面圖 廿七坪



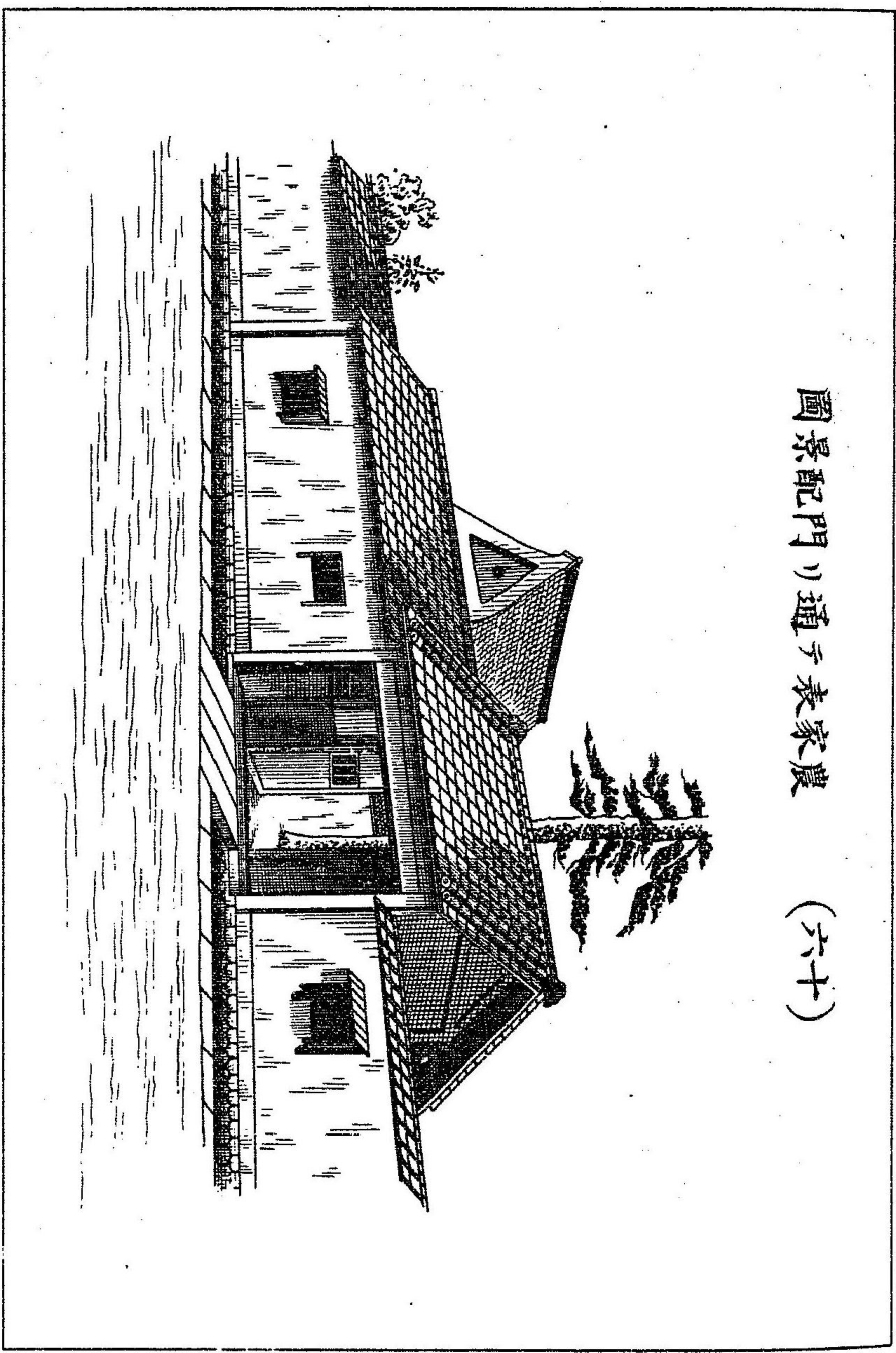
(十五) 全平面圖 卅二坪



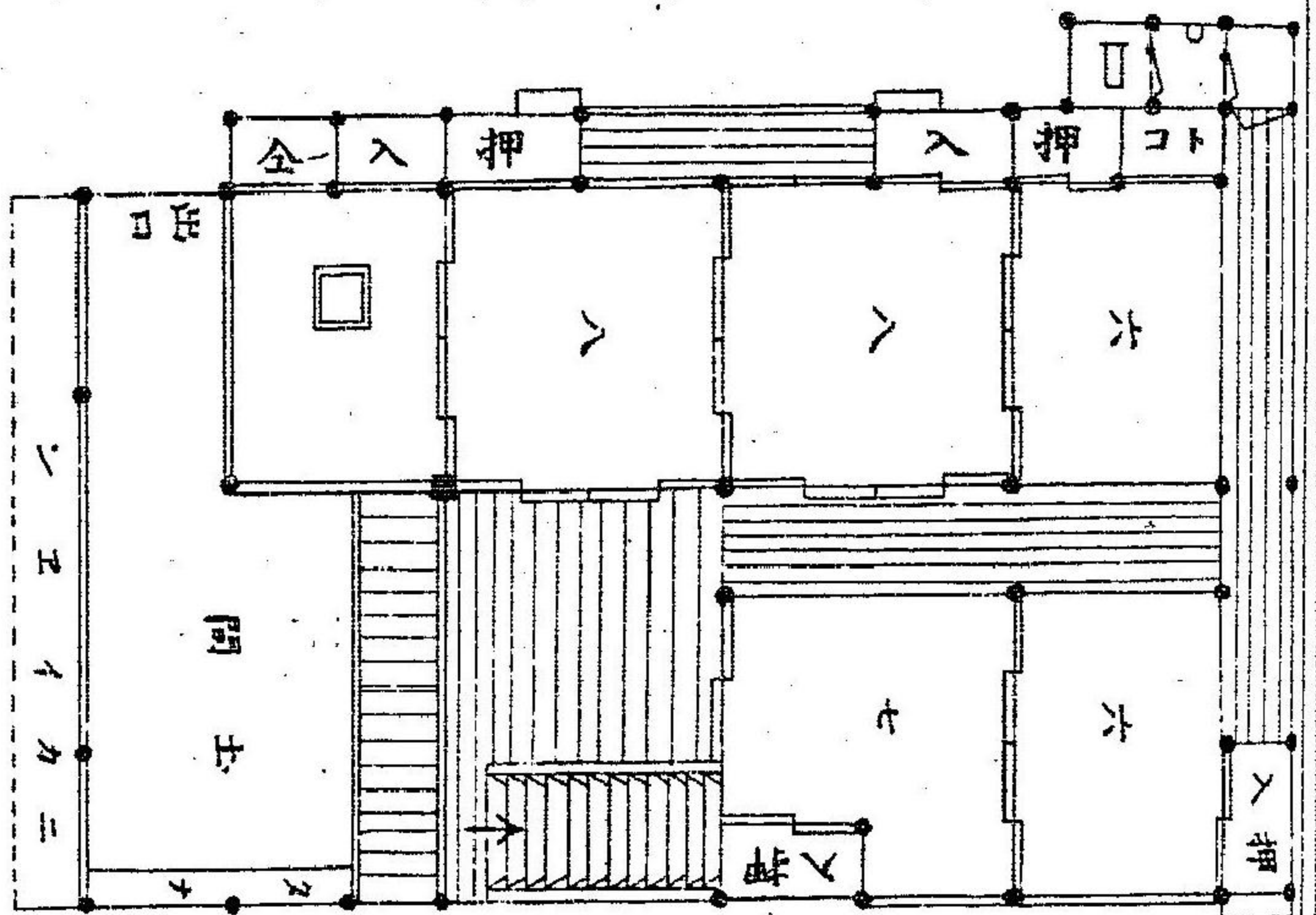
圖景配面正宿入旅筋道街 (五十)



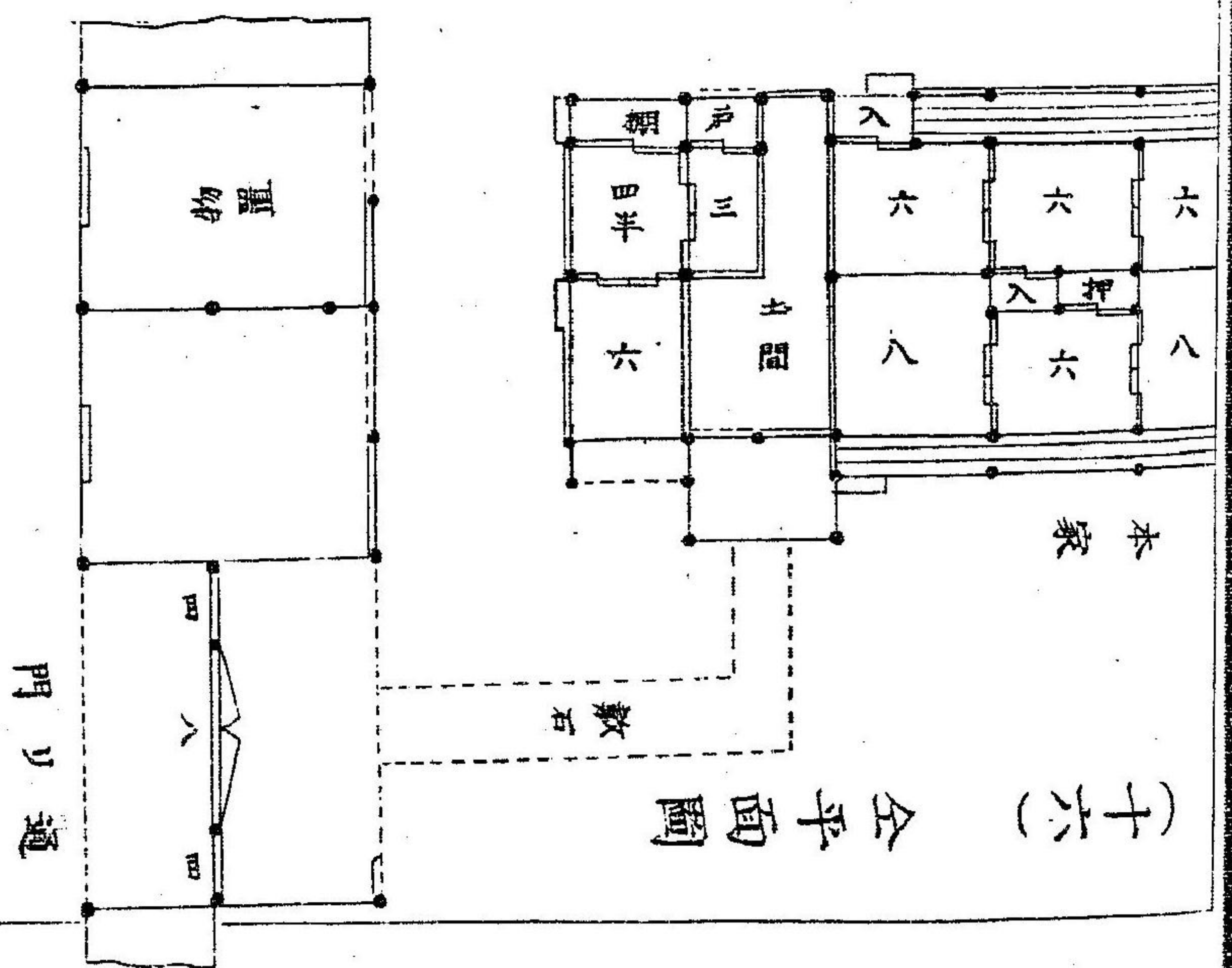
圖景配門リ通テ表家農 (六十)



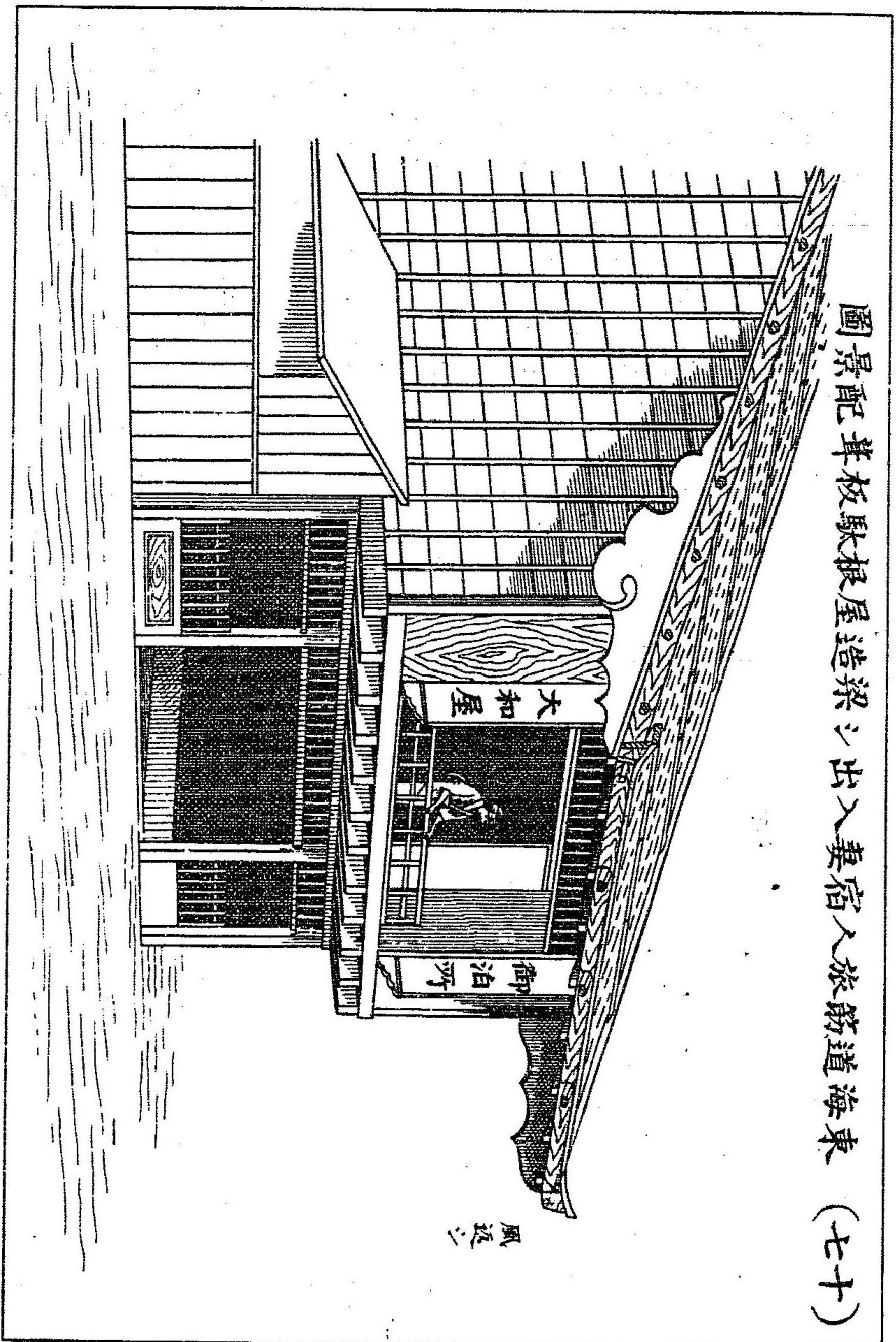
(十七) 平面圖 四十四坪

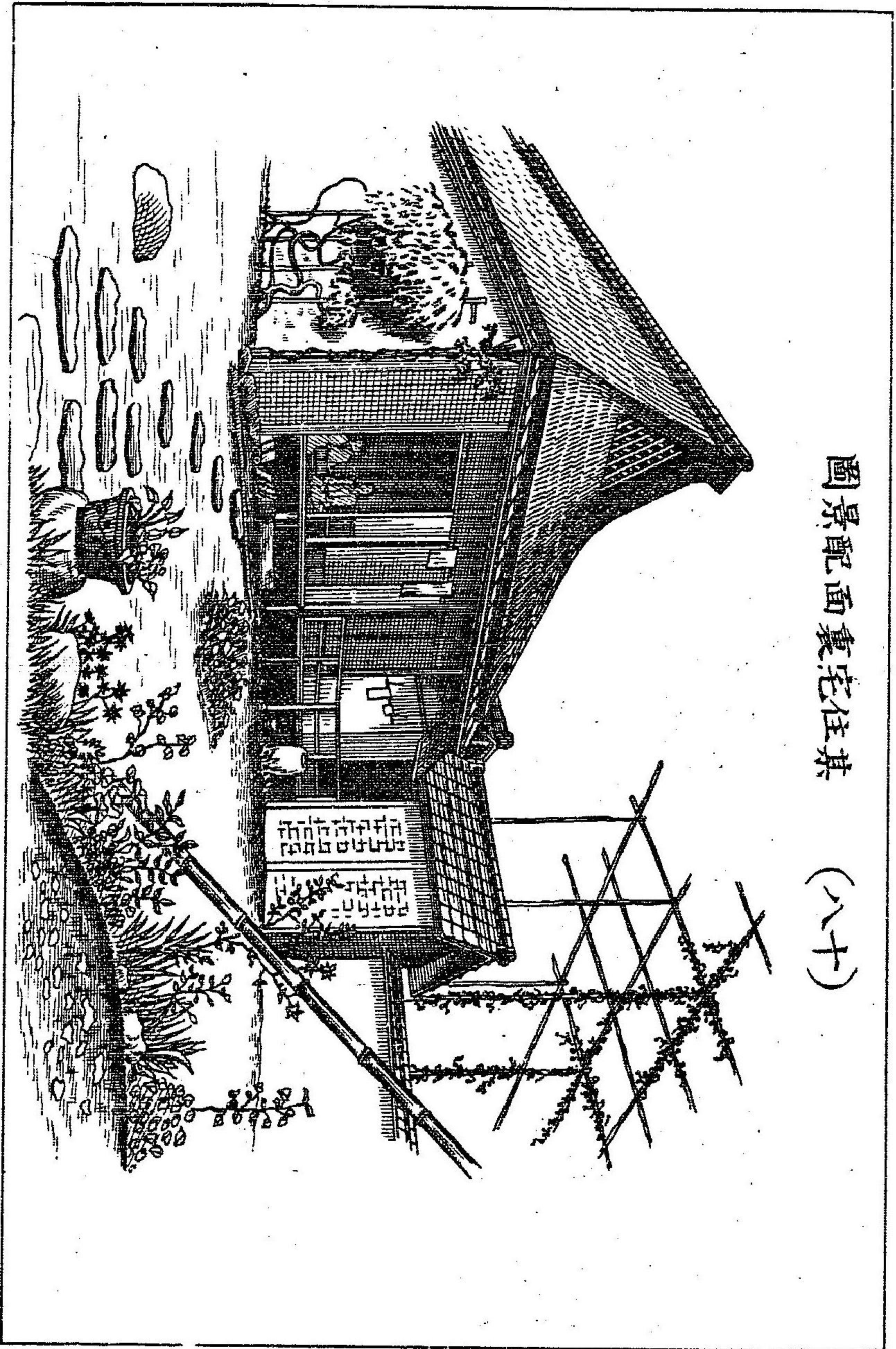


(十六) 全平面圖



圖景配葺板駄根屋造梁之出入妻宿入旅筋道海東 (七十)

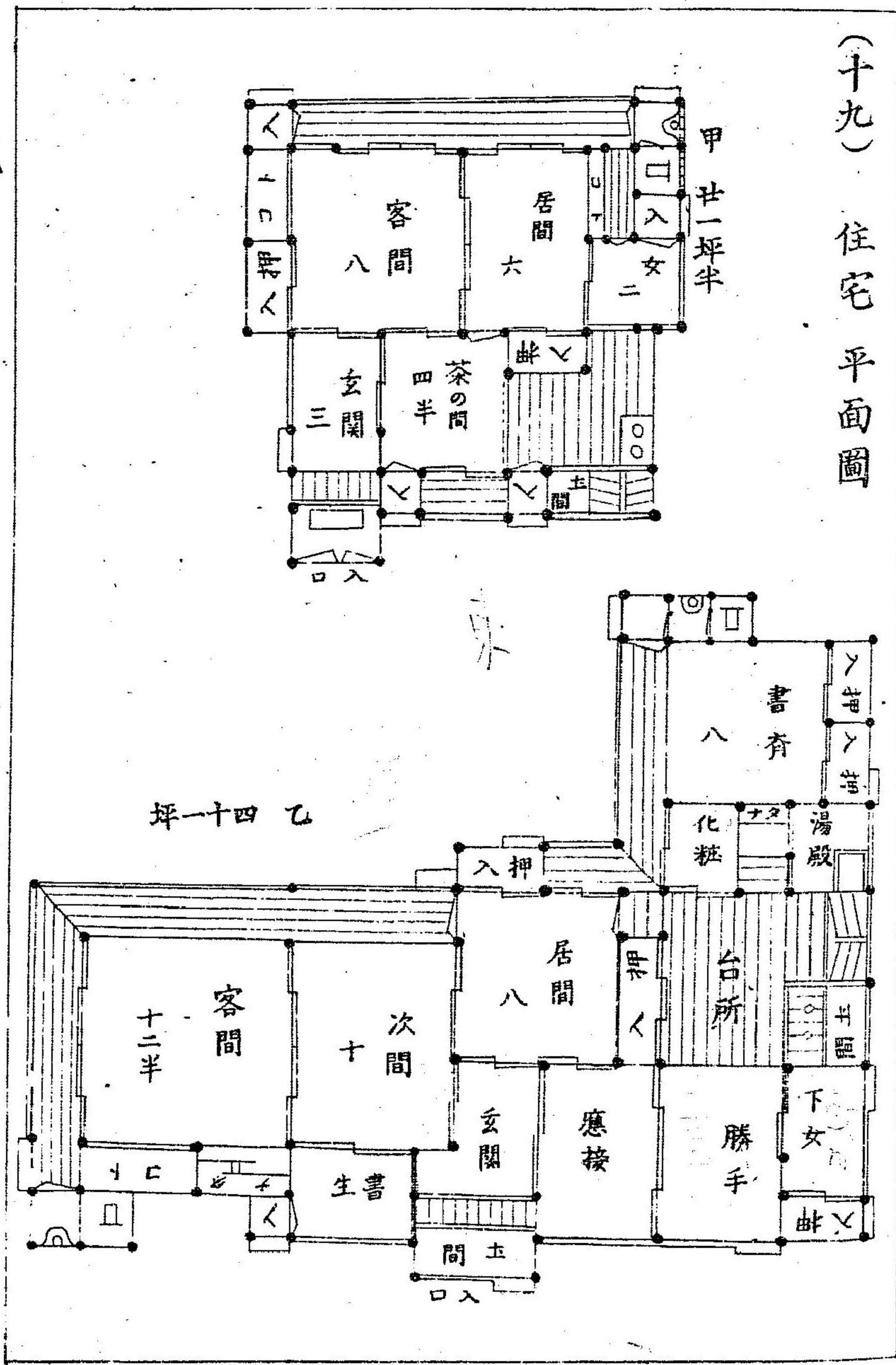




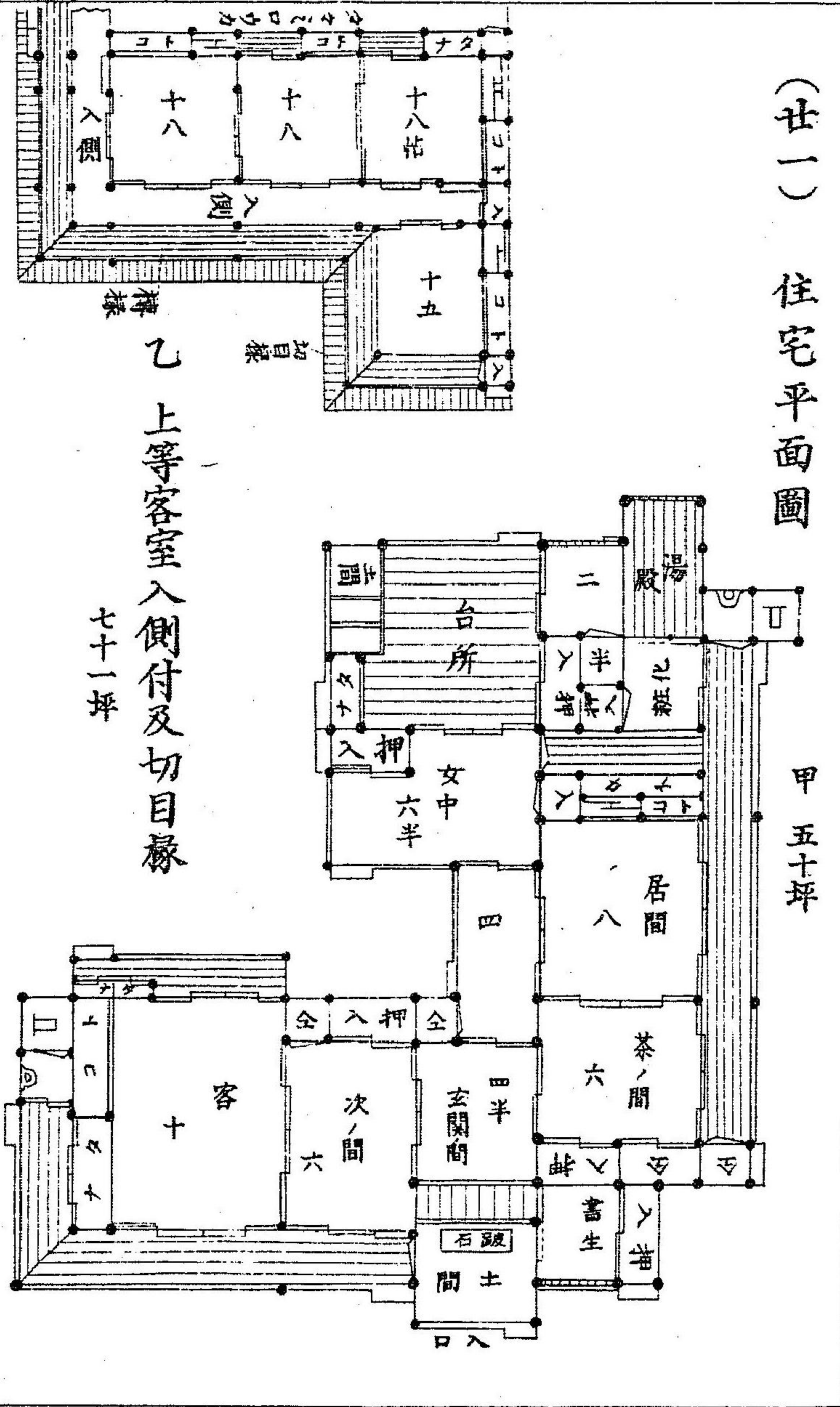
某住宅面配景圖

(八十)

(十九) 住宅平面圖



(廿一) 住宅平面圖



甲 五十坪

乙 上等客室入側付及切目縁
七十一坪

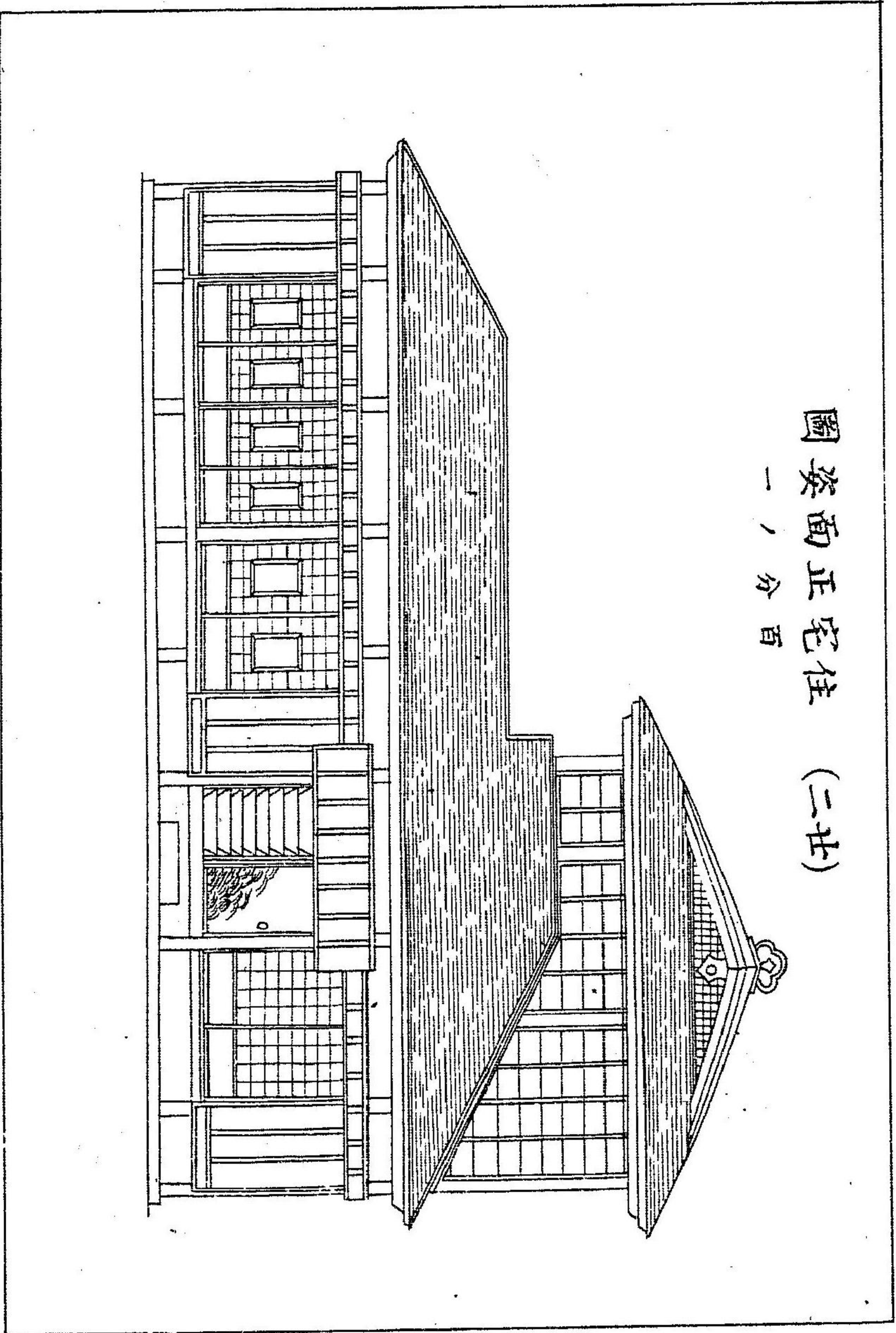
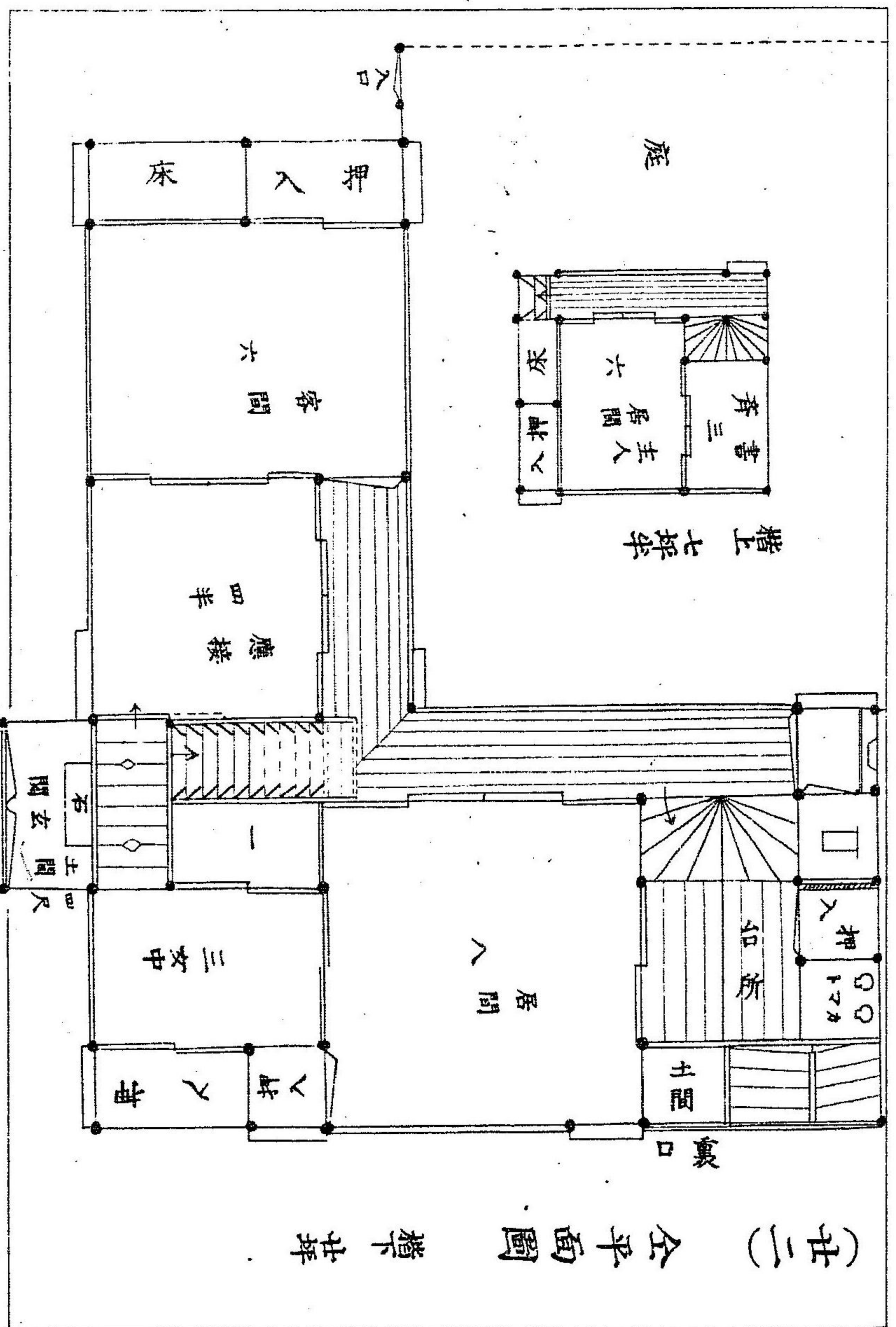


圖 姿面正宅住 (二壯)
一 / 分百



(廿二) 全平面圖 繪于坪

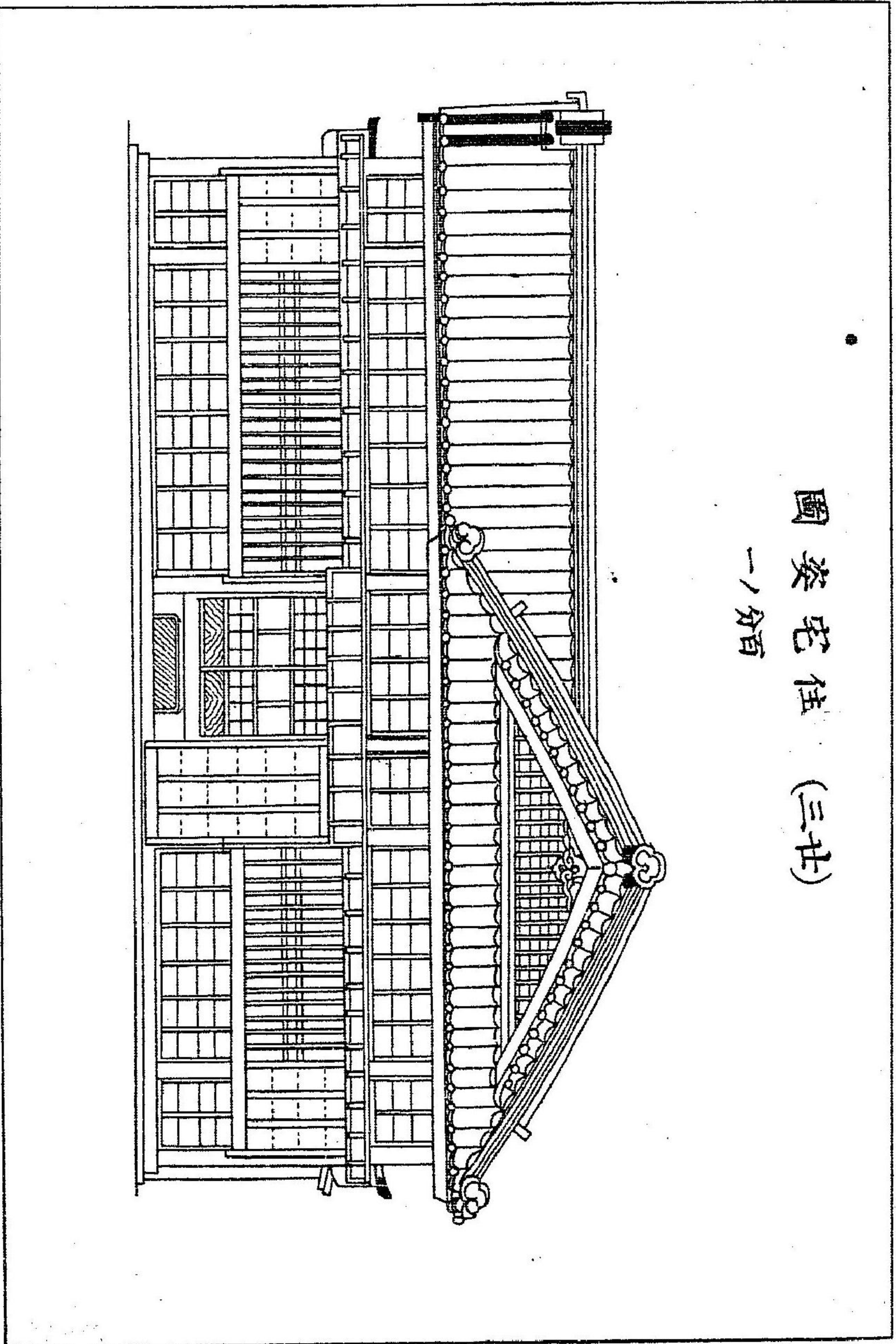
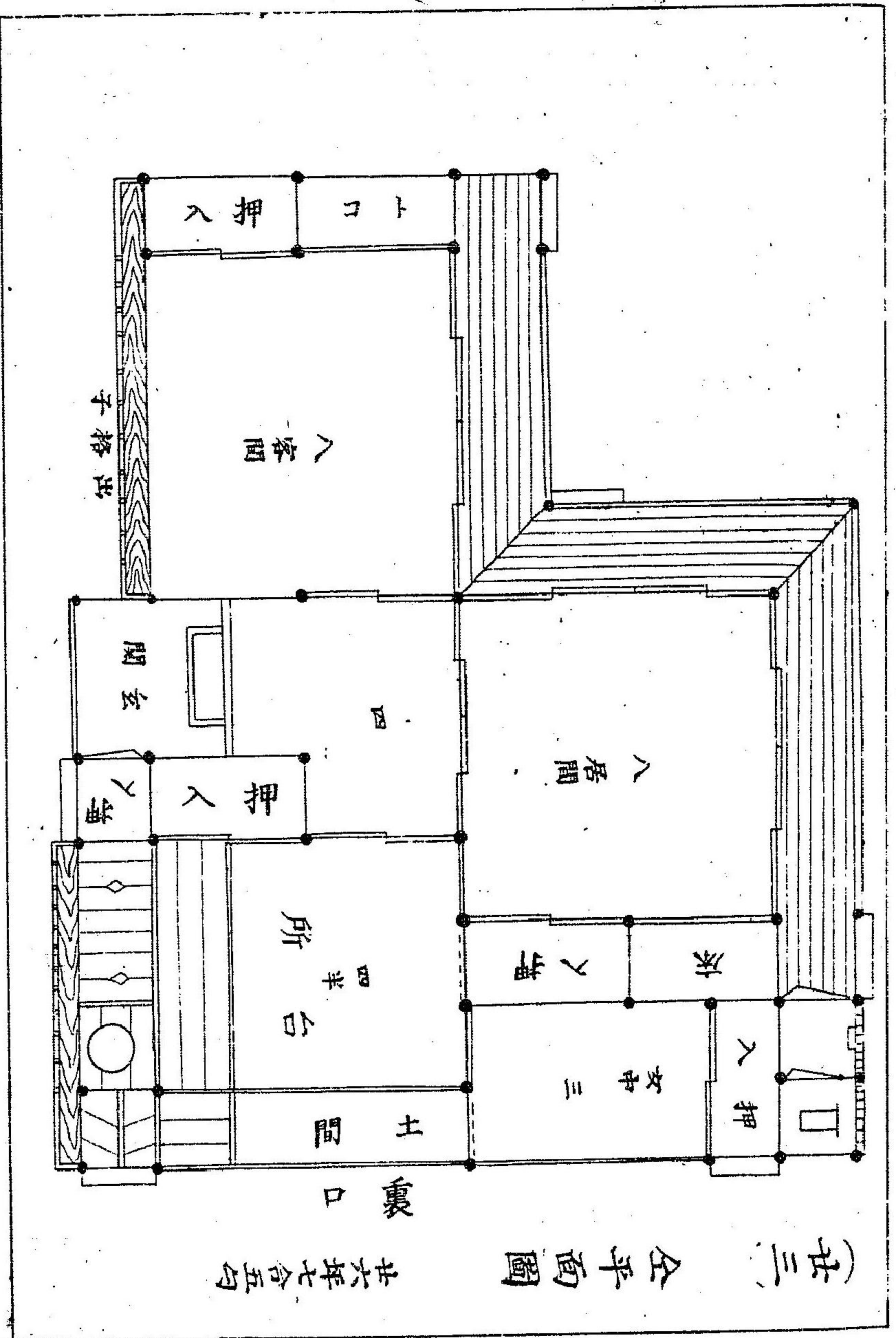
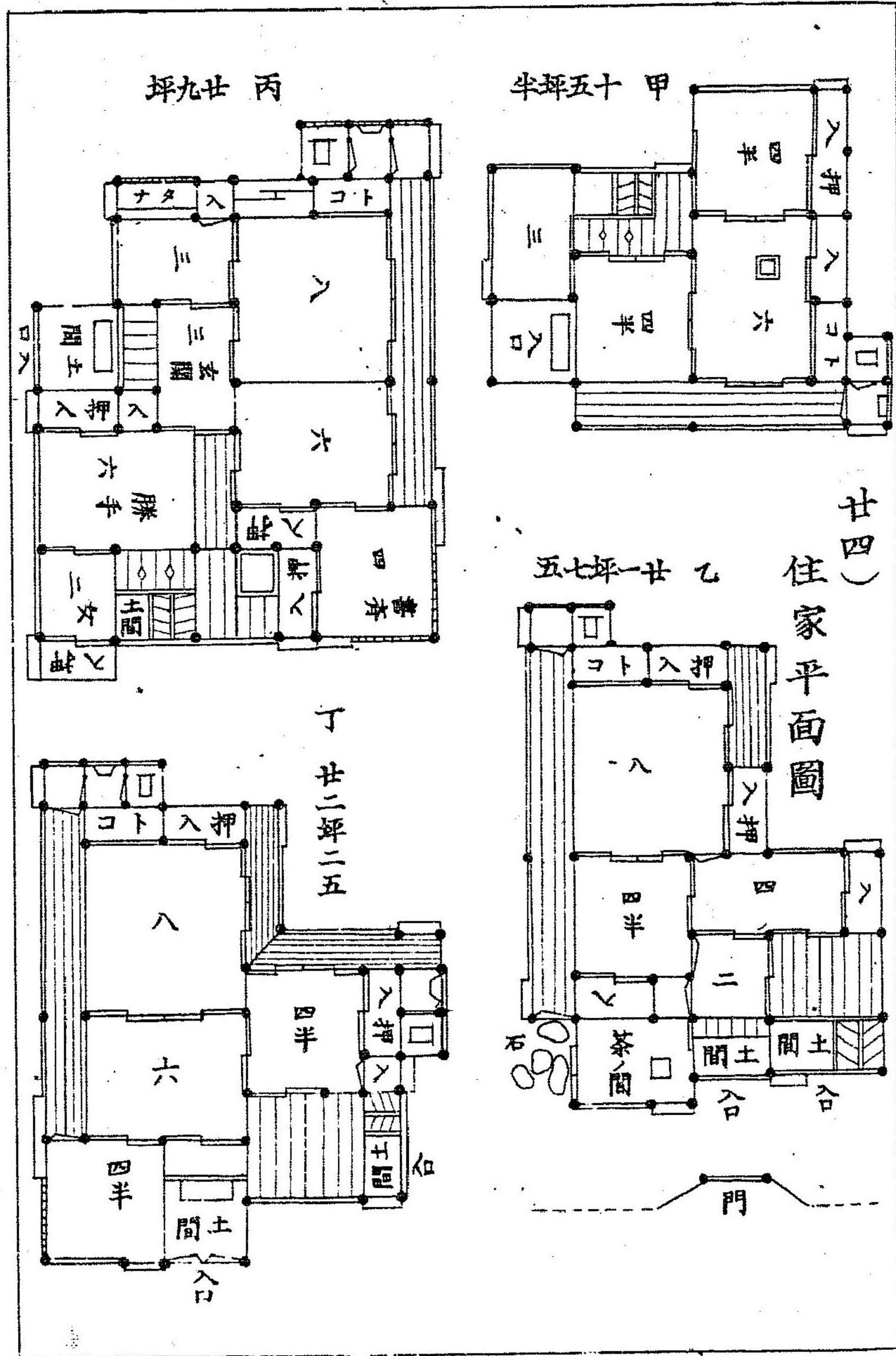
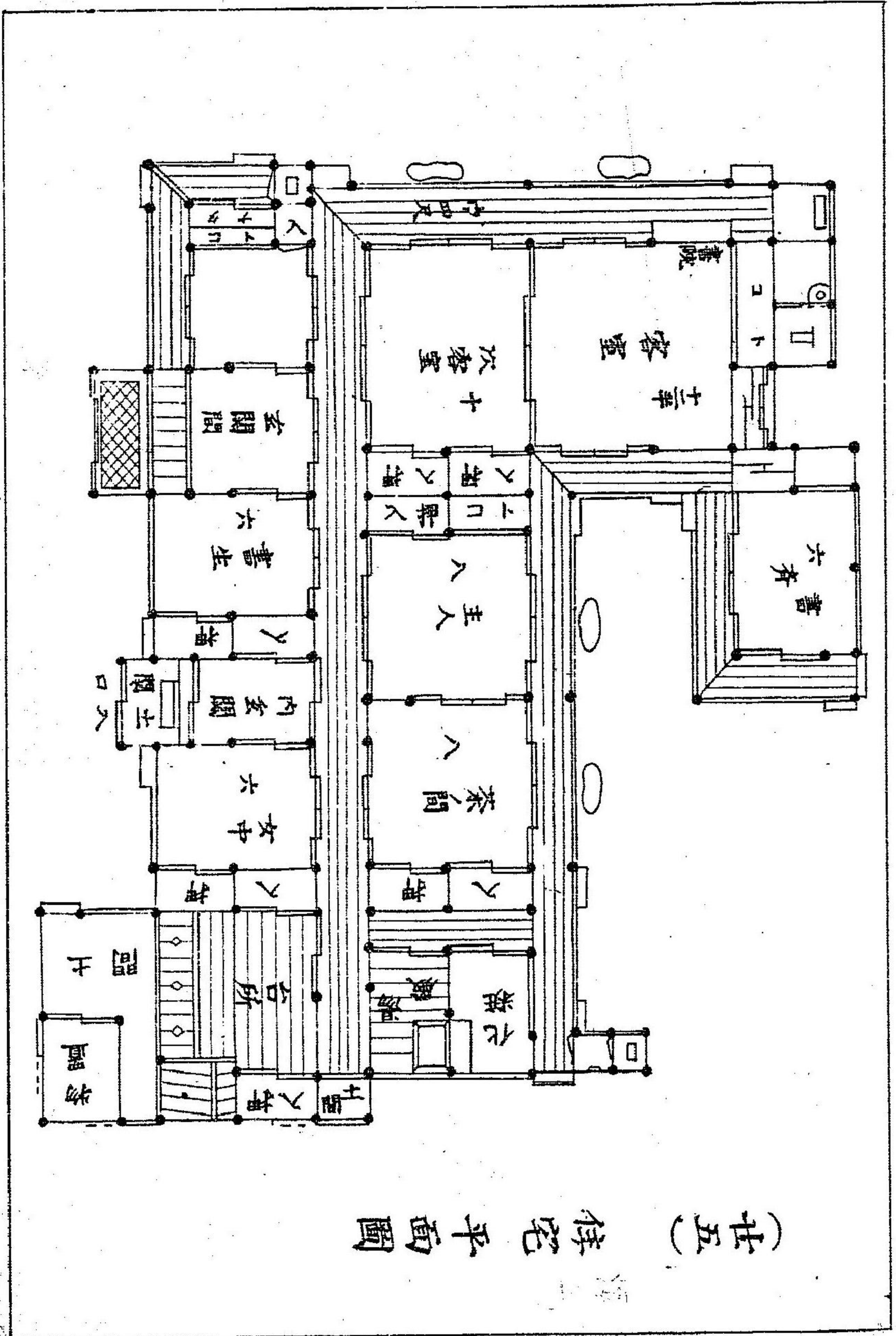


圖 姿宅佳 (三廿)
一ノ分百



(三) 全平面圖
 共六坪七合五分





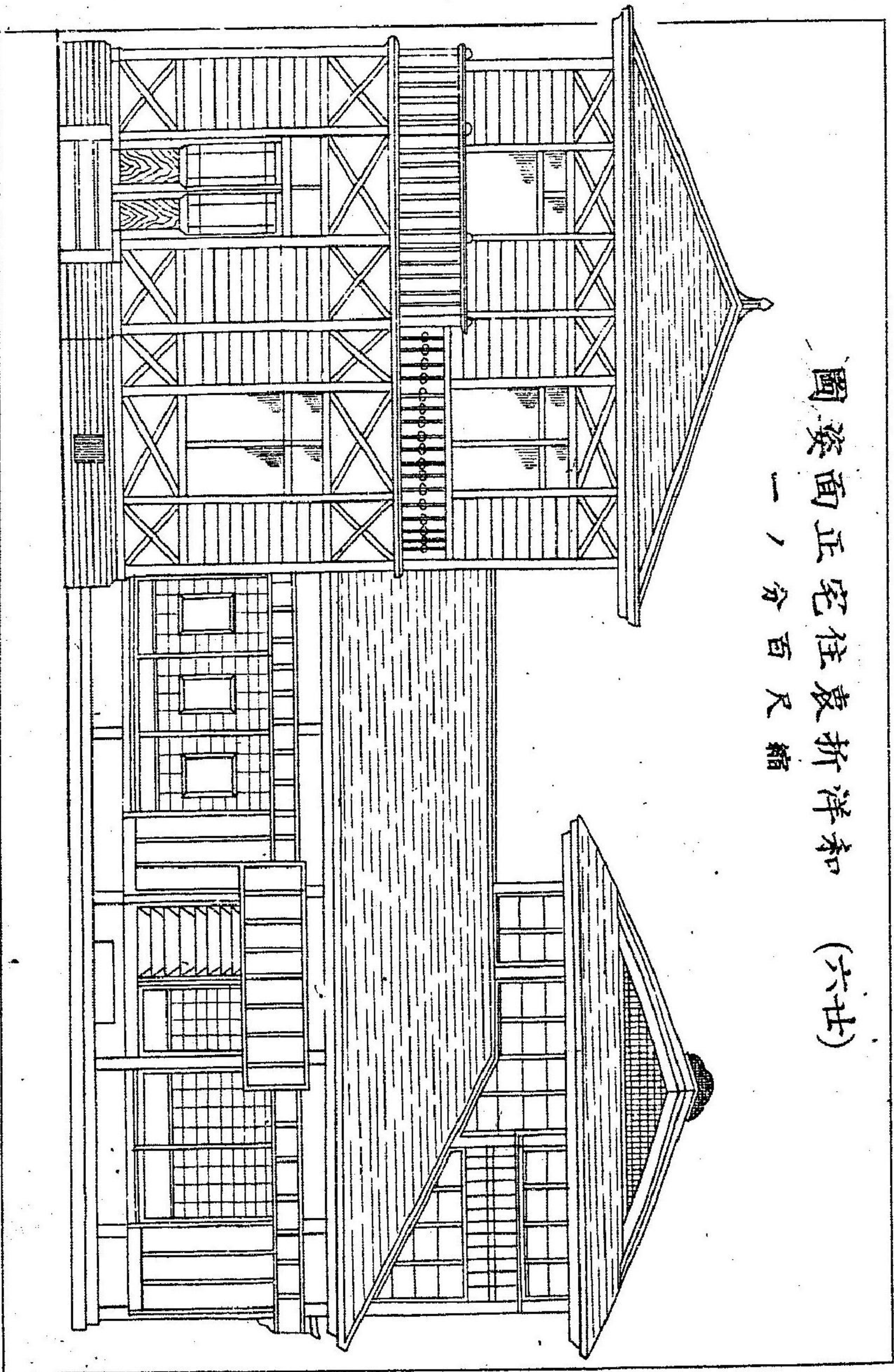
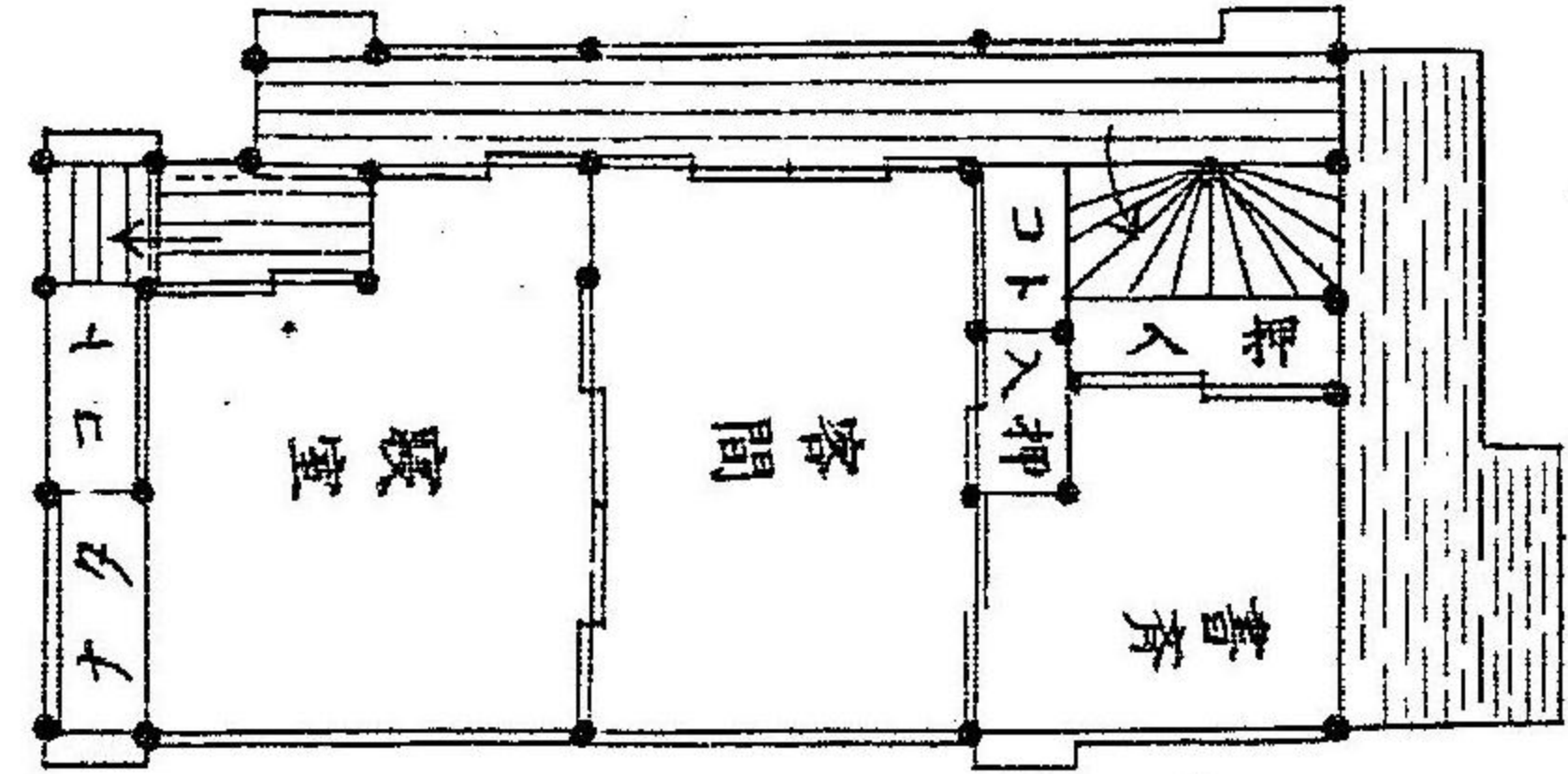


圖 姿面正宅住袁折洋和 (六廿)
一 / 分百尺縮

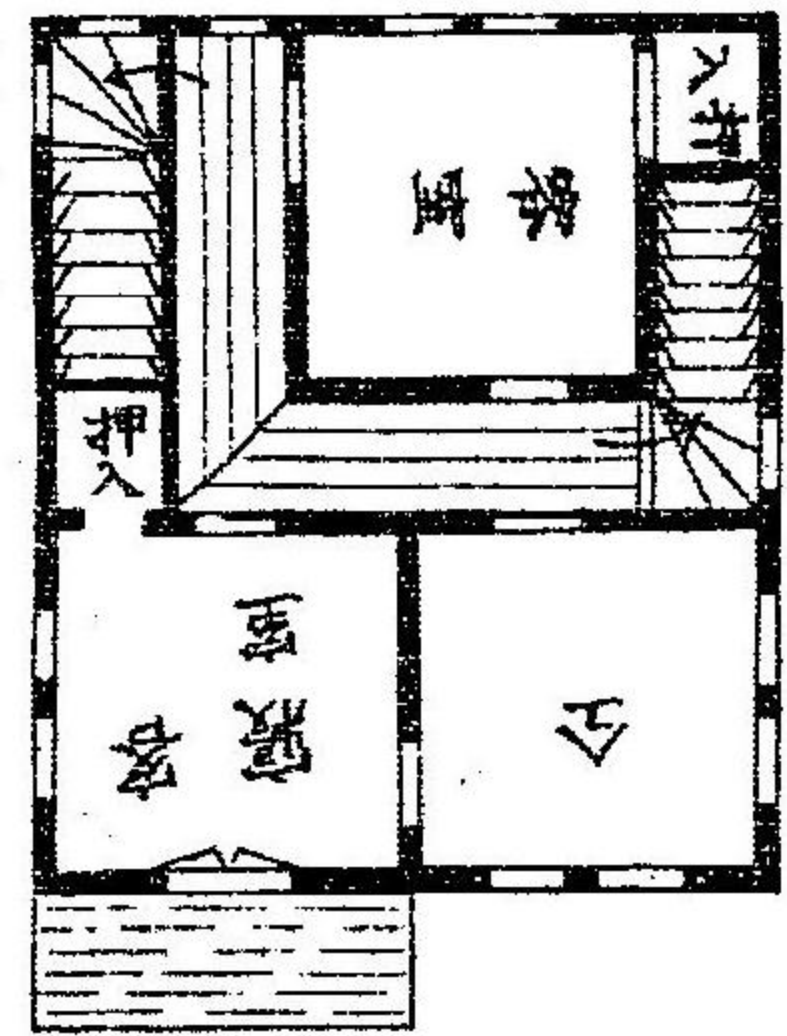
措上 十八坪



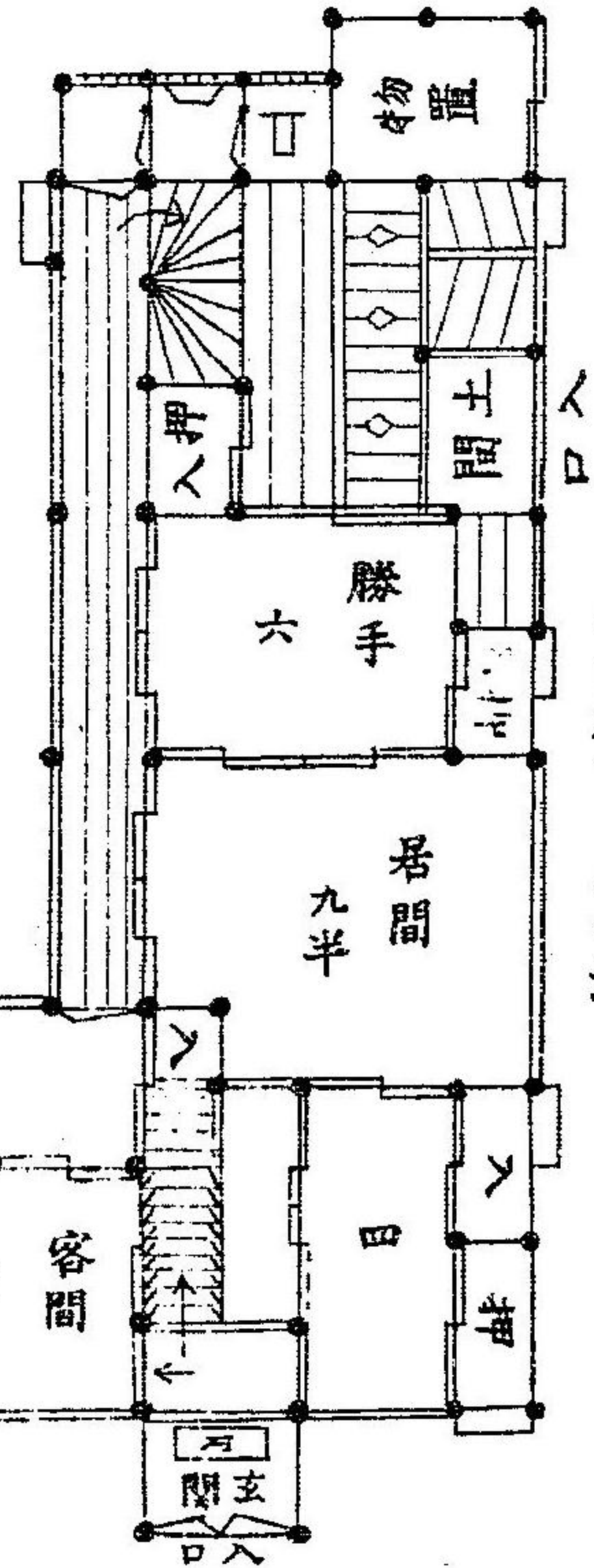
(廿六)

全平面圖

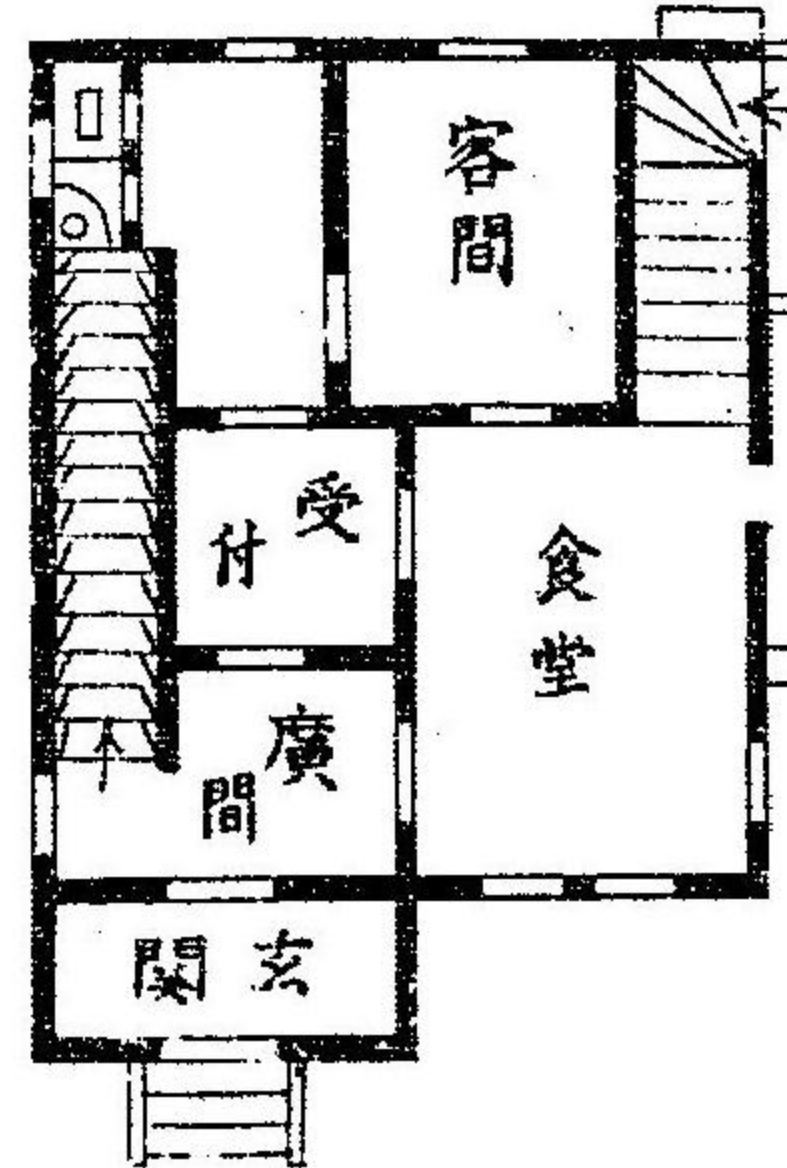
洋館措上 十一坪六合



日本家措下 三十坪



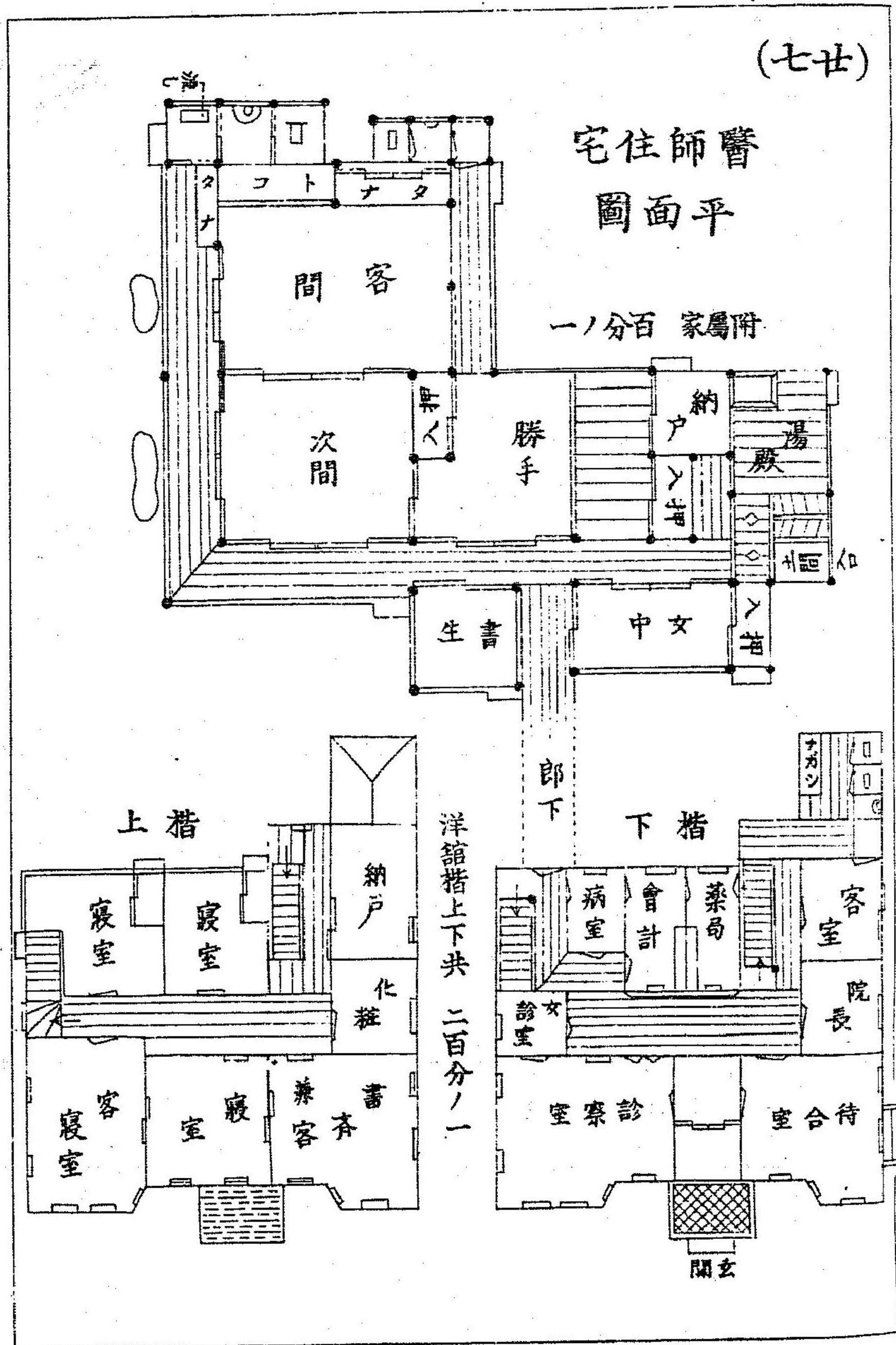
全措下 十三坪

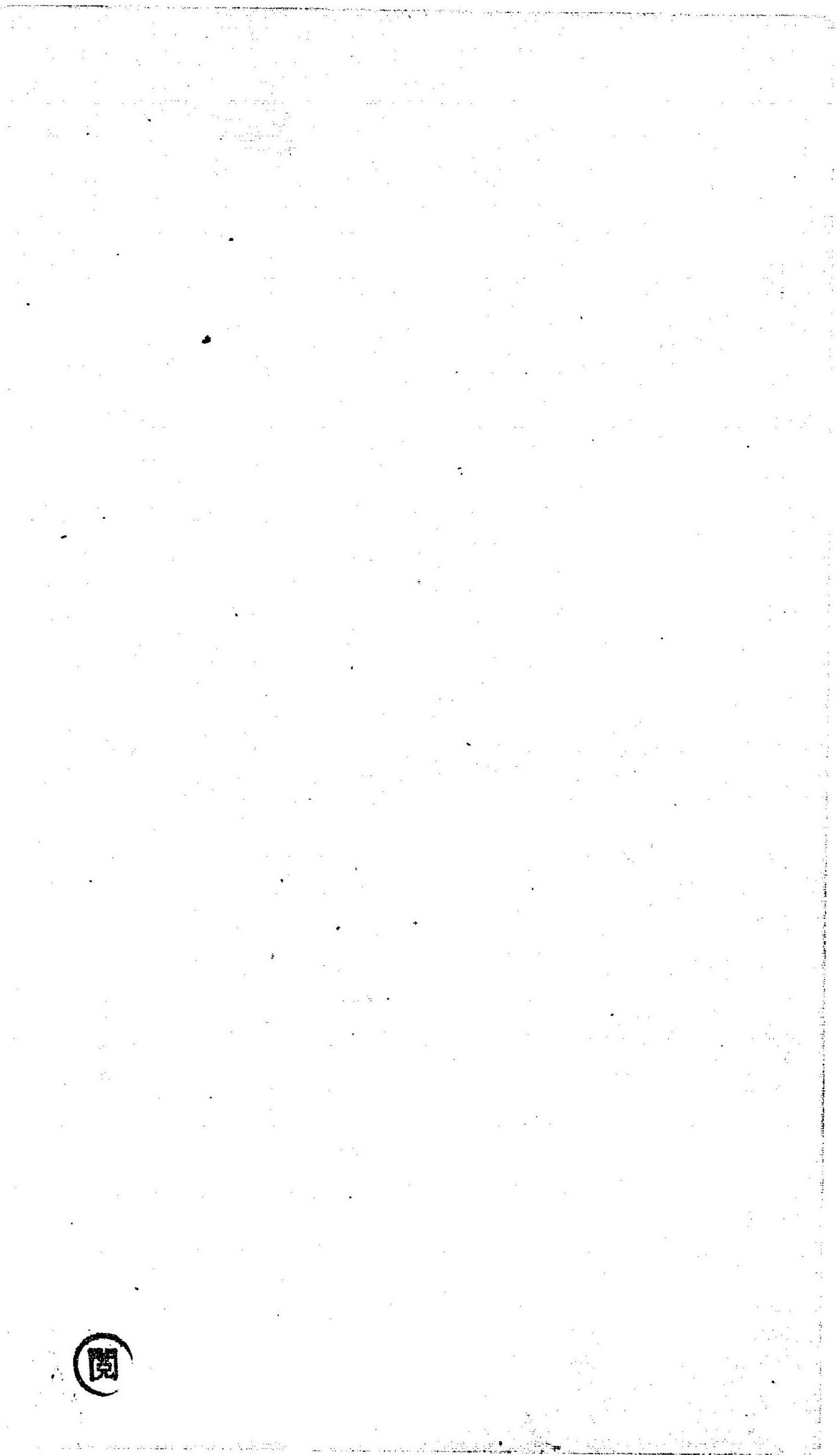


(七廿)

宅住師醫
圖面平

一ノ分百 家屬附





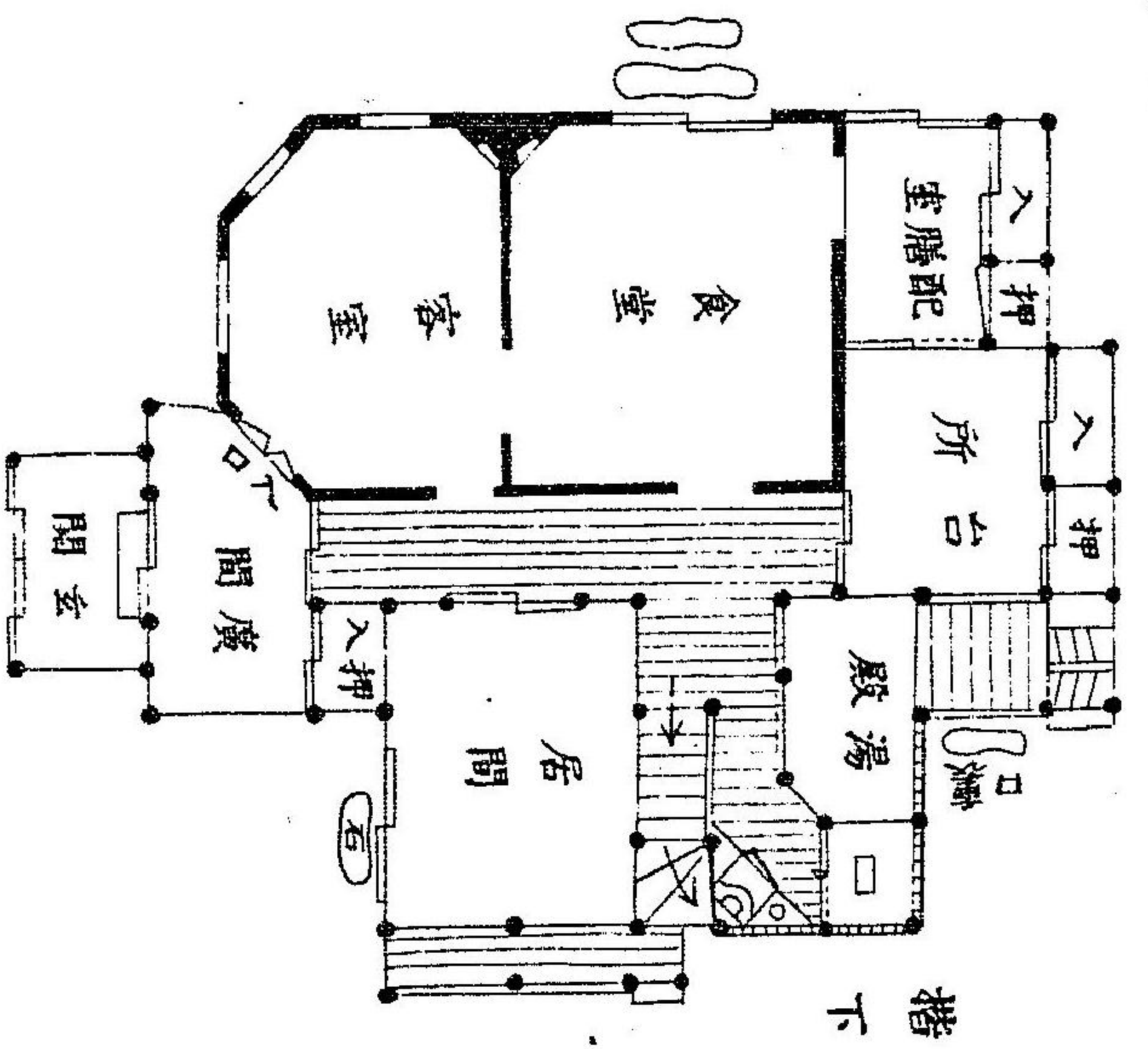
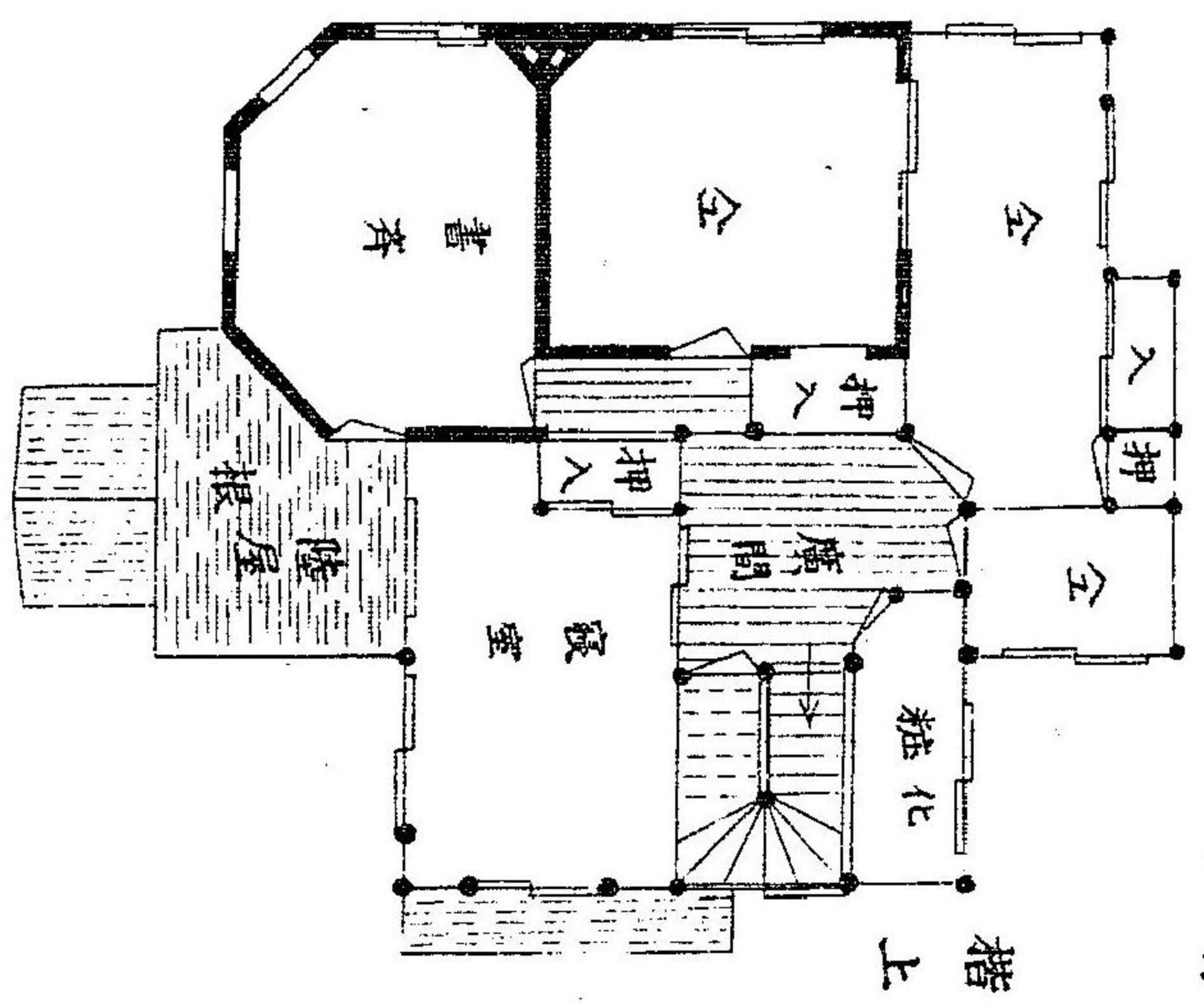
閱

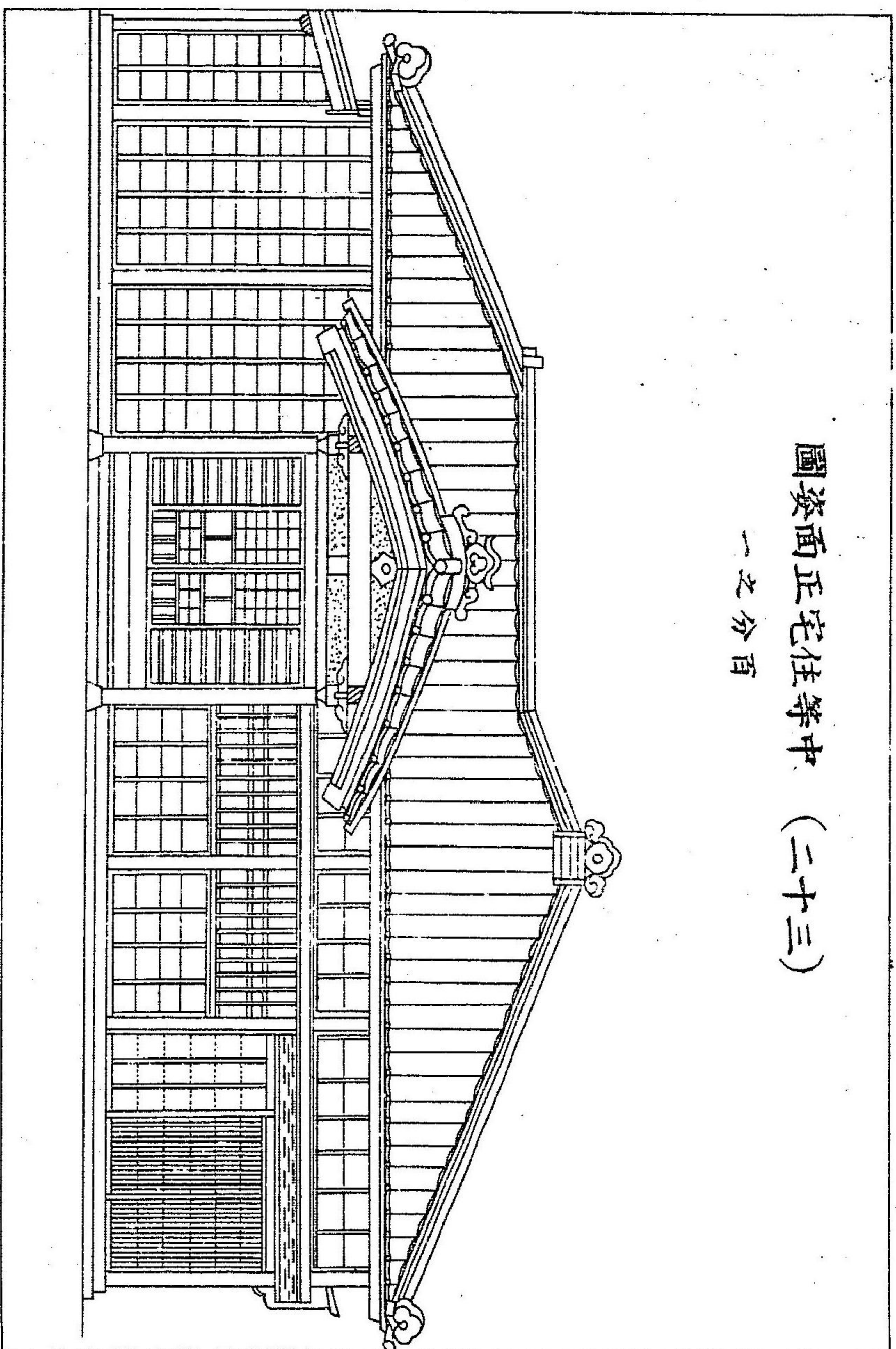
欠

MISSING

和洋折衷住宅平面图 (十三)

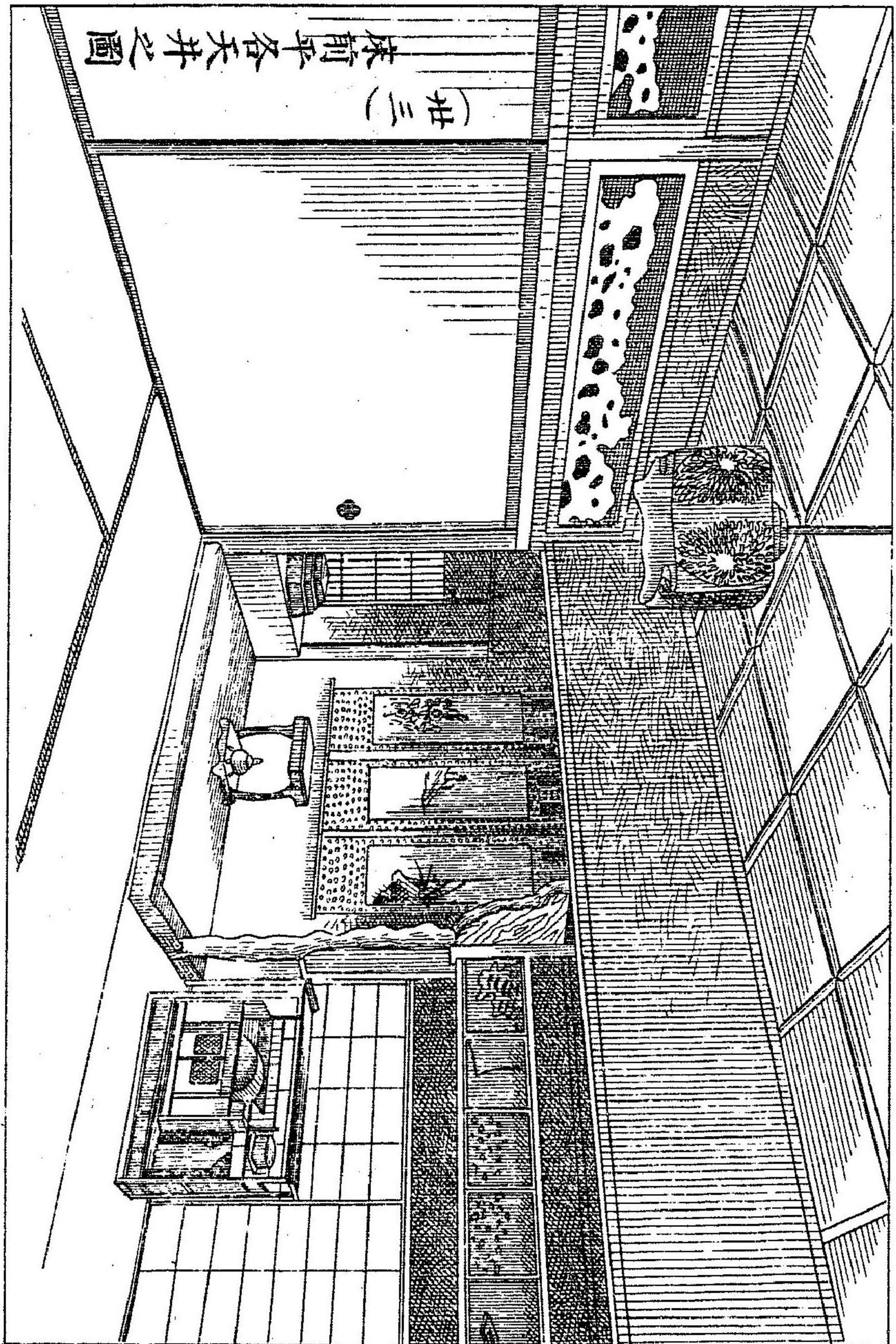
百分之一





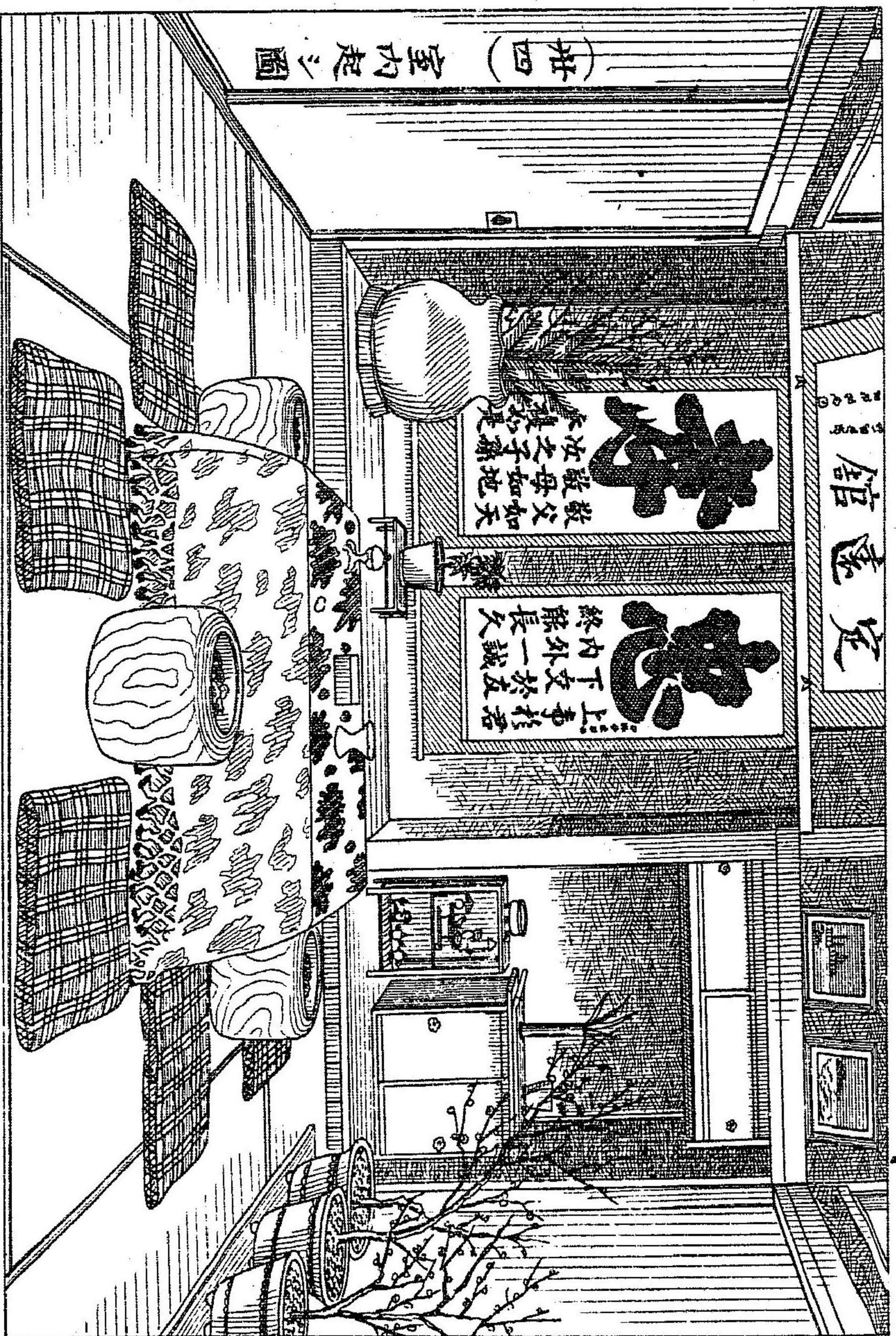
圖姿面正宅住第中 (二十三)

一之分百



床前平各天井之圖

(卅三)



(第四) 室內起之圖

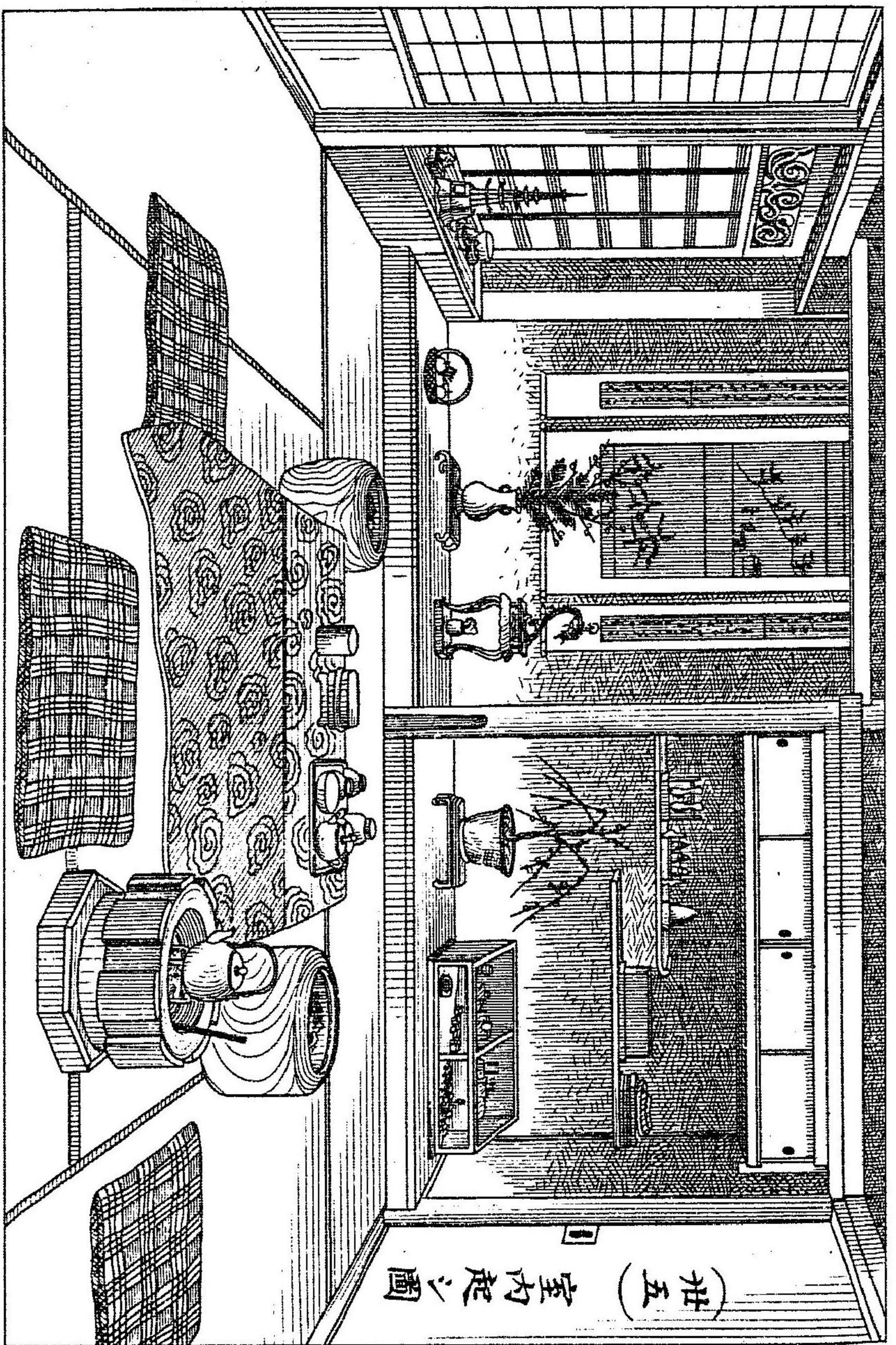
定遠館

孝

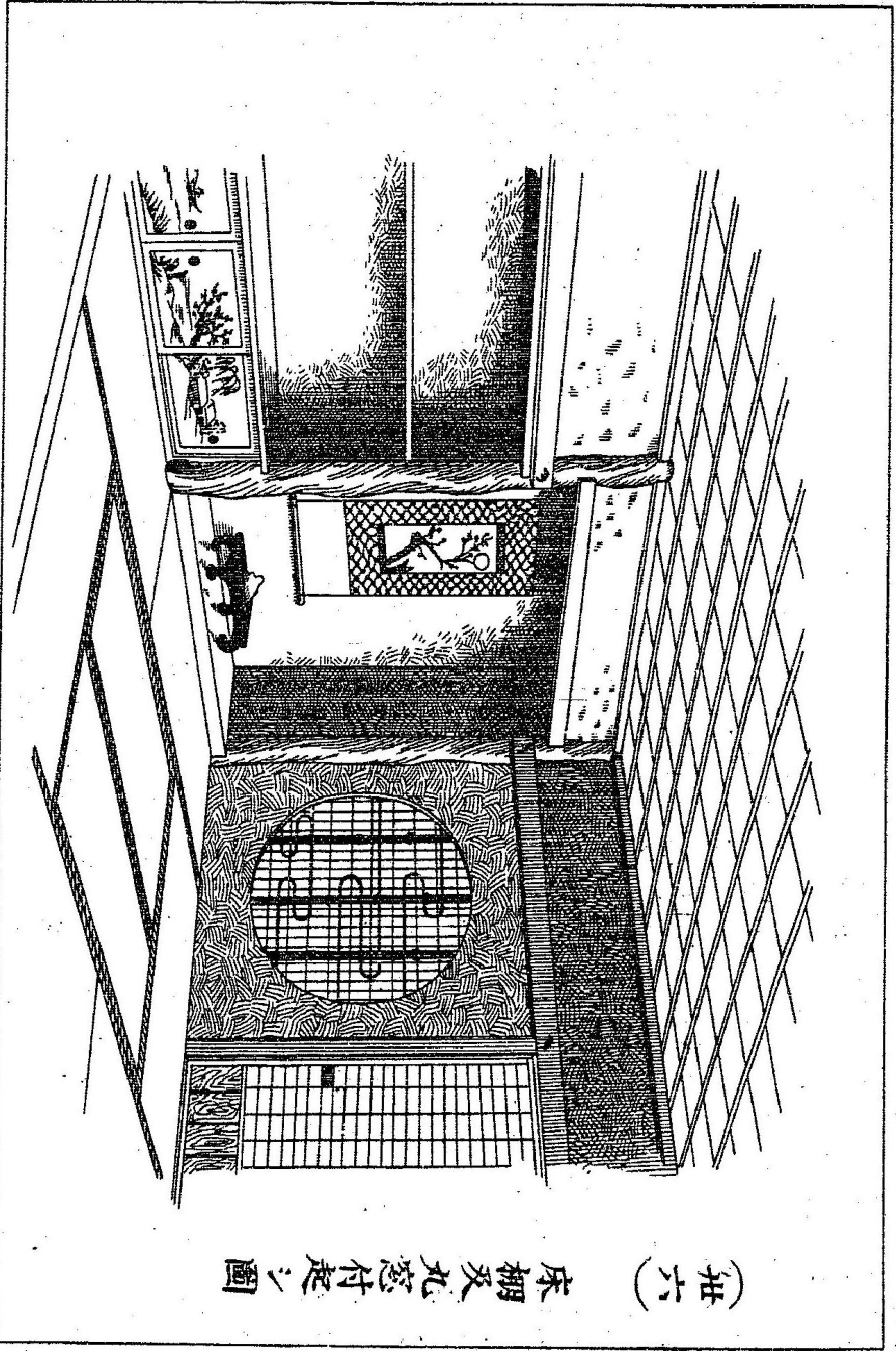
敬父如天
敬母如地
次之子孫
永無虧損

忠

上事於君
下交於友
終始長久
終無變心

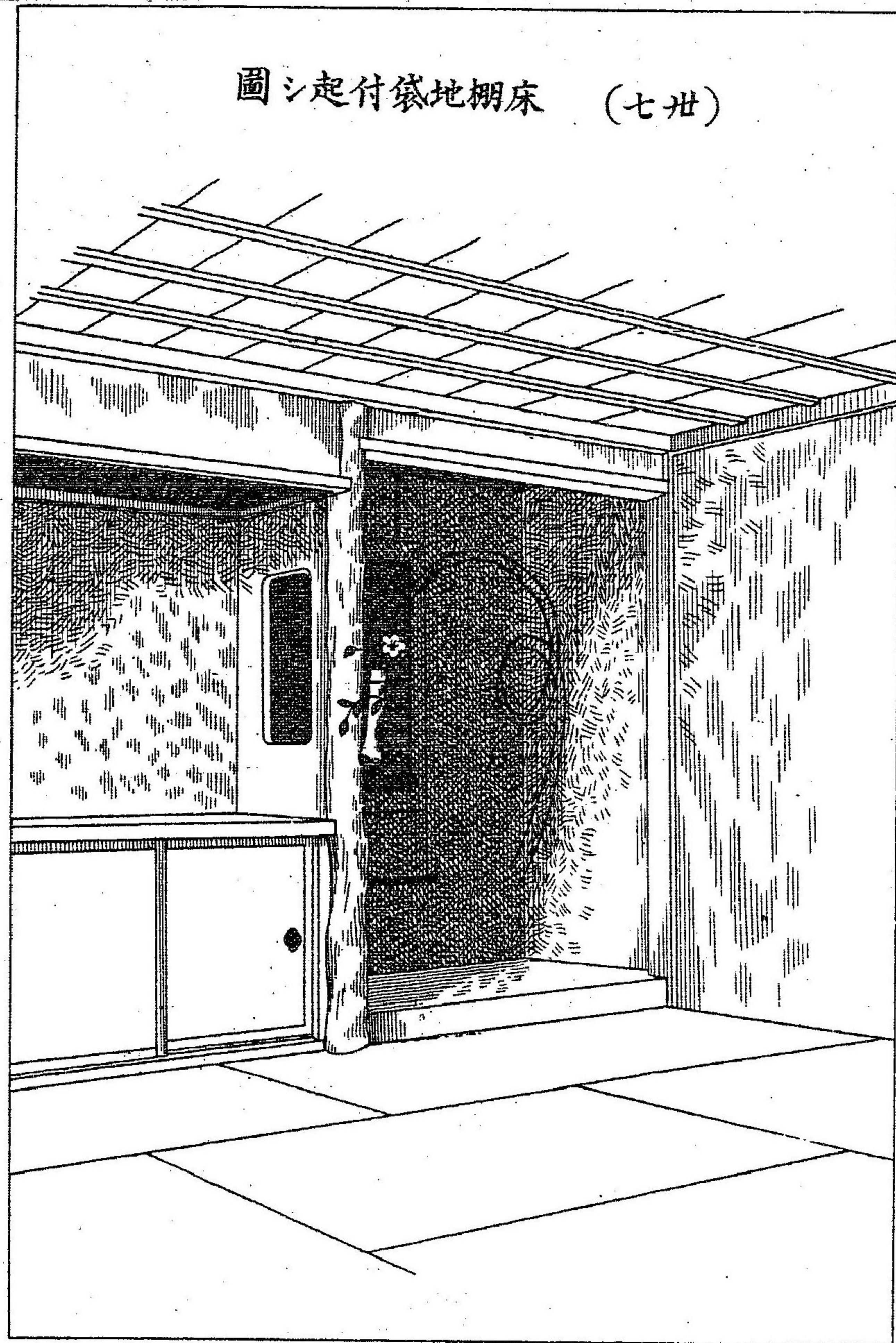


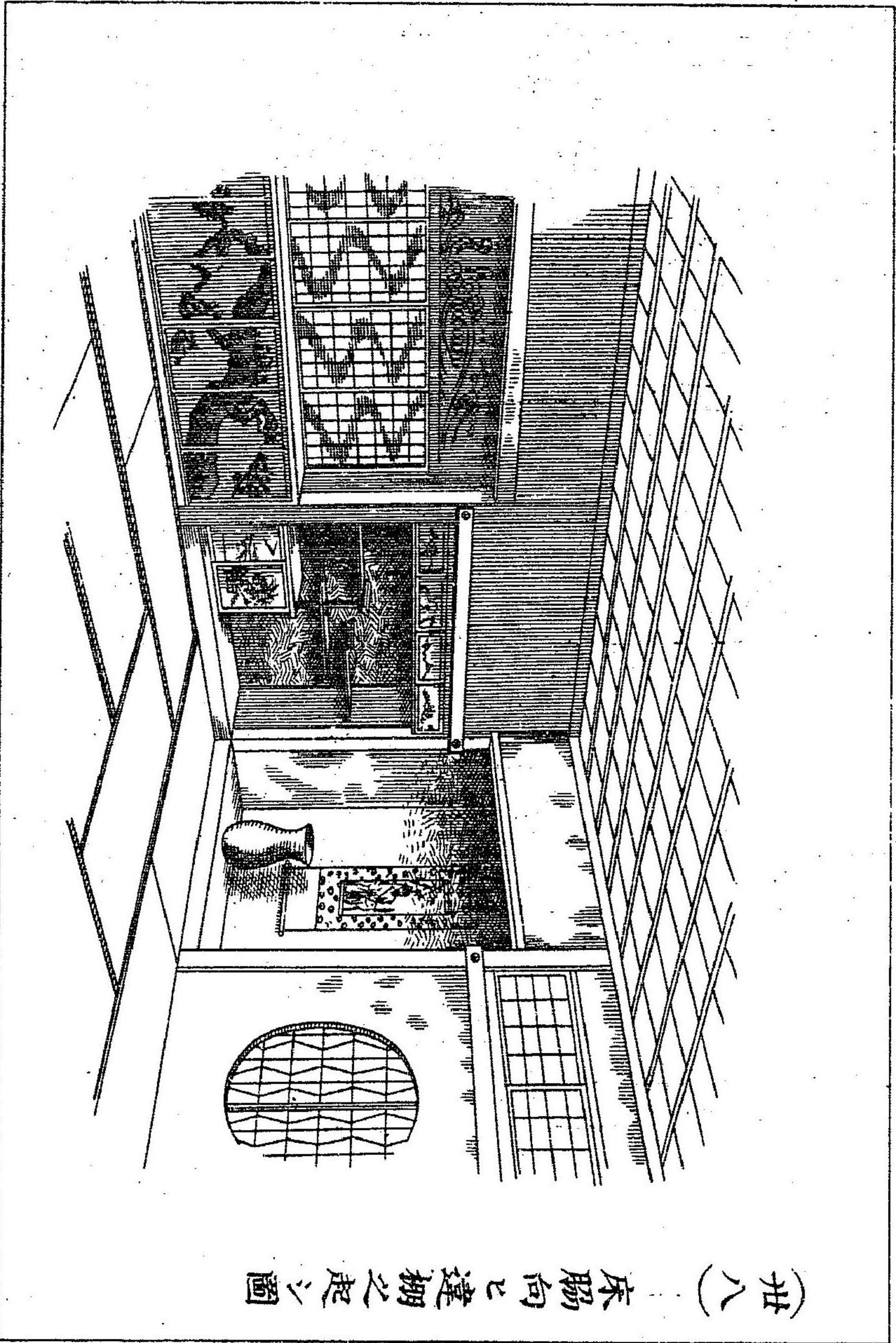
(五) 室内起之圖



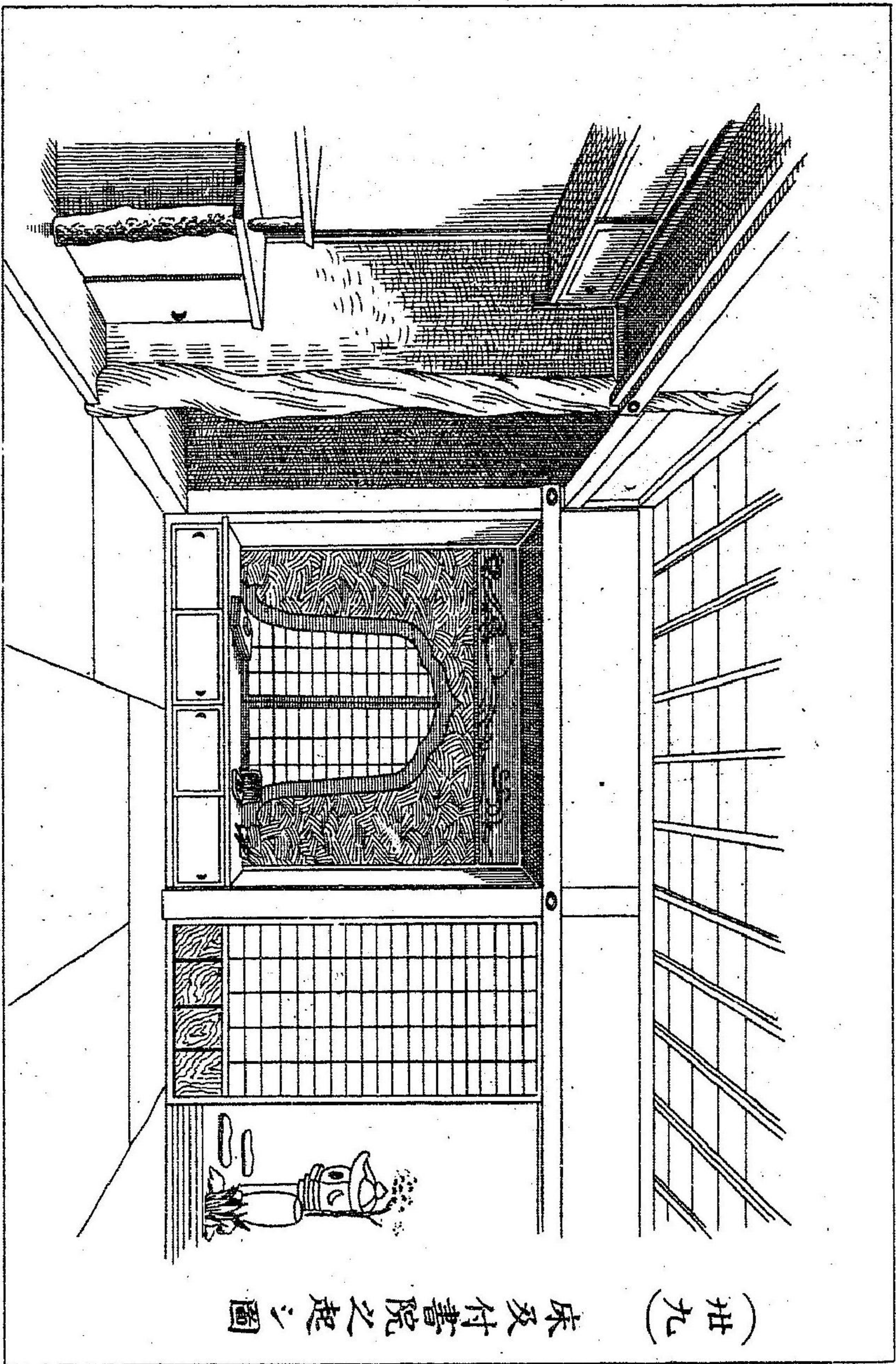
(图六) 床棚及九窗付起之圖

圖シ起付袋地棚床 (七卅)

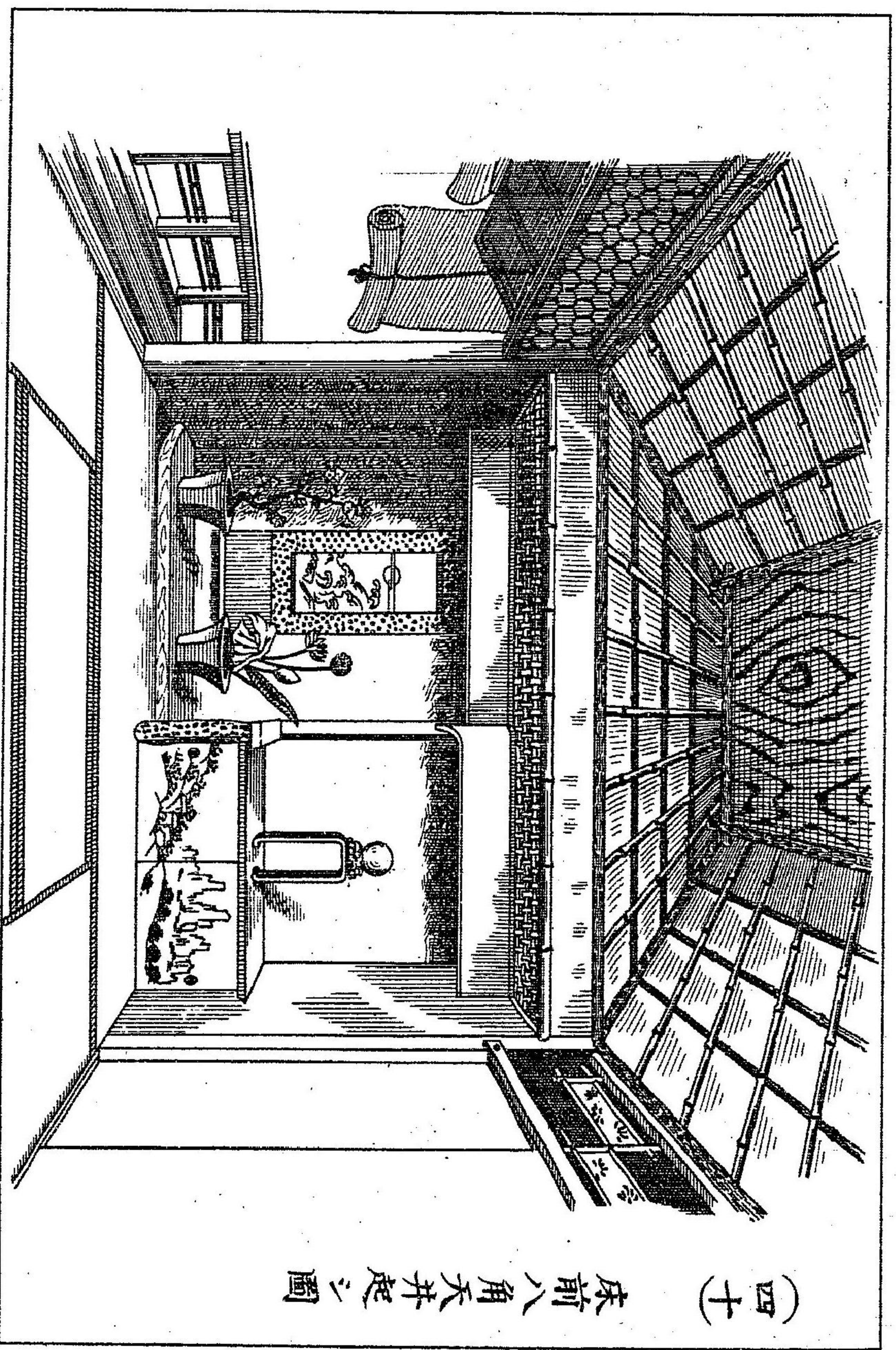




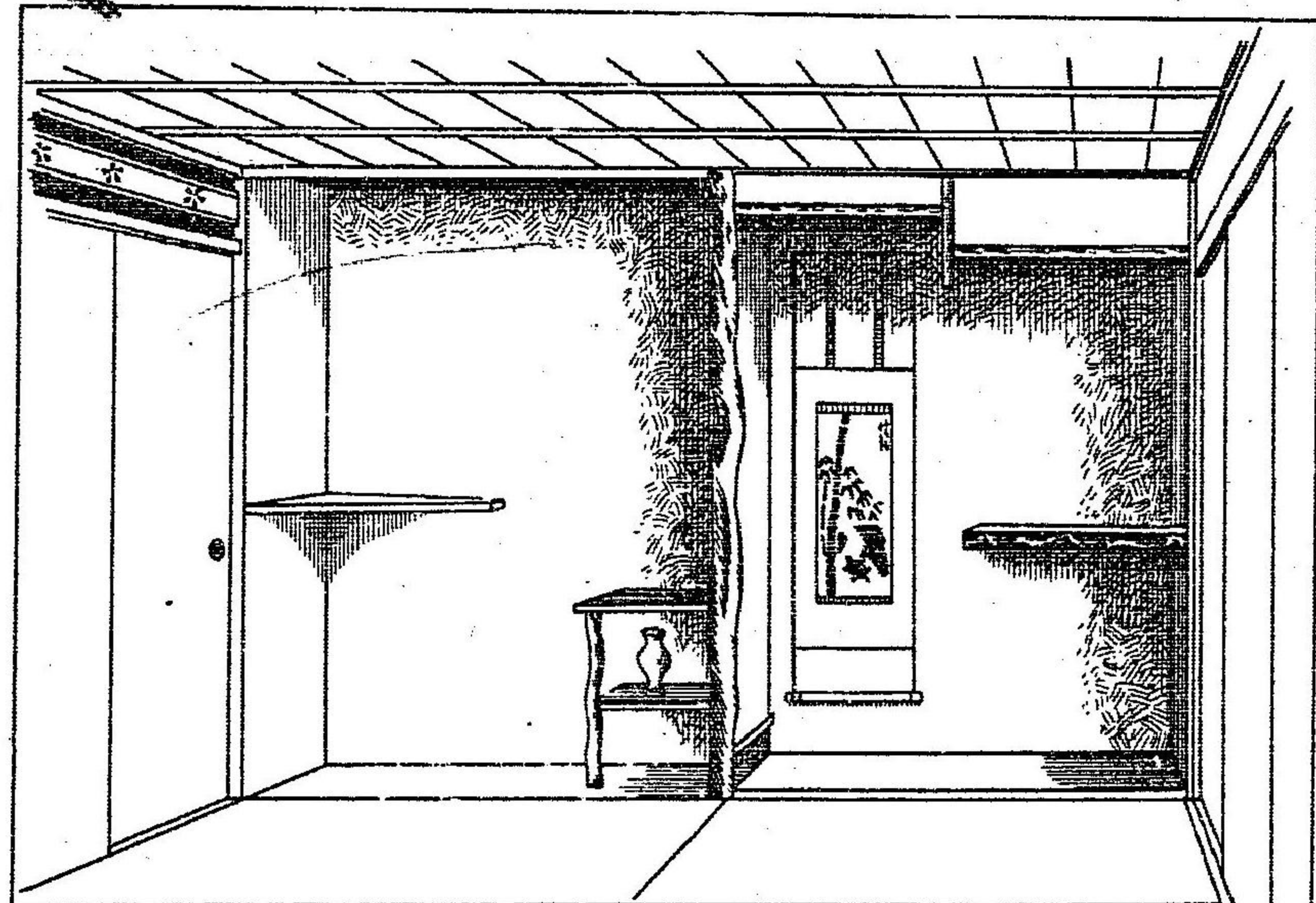
(卅八) 床脇向匕邊棚之起之圖



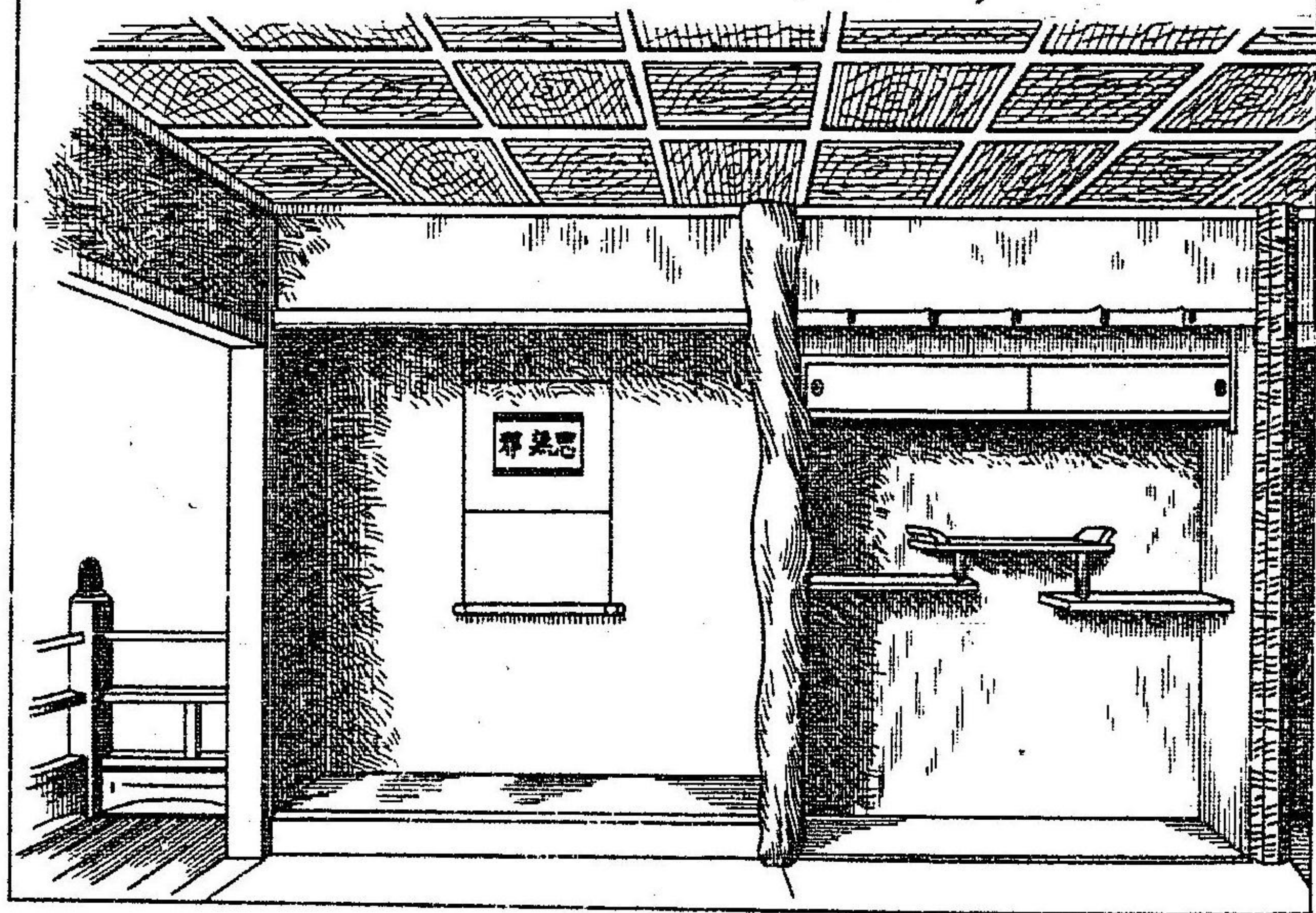
(卅九) 床及付書院之起之圖

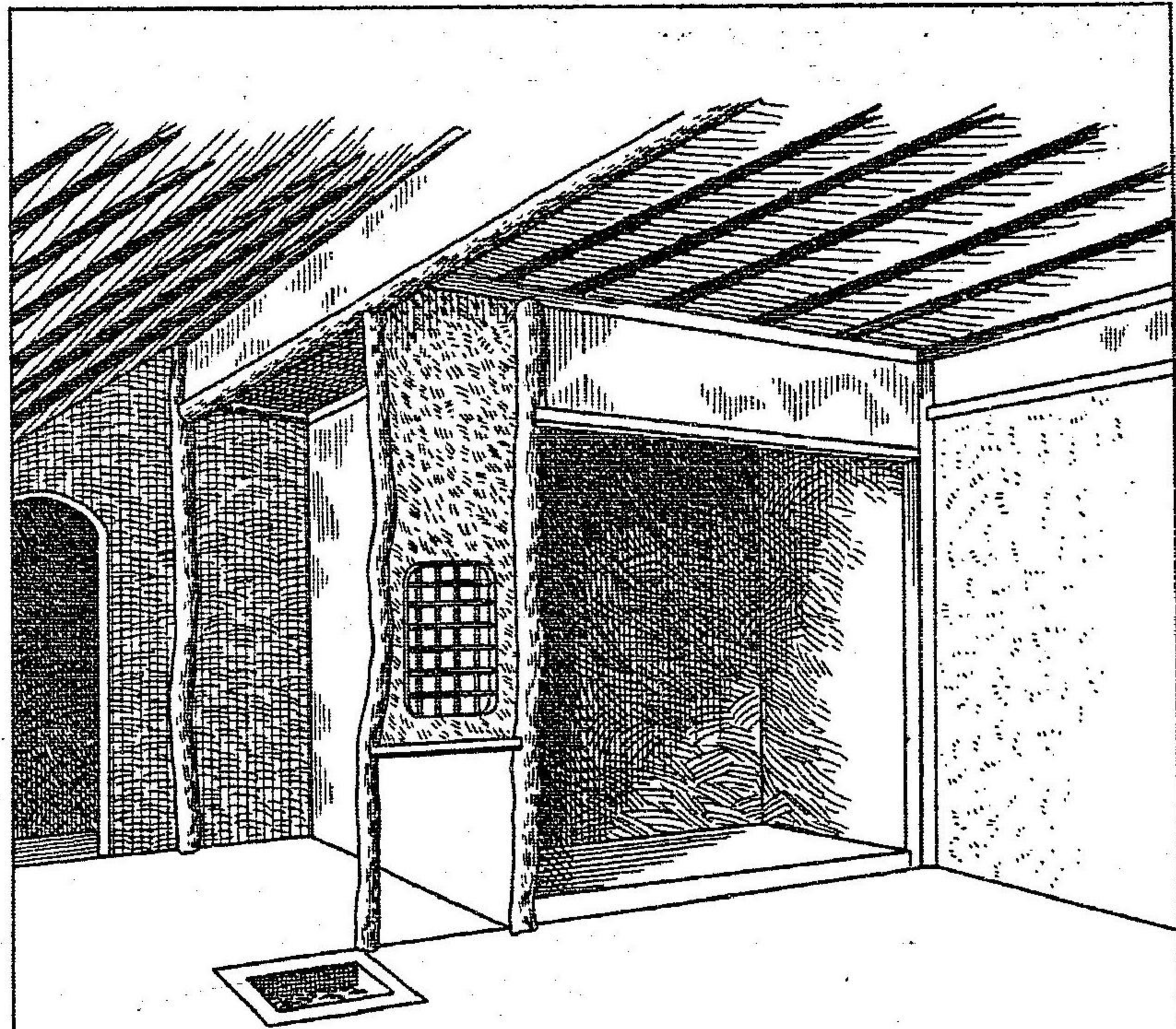


(四十) 床前八角天井起之圖

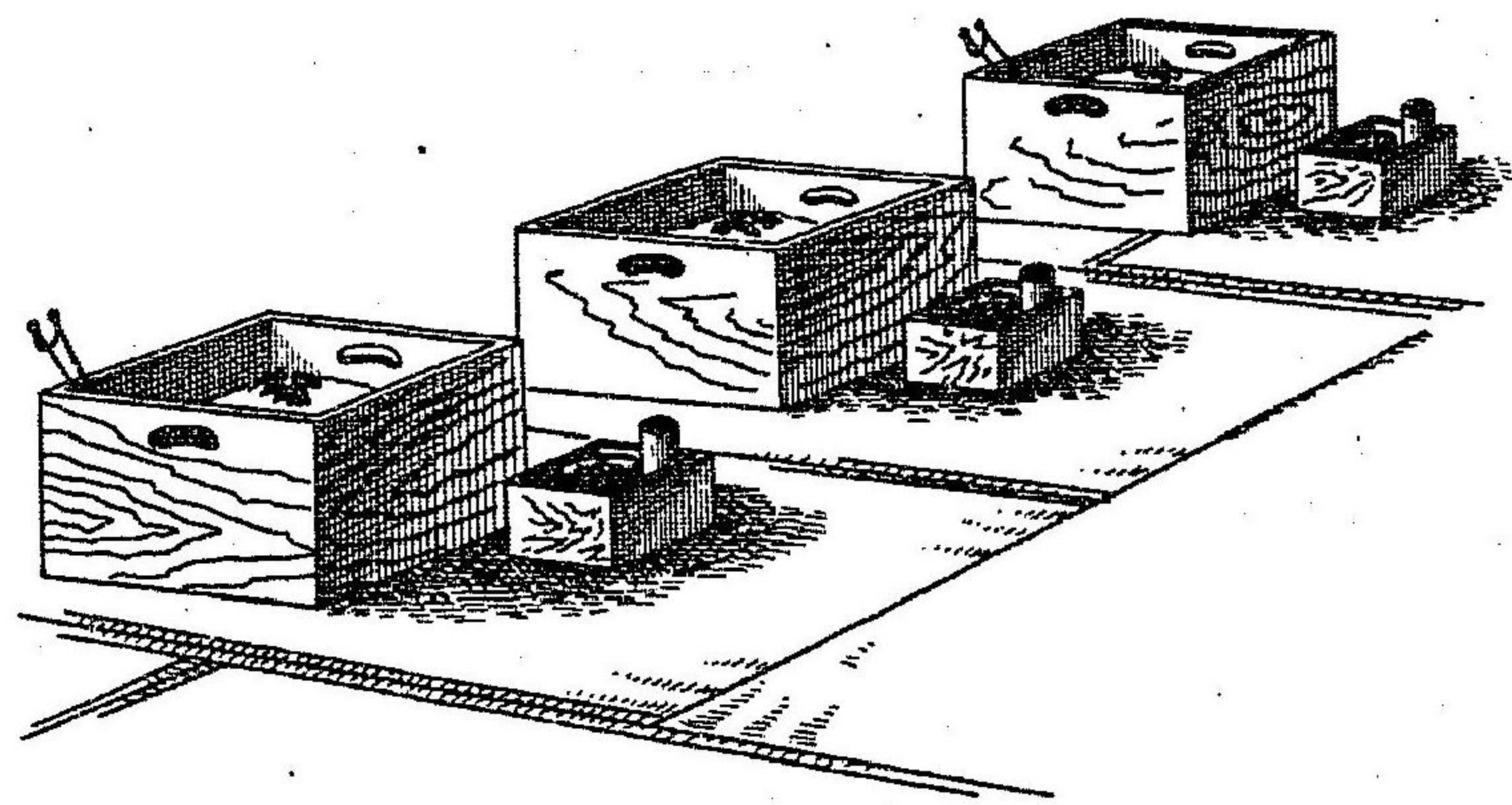


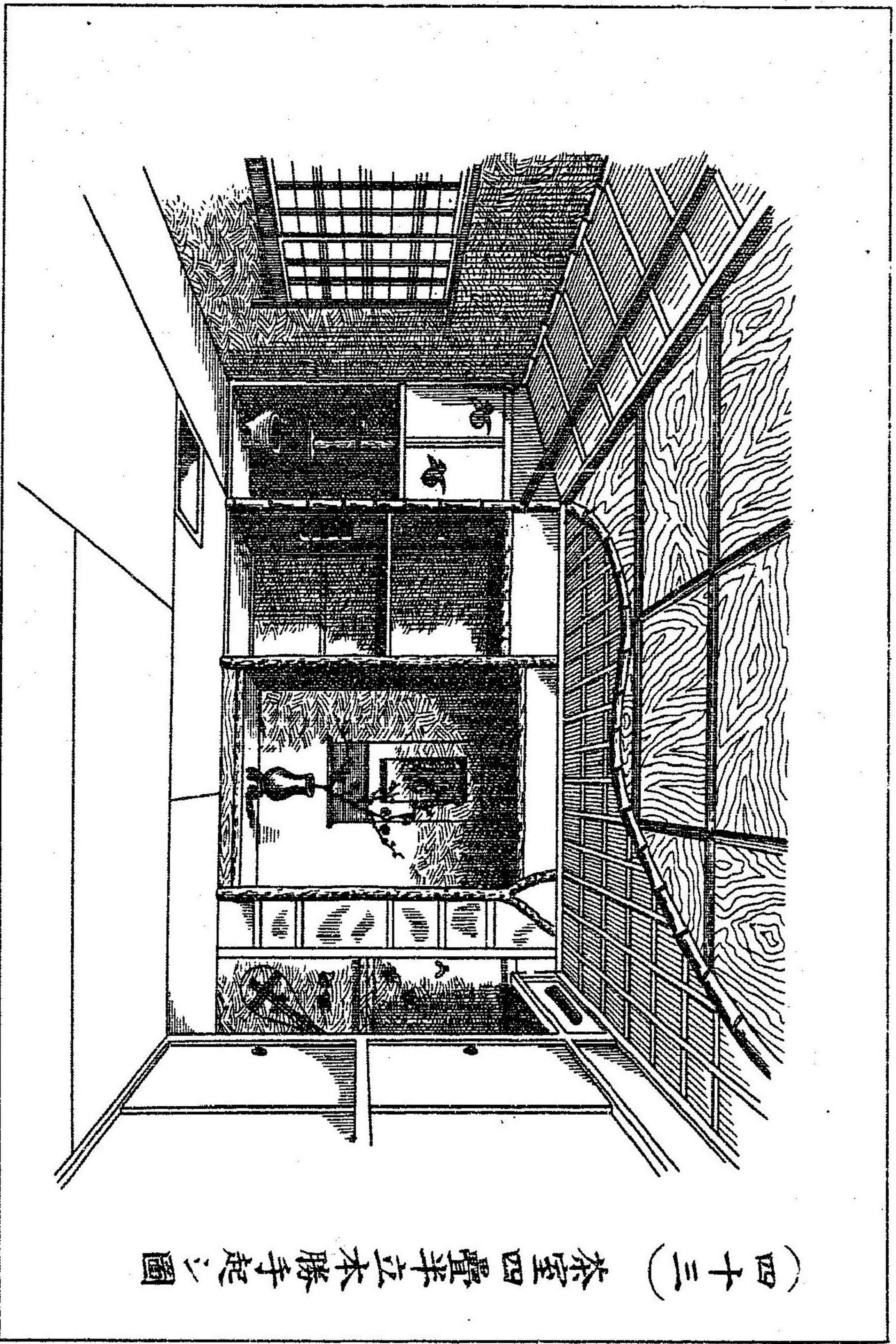
圖シ起棚床各 (一十四)



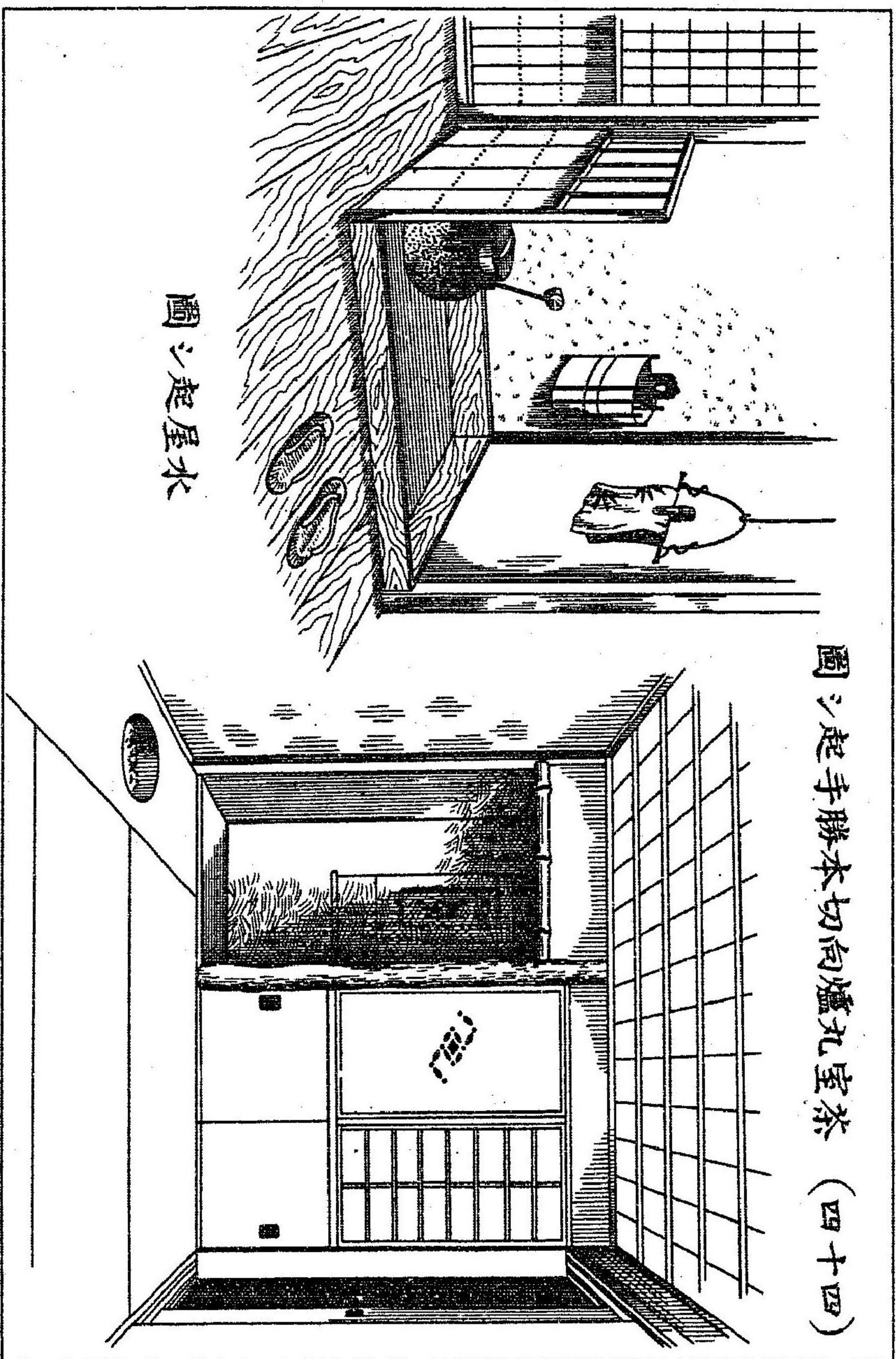


圖シ起手勝本立目大室茶 (二十四)



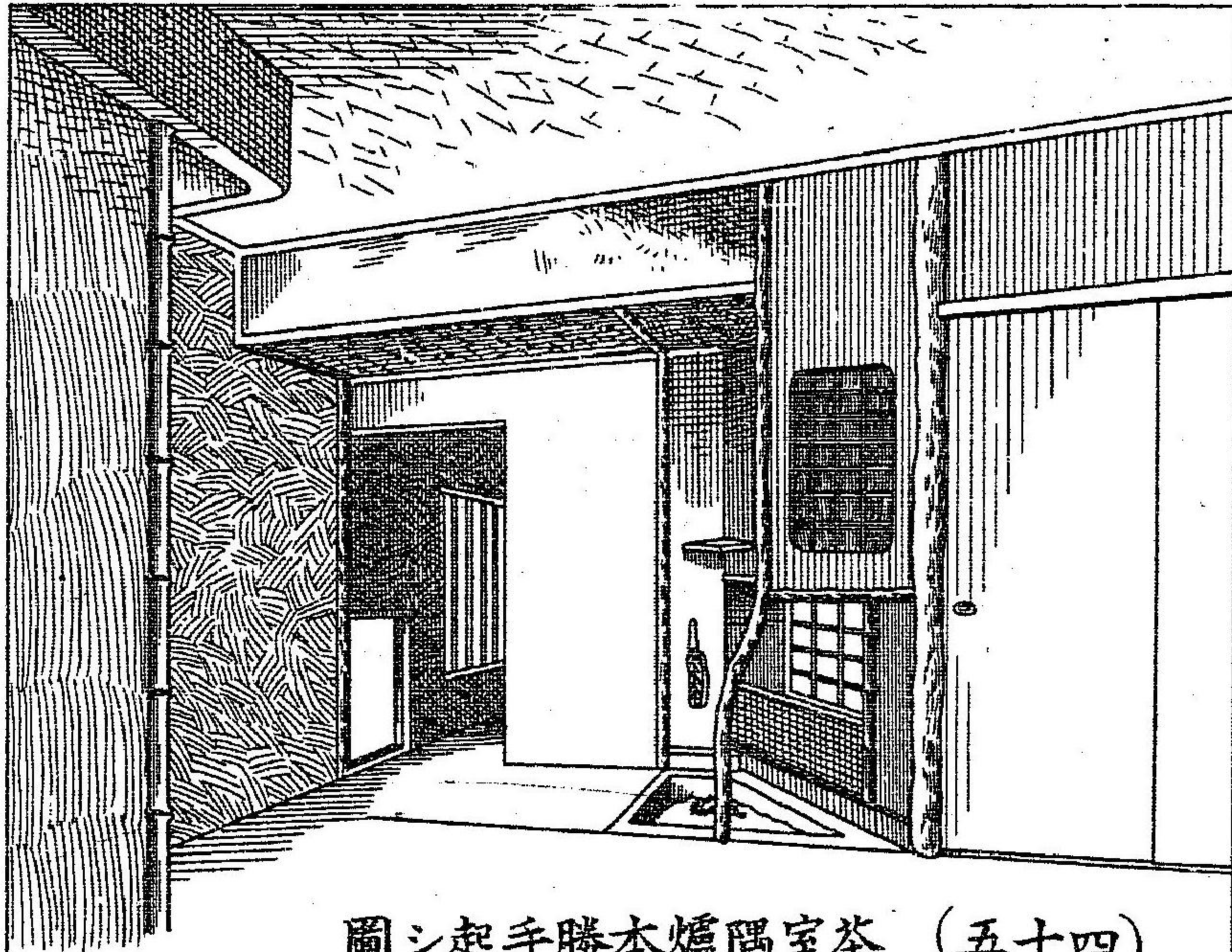


(四十三) 茶室四疊半立本勝手起之圖

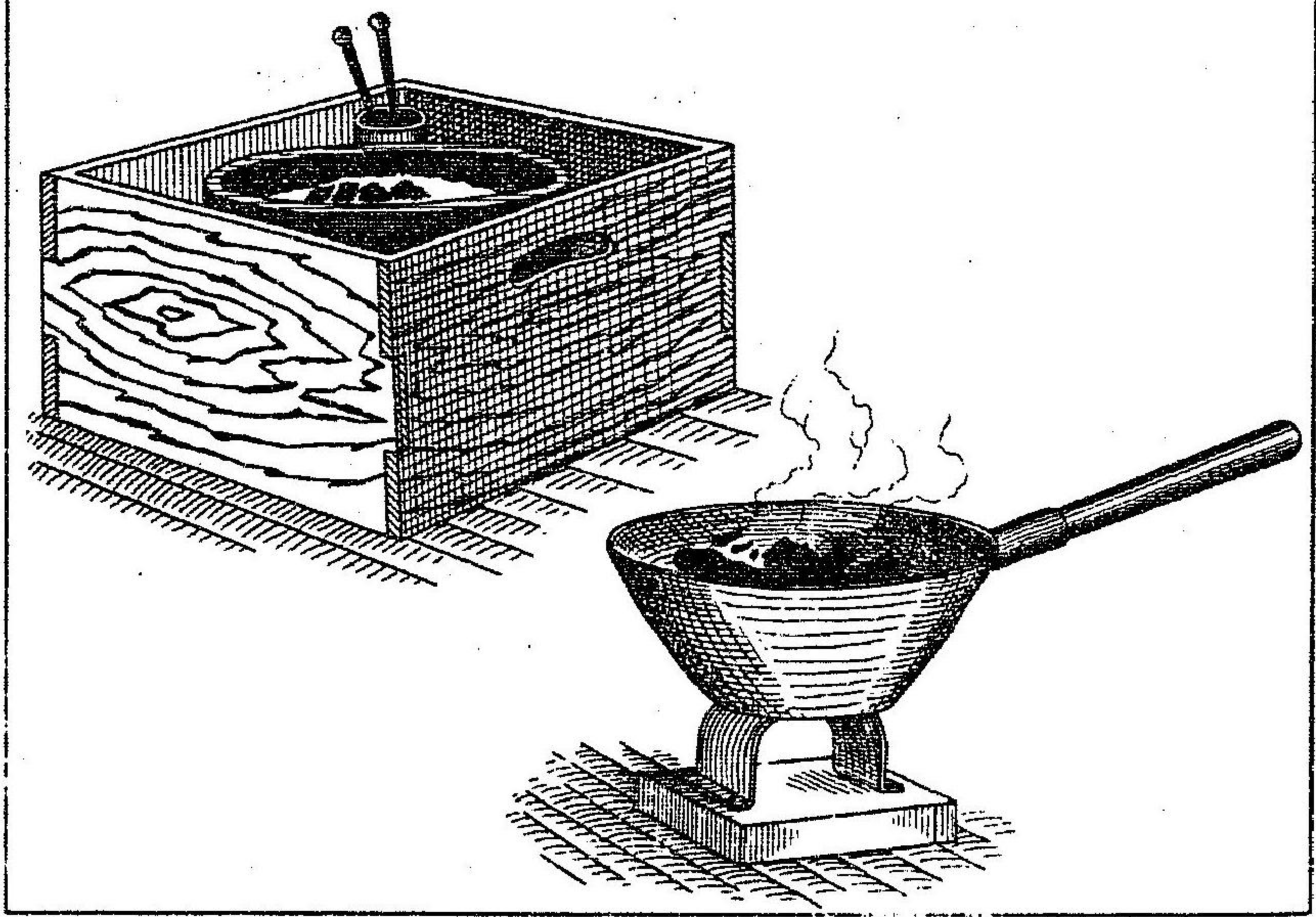


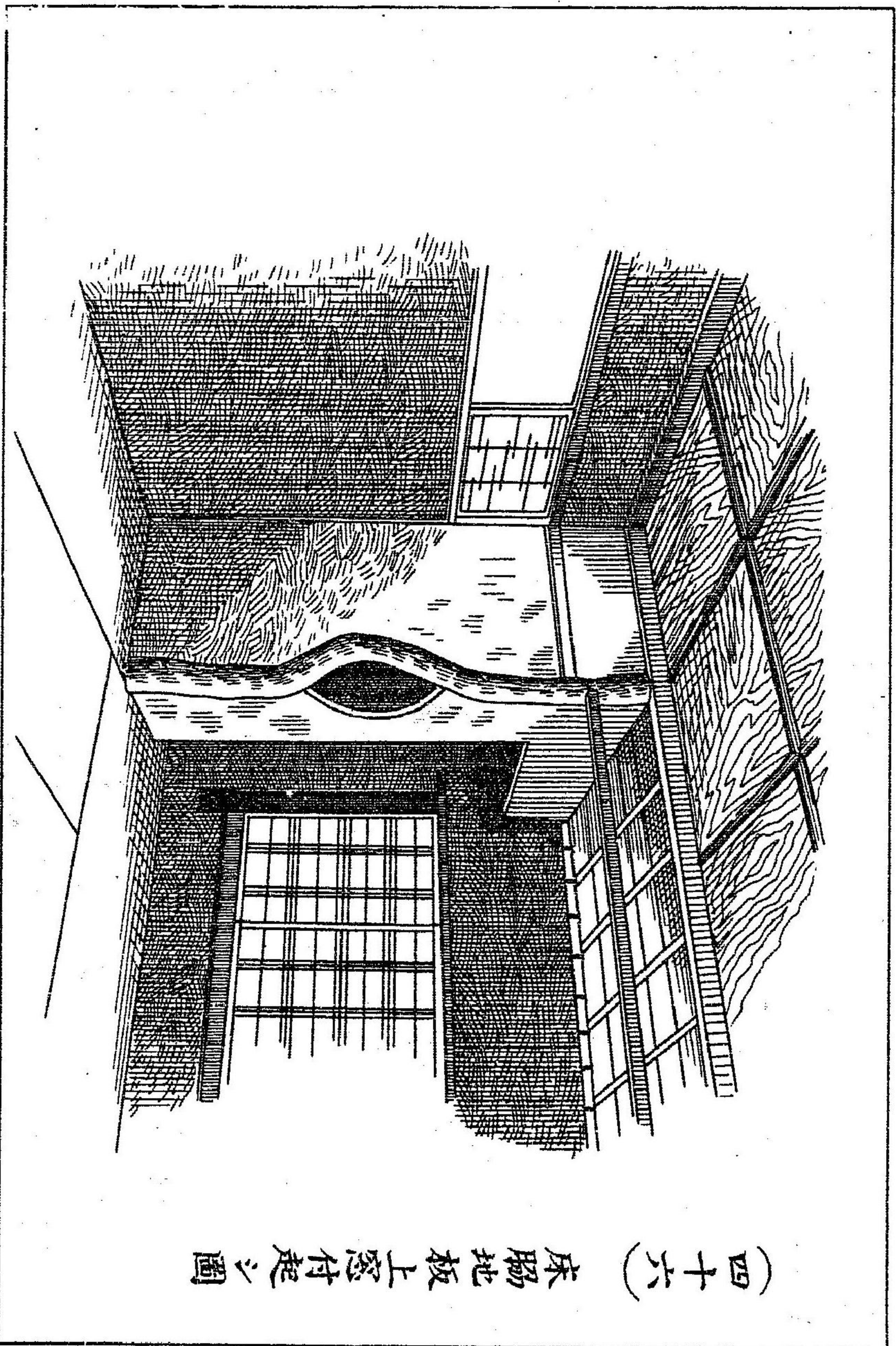
圖之起屋水

圖之起手勝本切向爐丸室茶 (四十四)

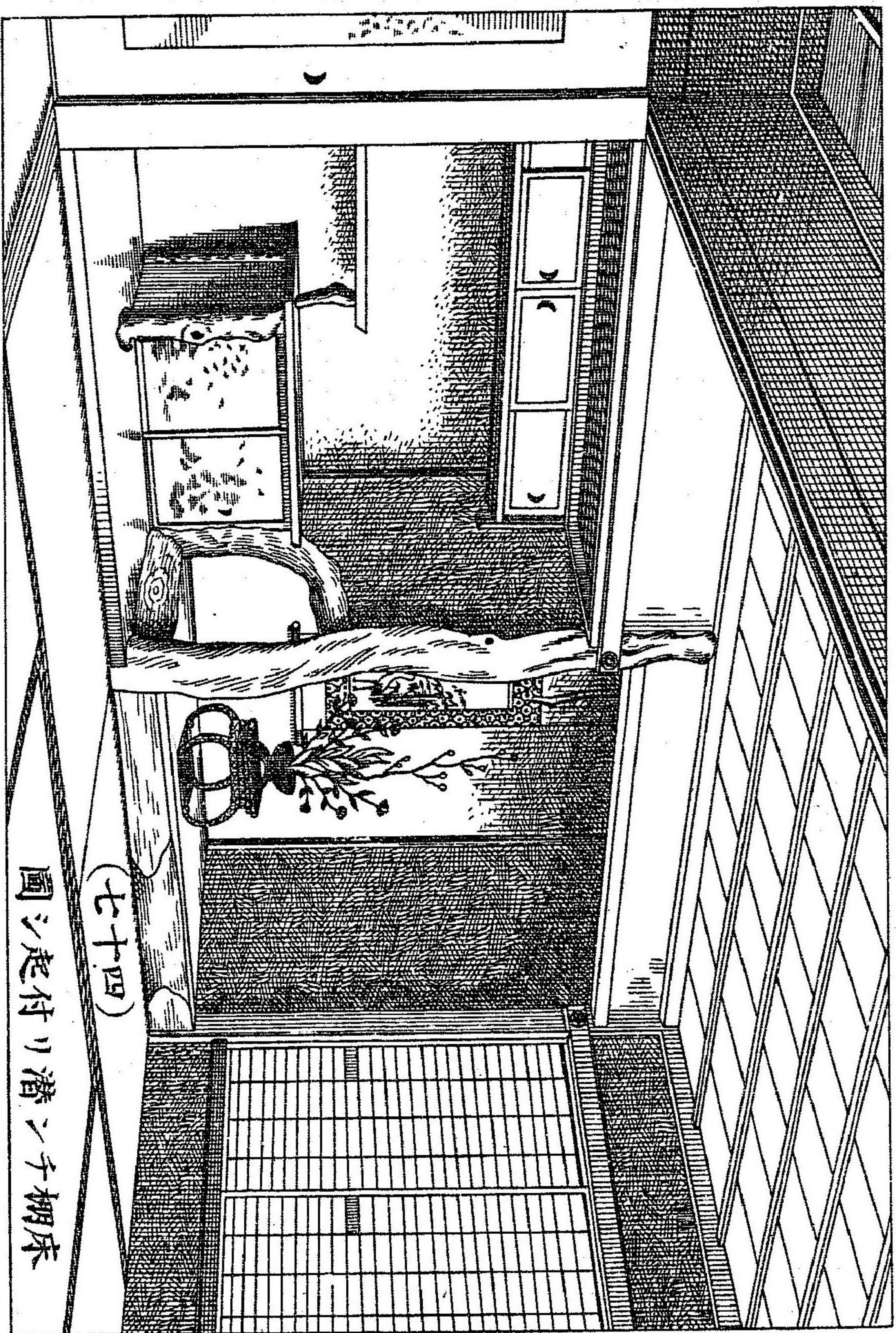


圖シ起手勝本爐隅室茶 (五十四)



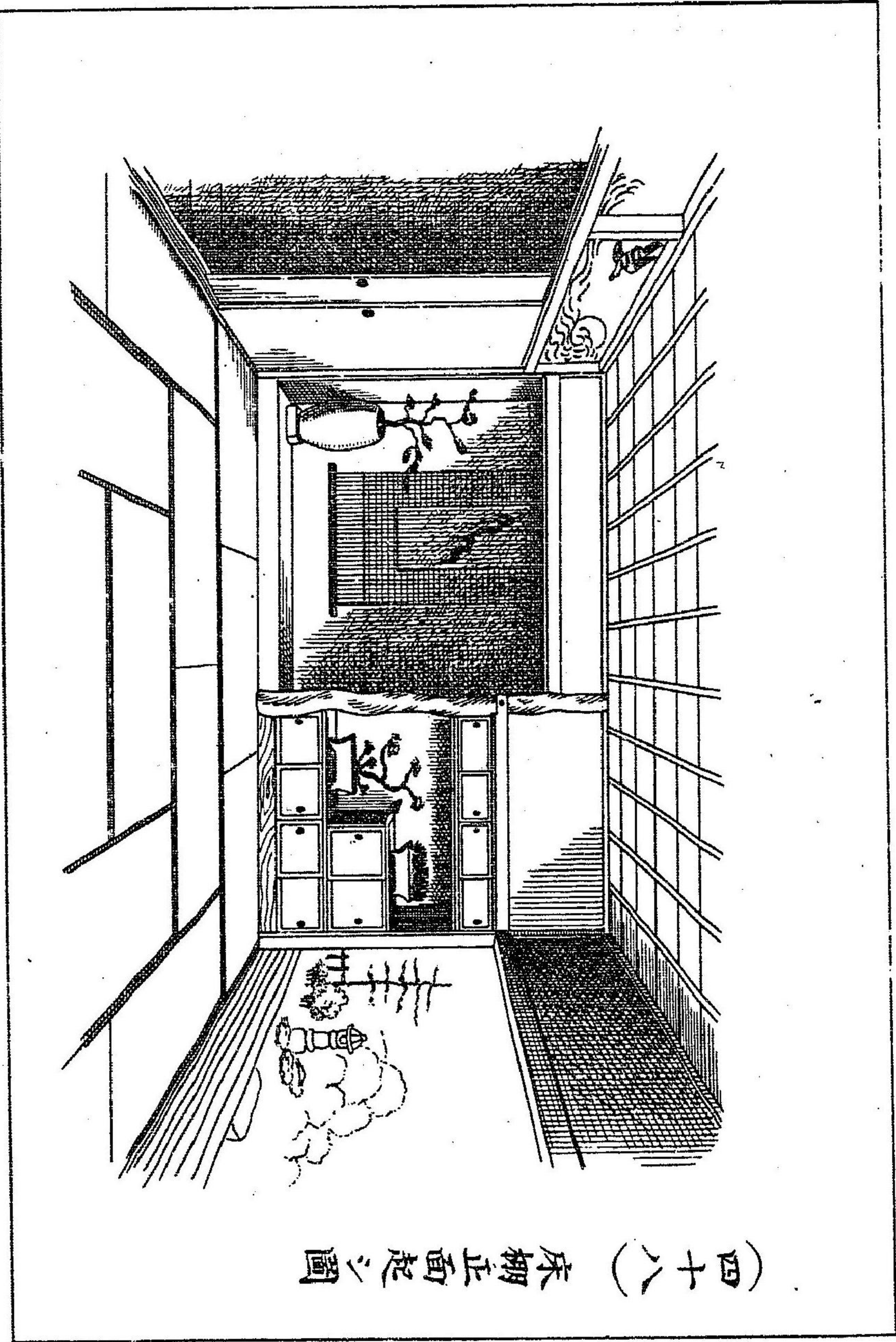


(四十六) 床榻地板上窓付起之圖

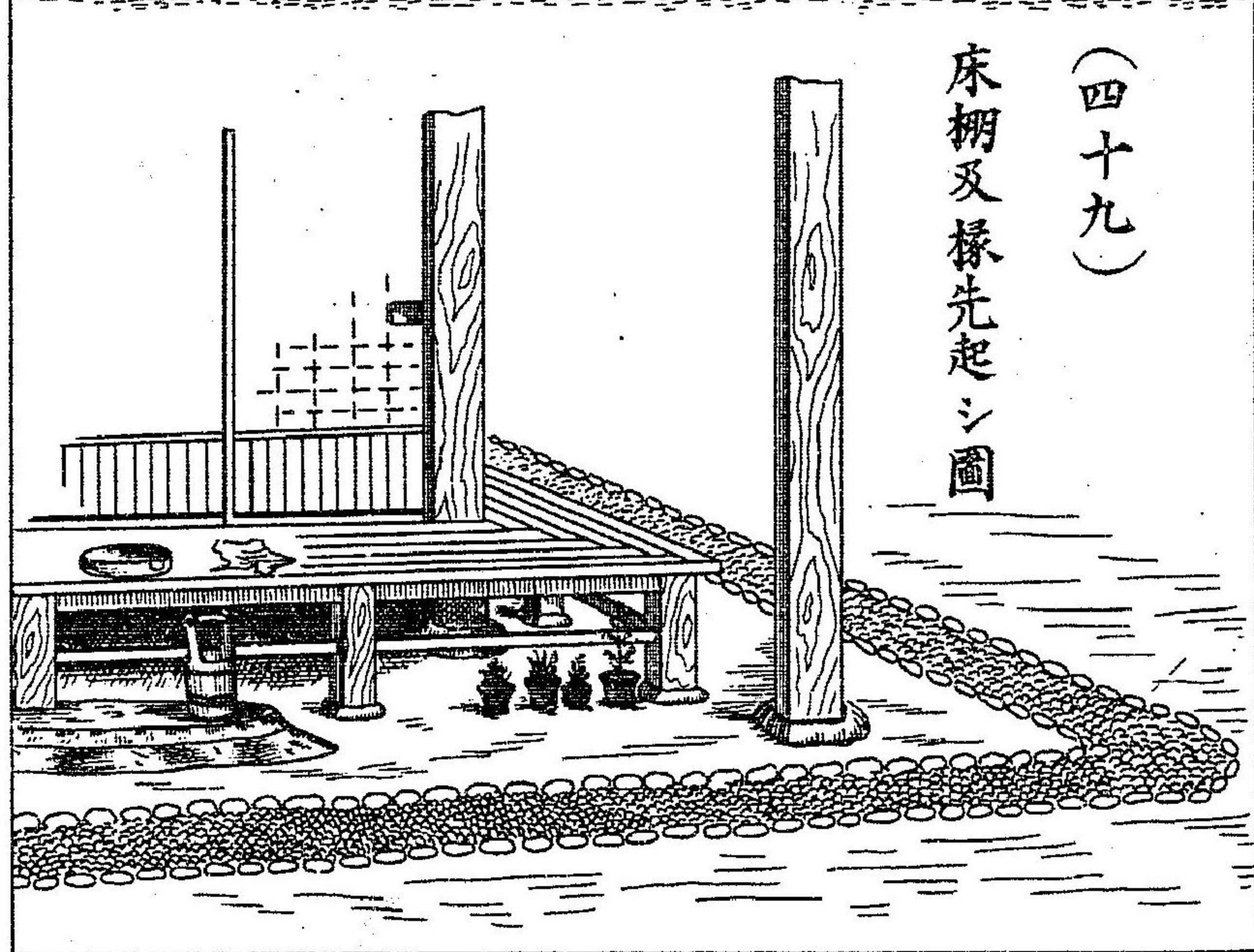
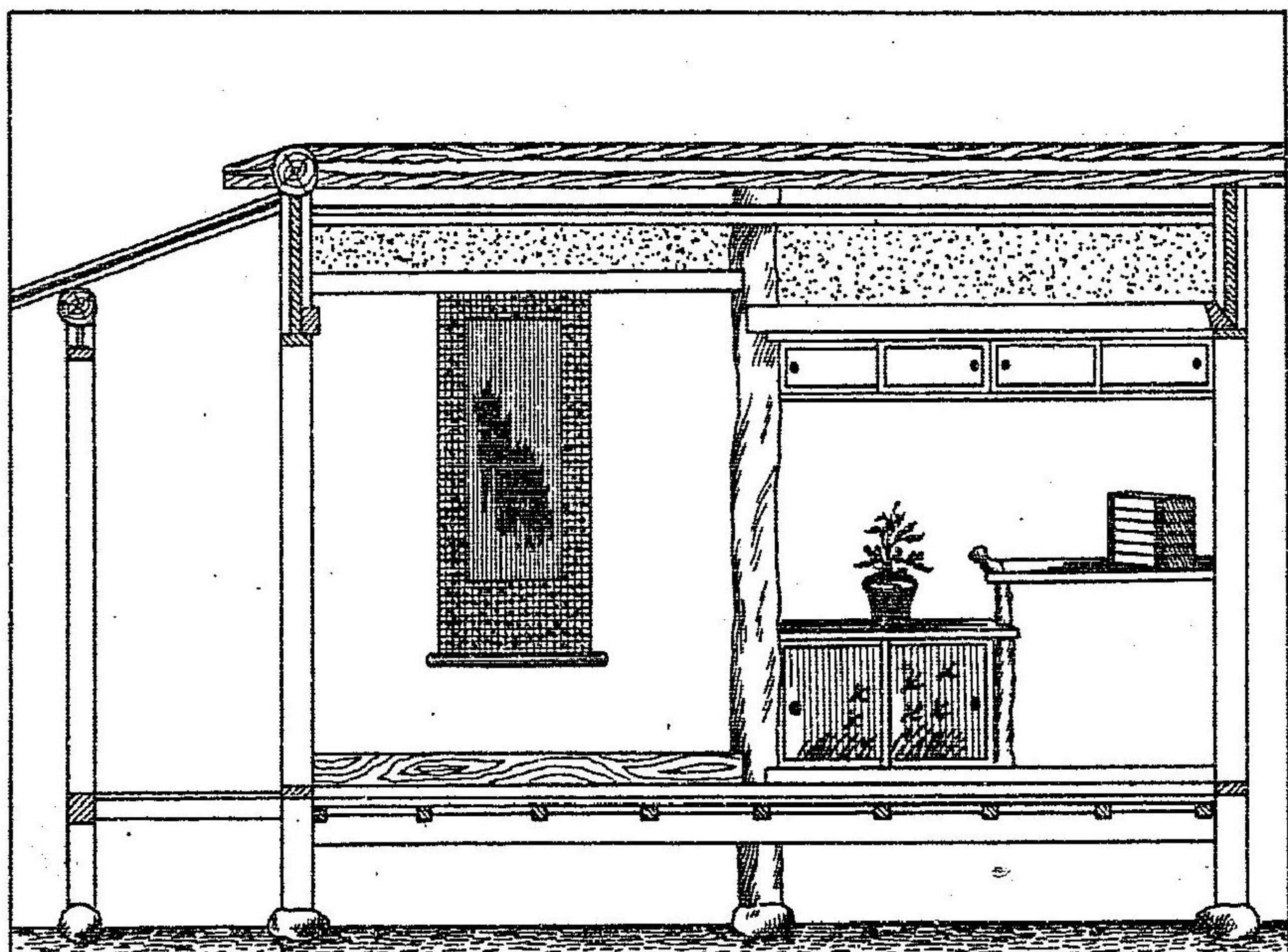


圖シ起付リ潜ニチ棚床

(七十四)

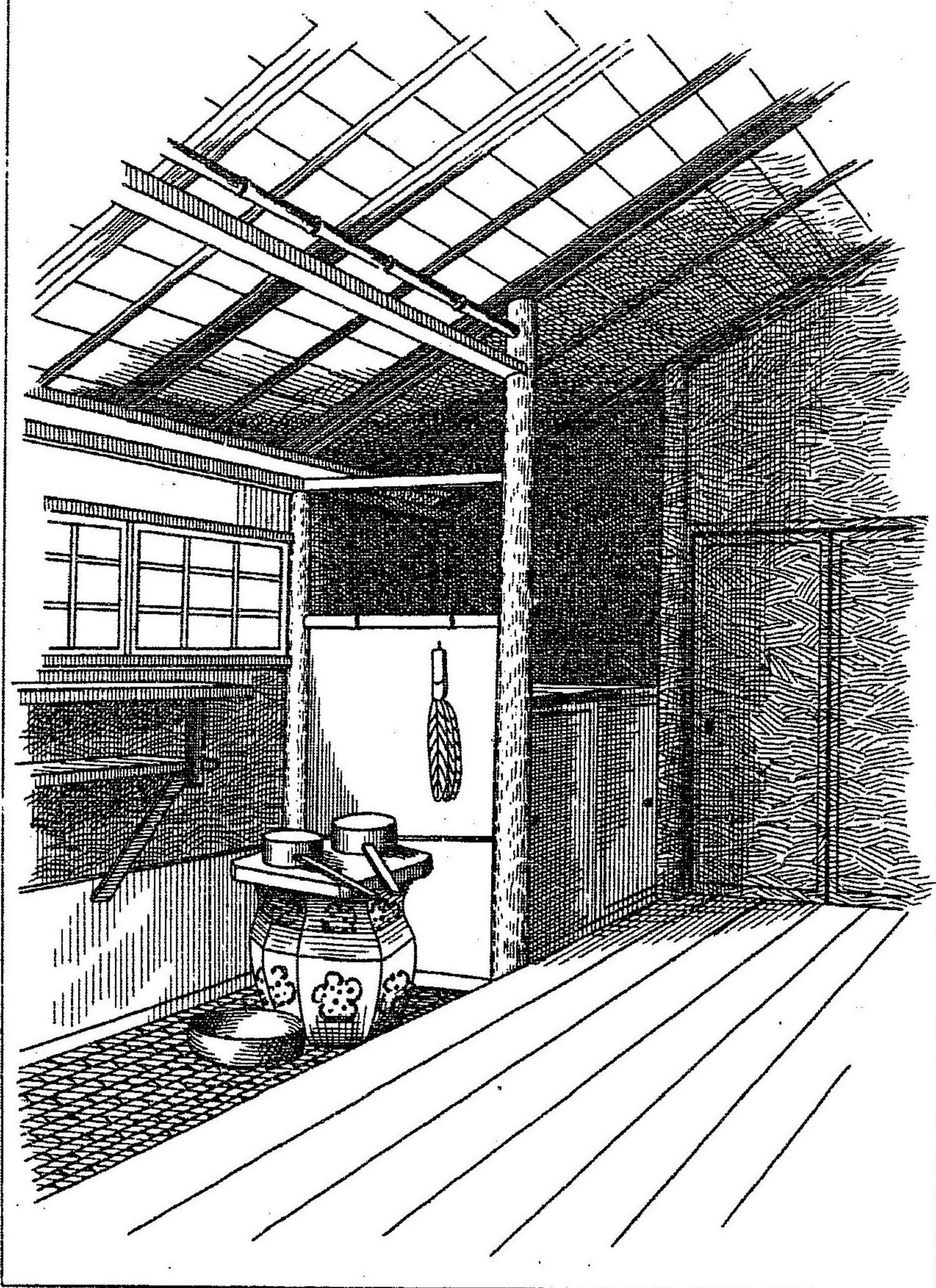


(四十八) 床棚正面起之圖

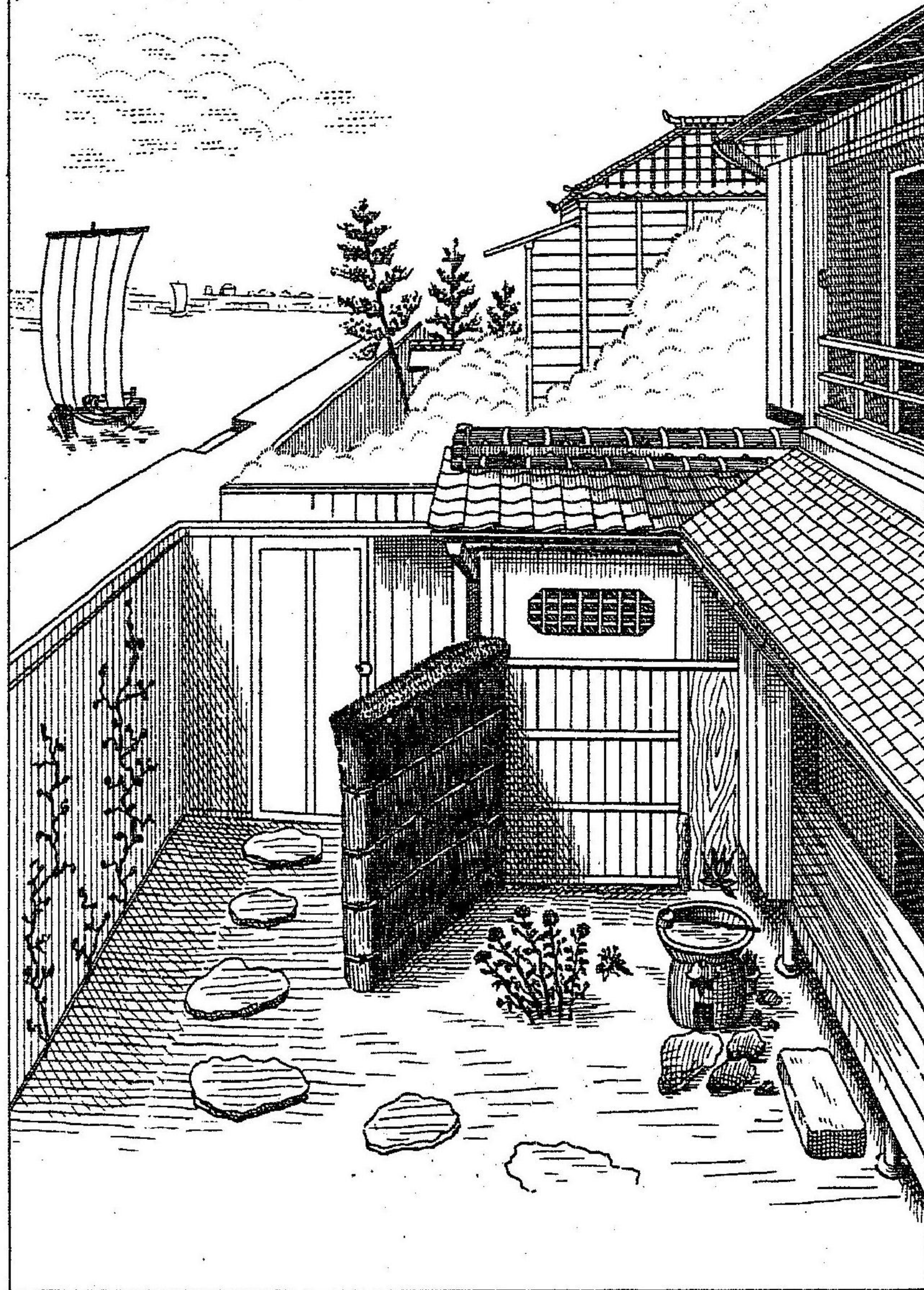


(四十九)
床棚及縁先起シ圖

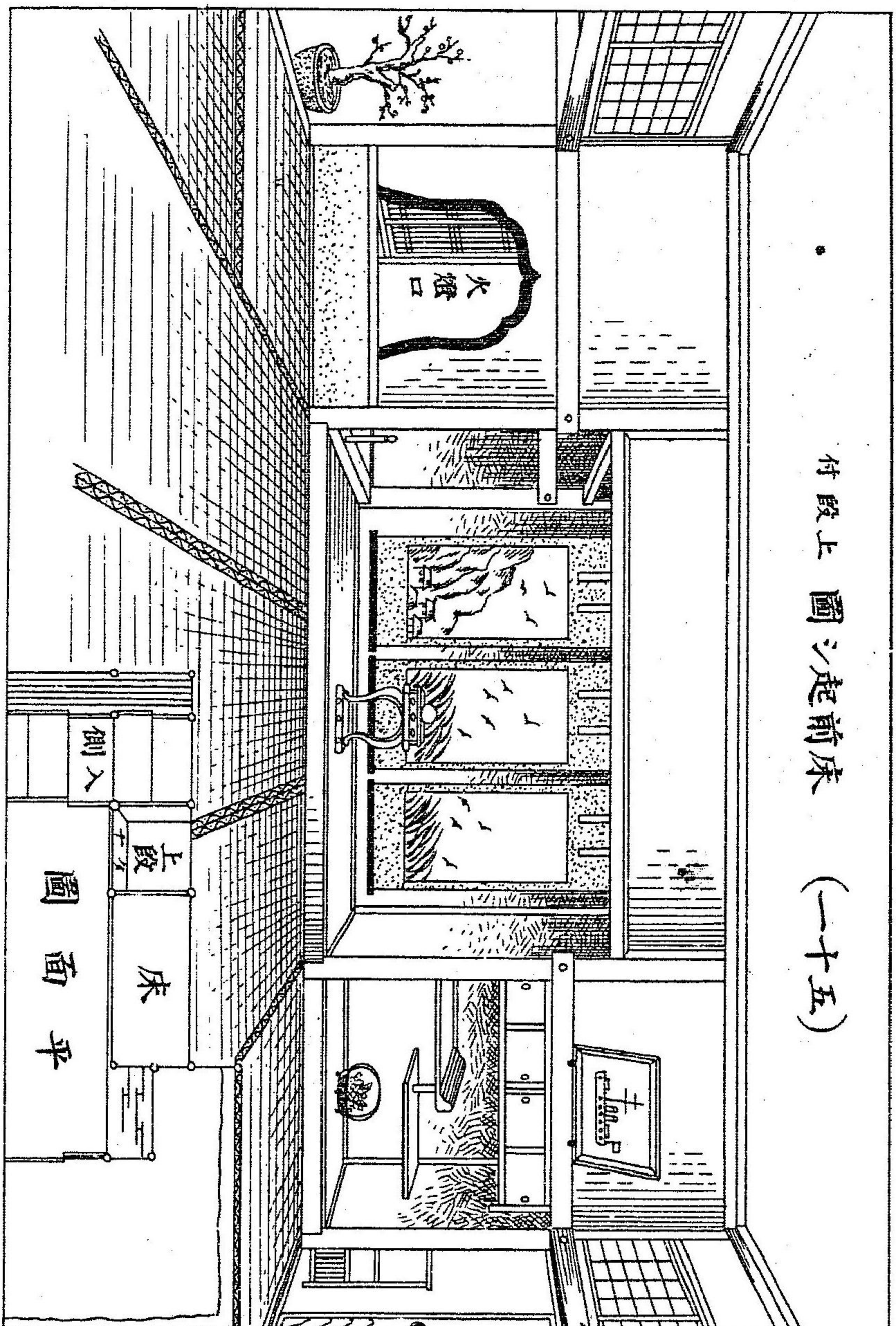
圖シ起ひ遣水及椽 (十五)



圖景院隱及前鉢面裏宅邸士紳 (一十五)

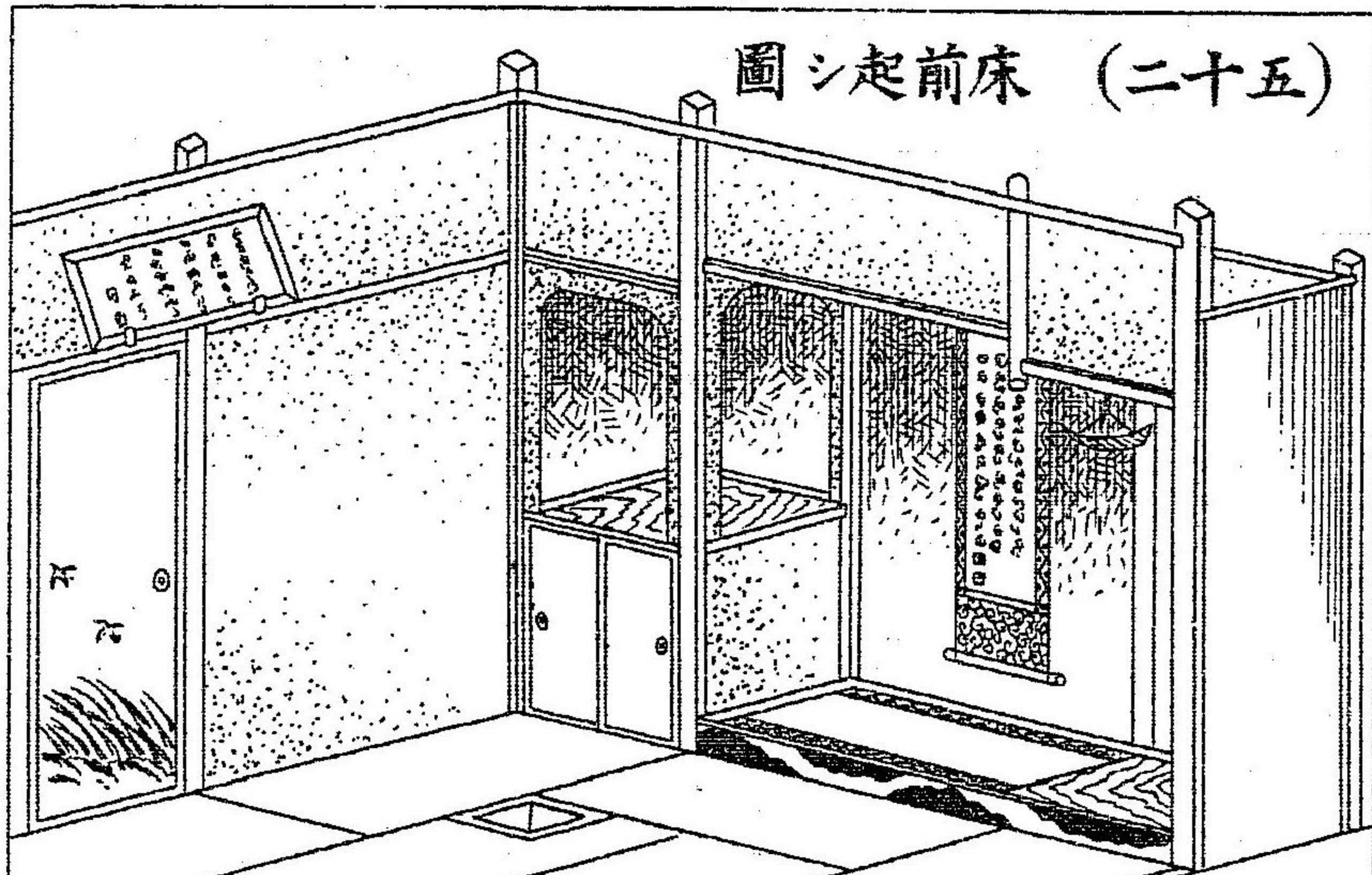


付段上 圖シ起前床 (一十五)



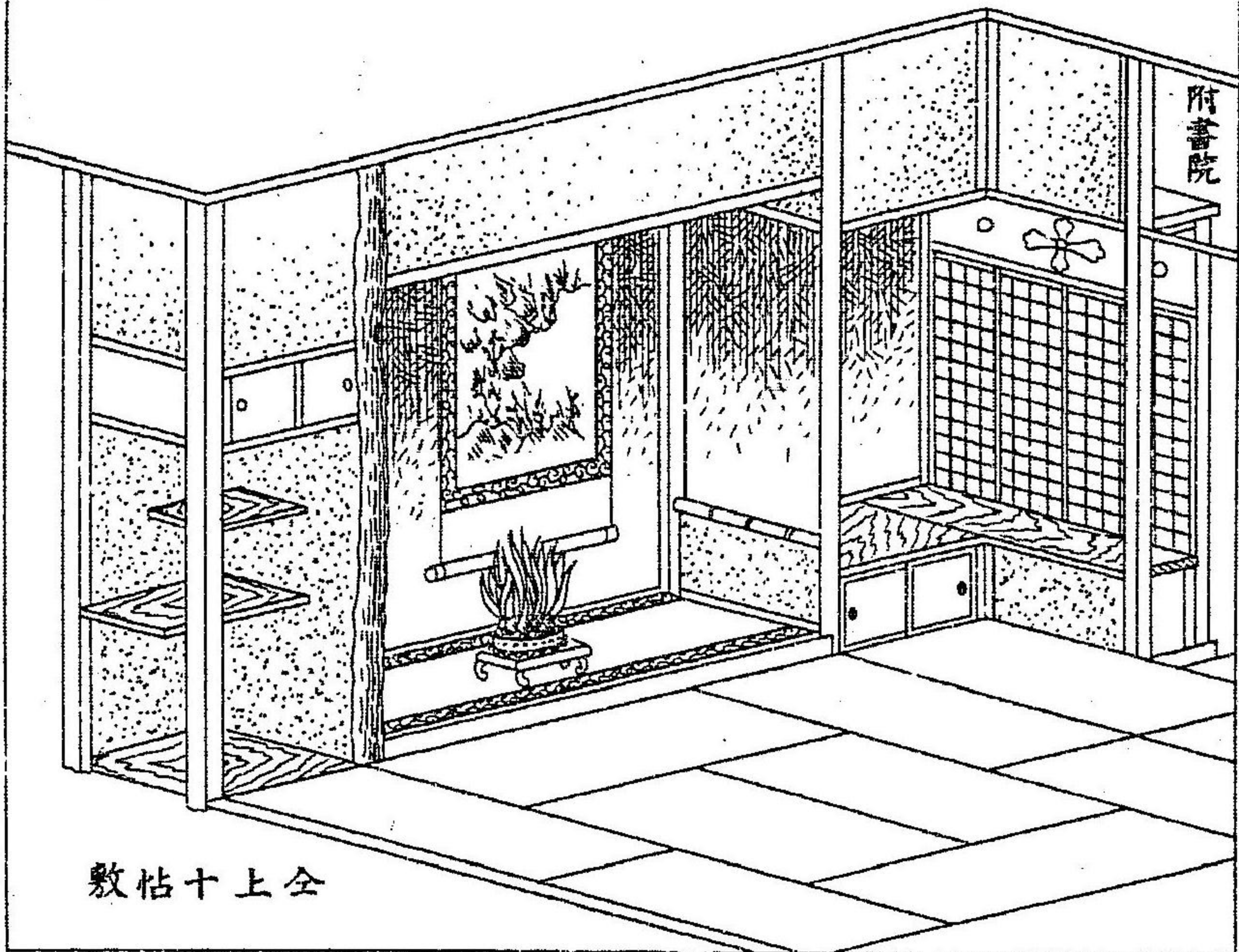
側入
上段床
圖面平

圖シ起前床 (二十五)



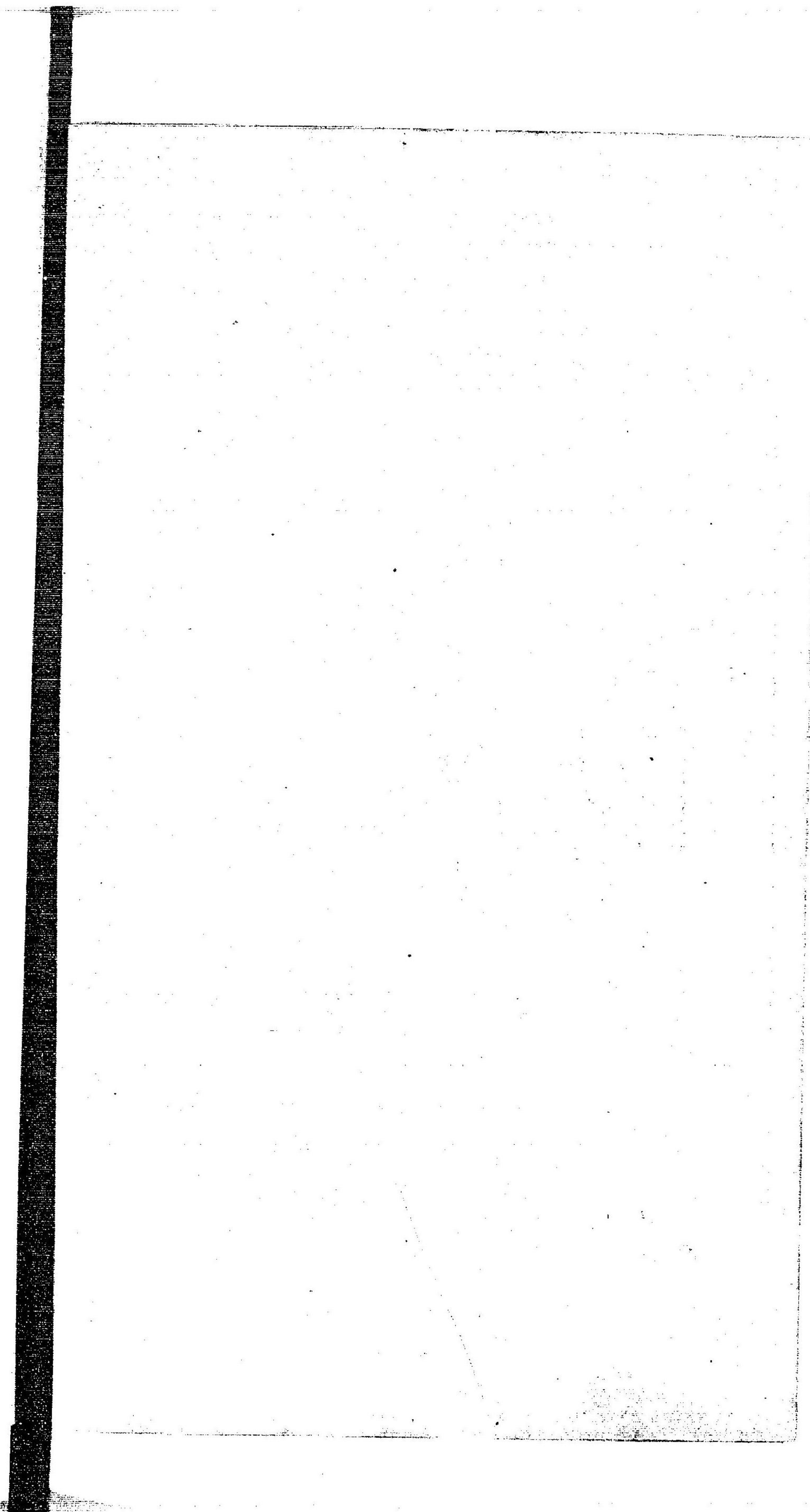
切半 估四八 炉

敷 估八



敷 估十上 全

附書院

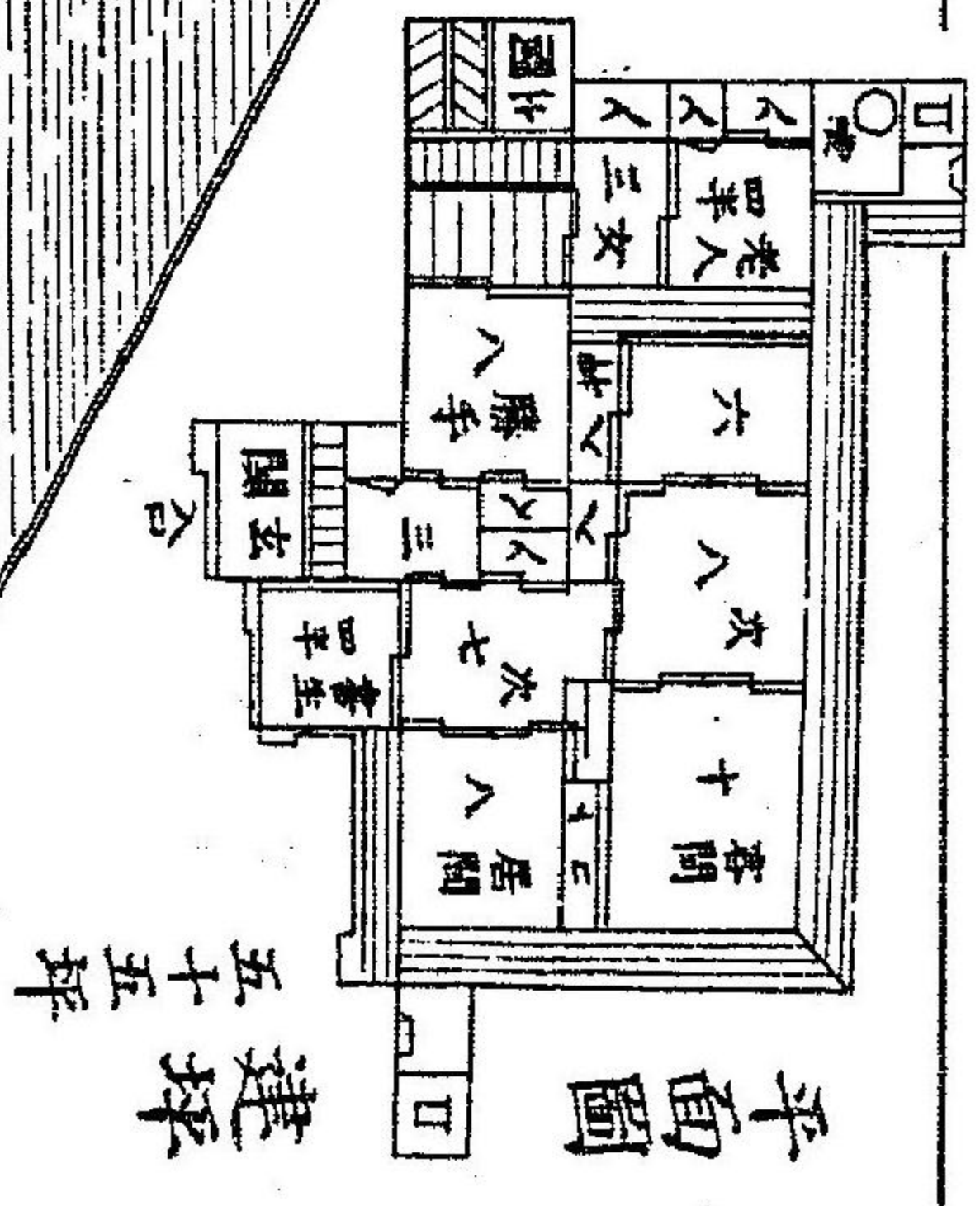
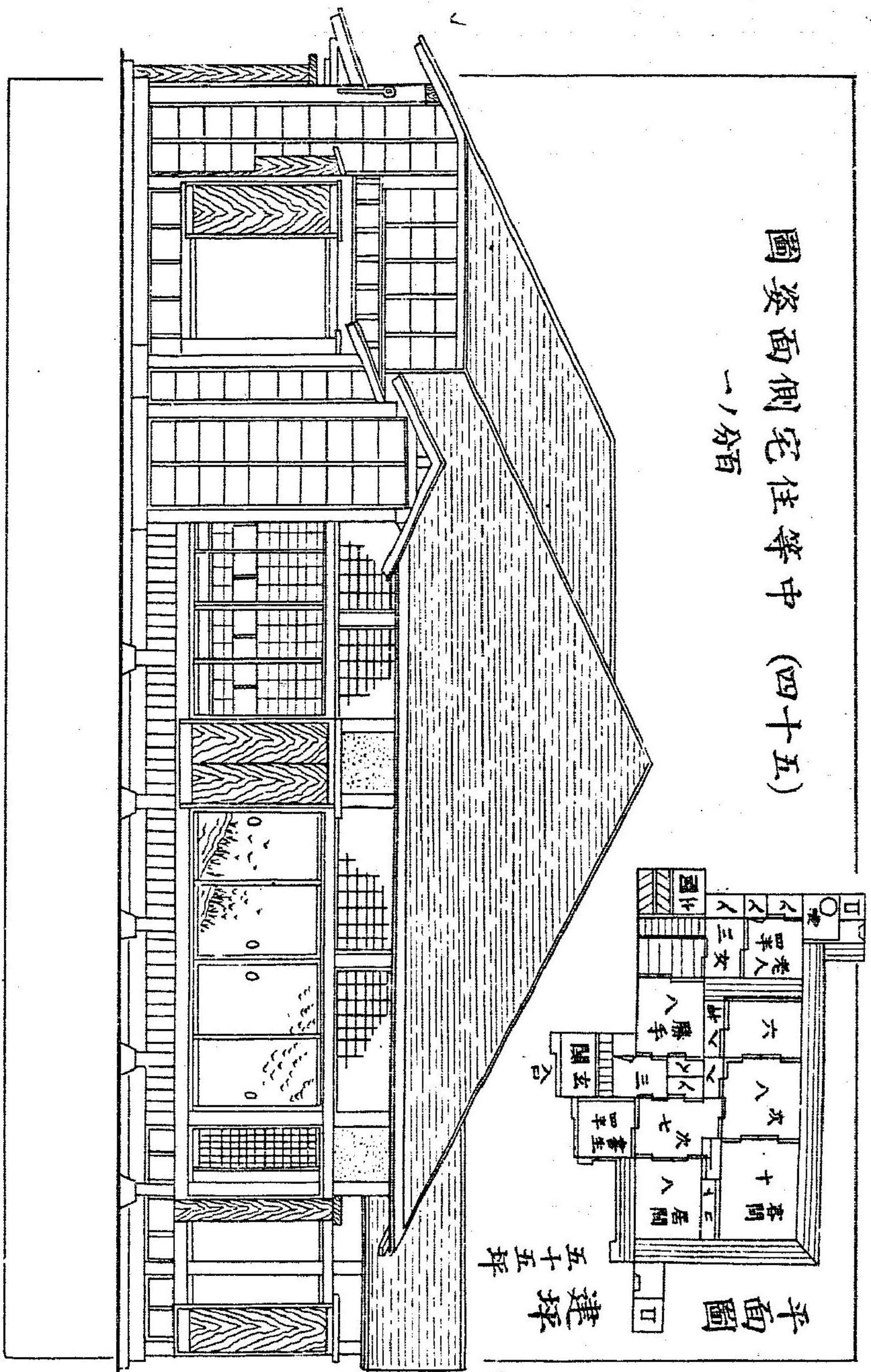


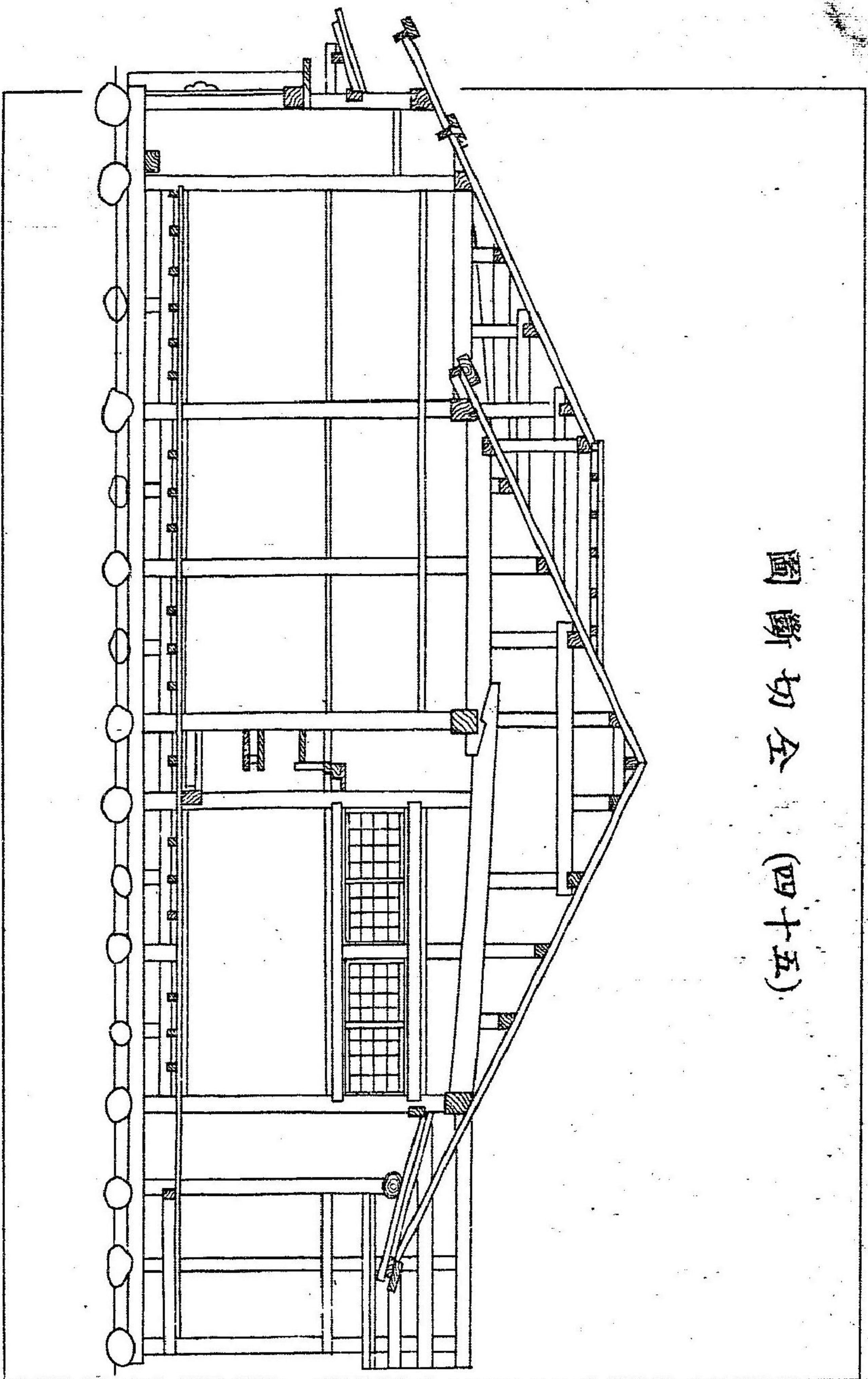
欠

MISSING

圖姿面側宅住等中 (四十五)

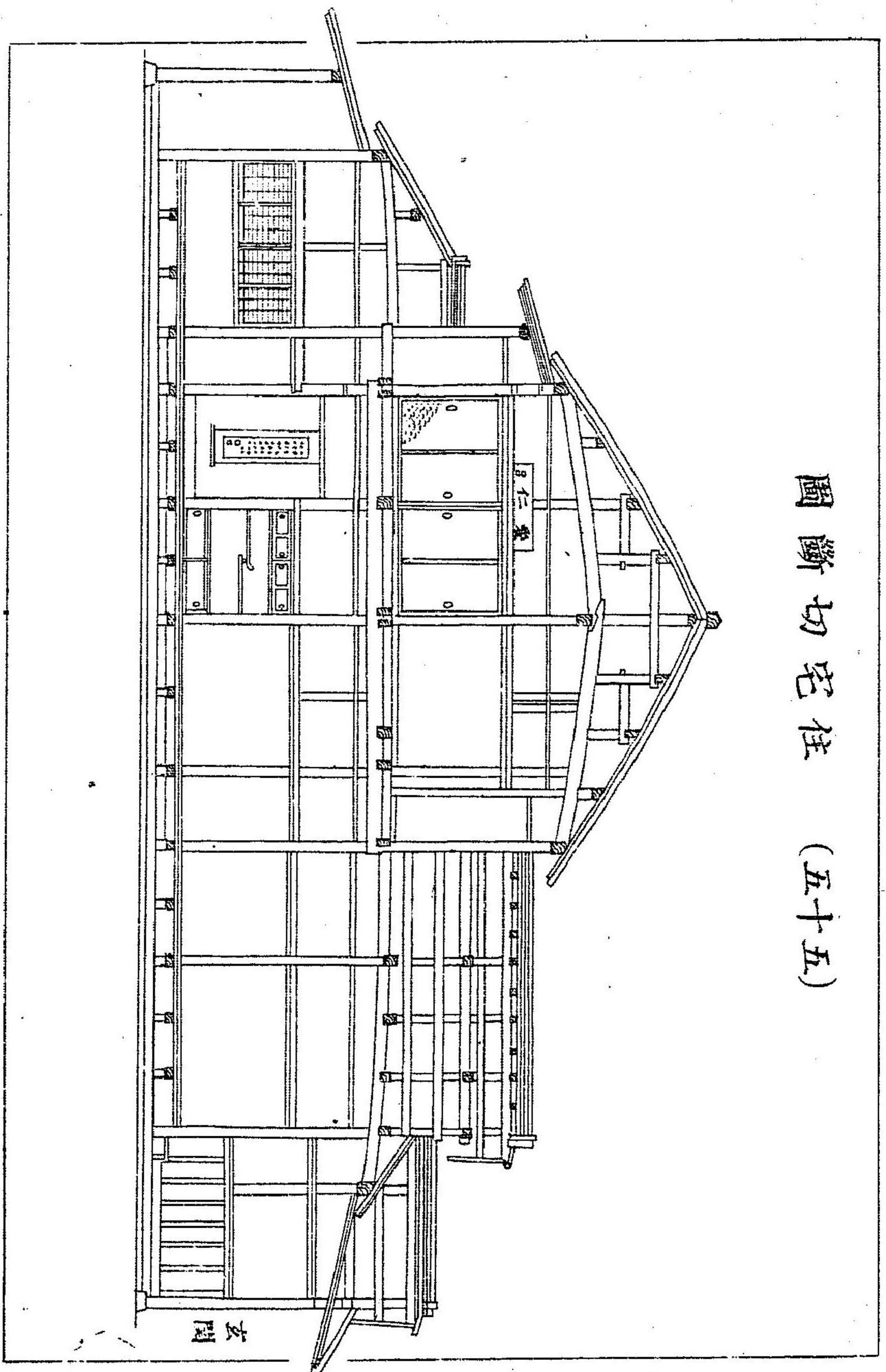
一/分百

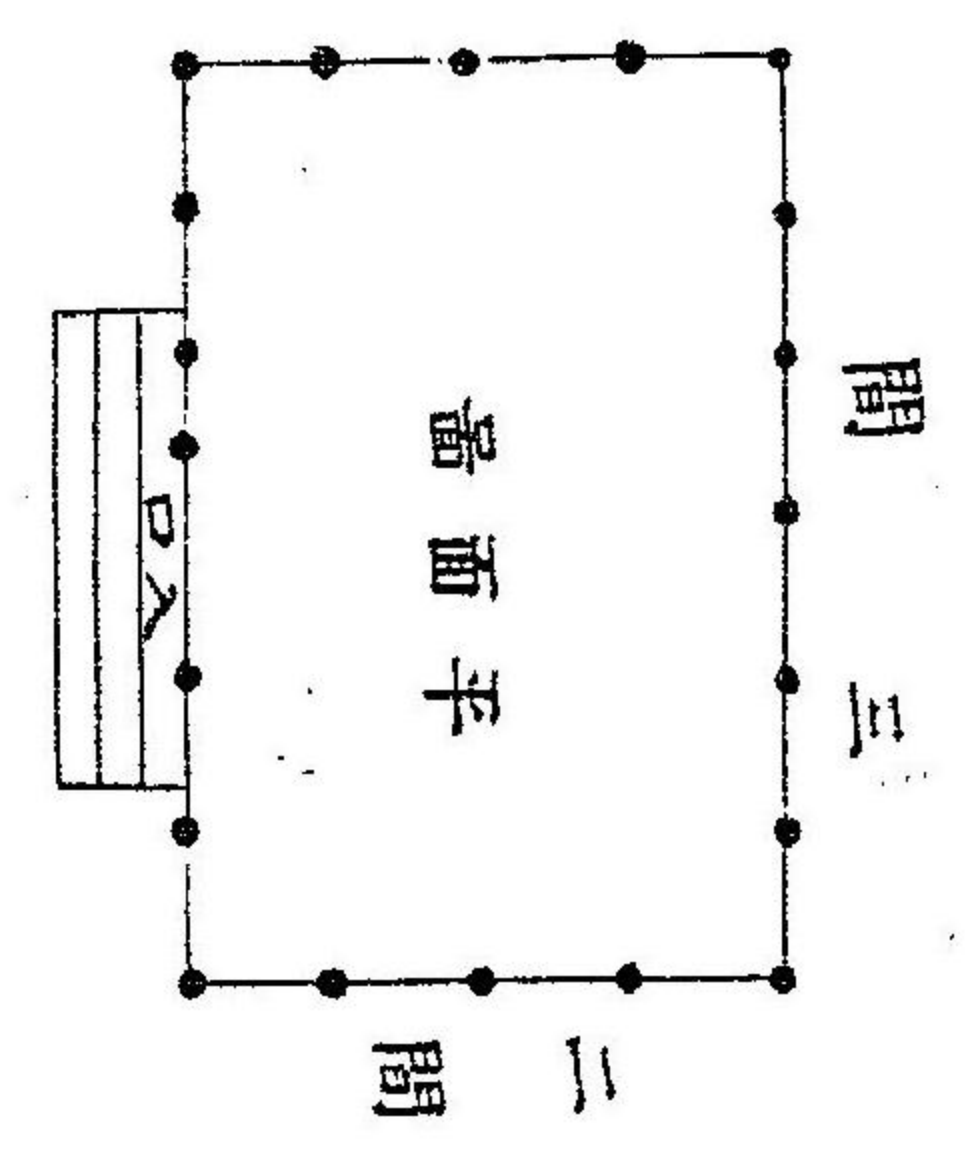
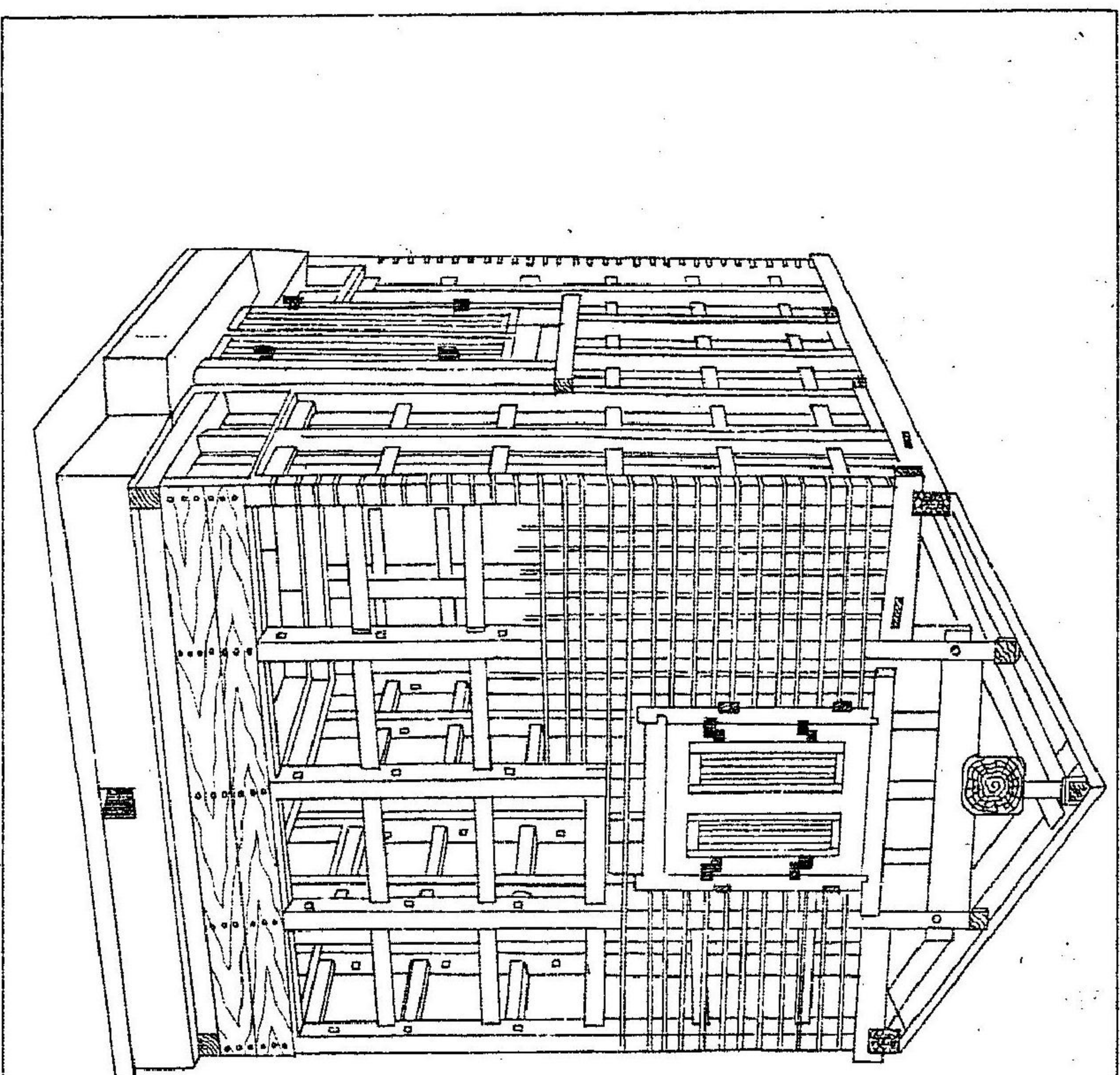




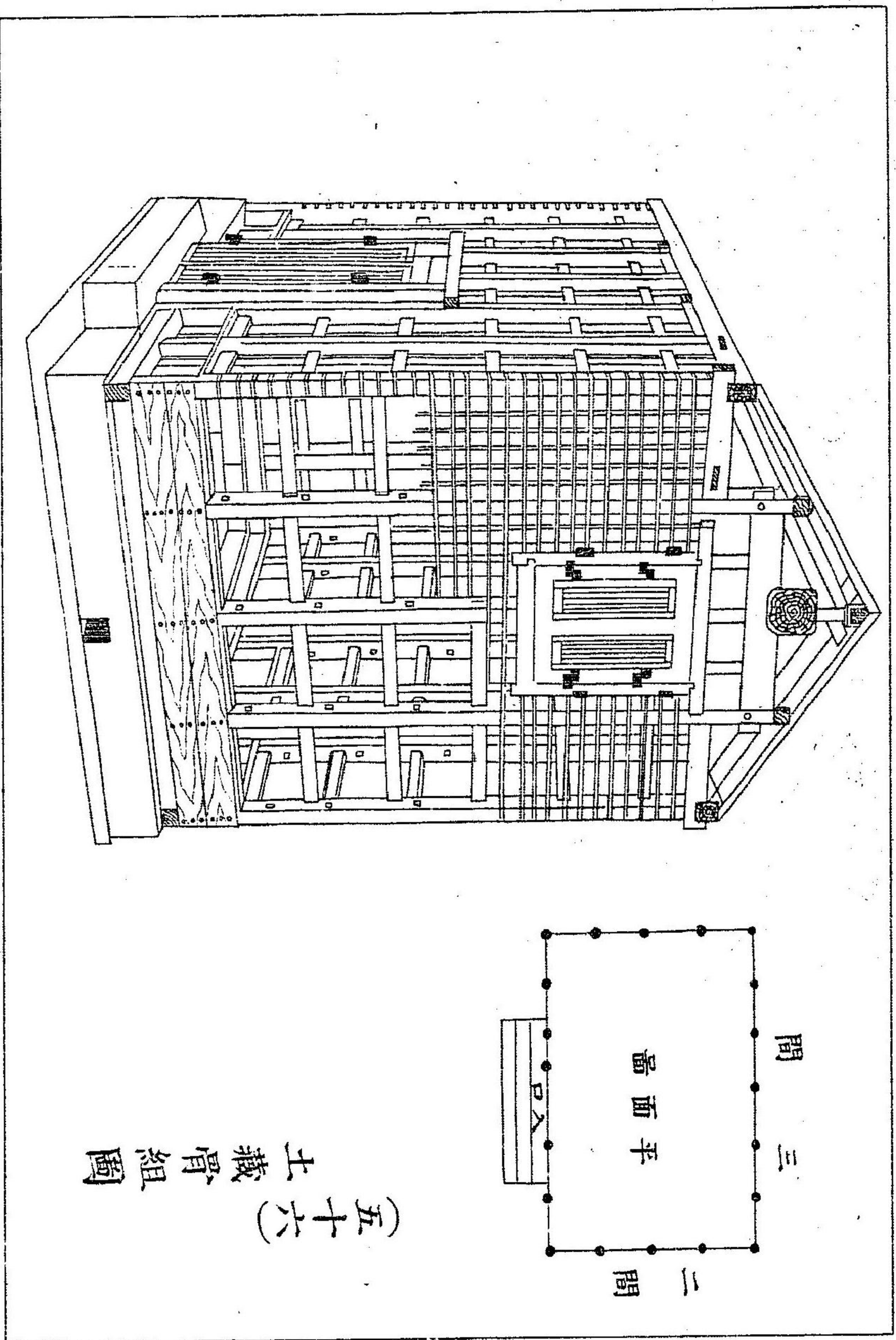
圖斷切全 (四十五)

圖斷切宅柱 (五十五)

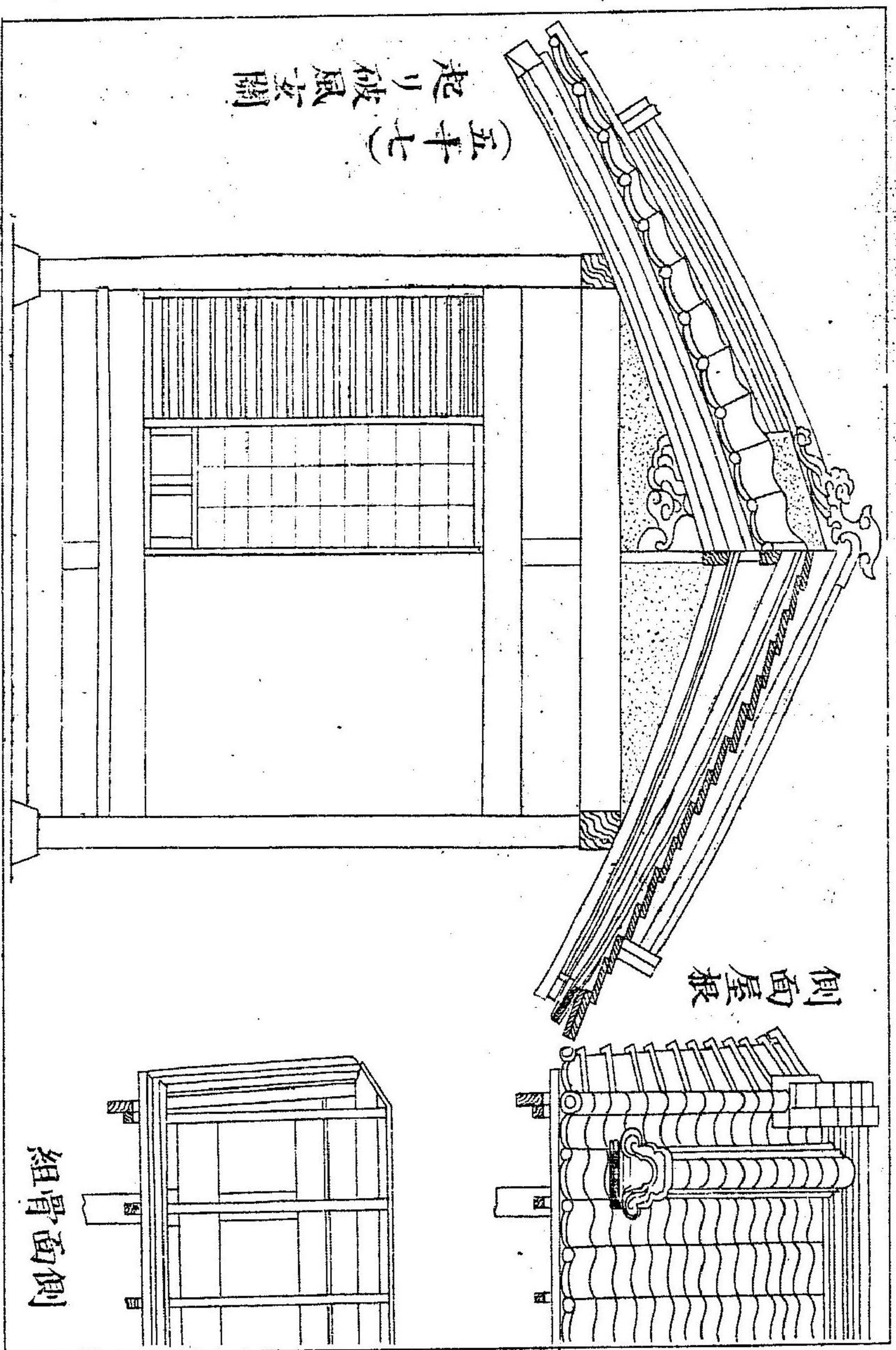




(五十六)
土載骨組圖

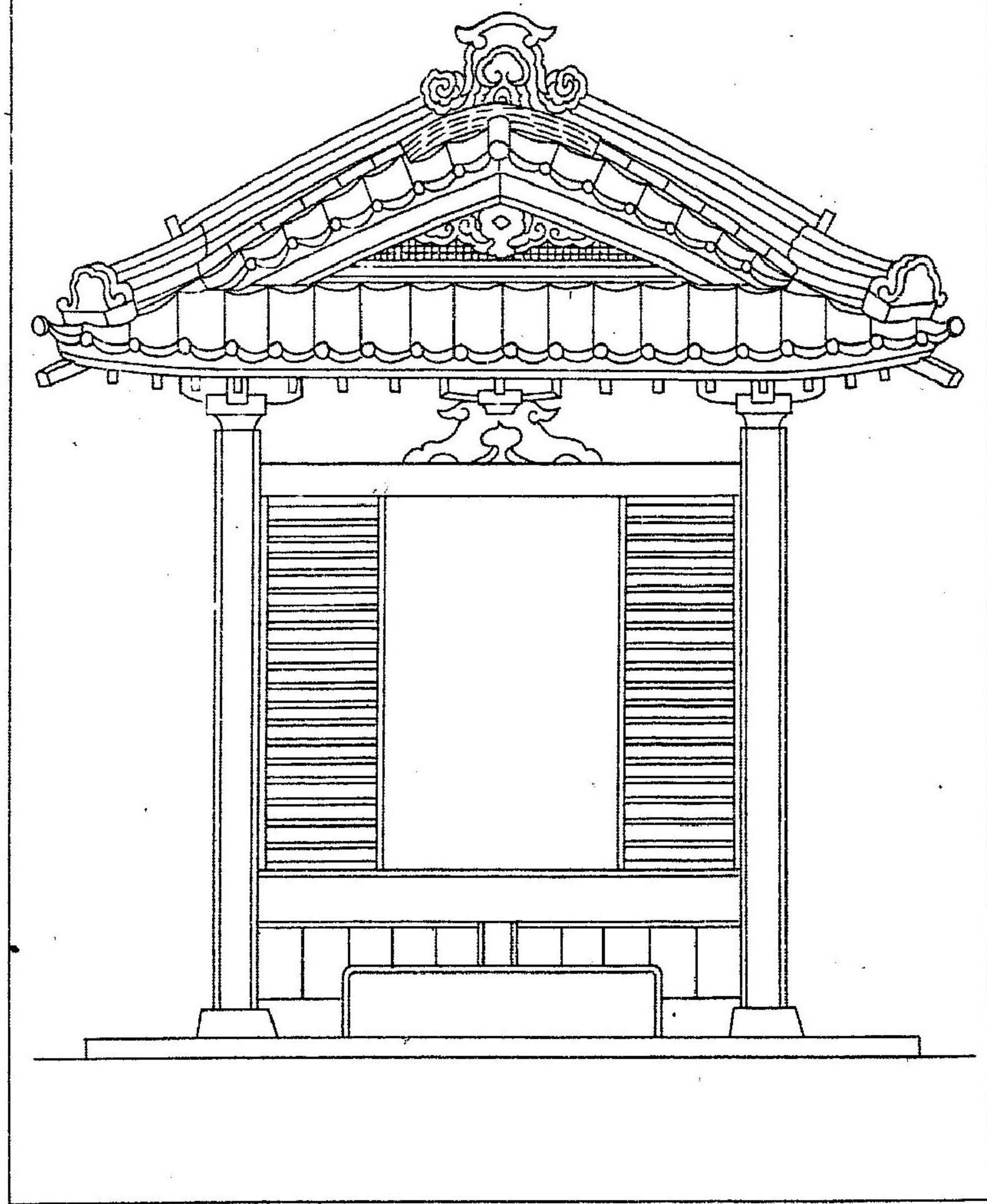


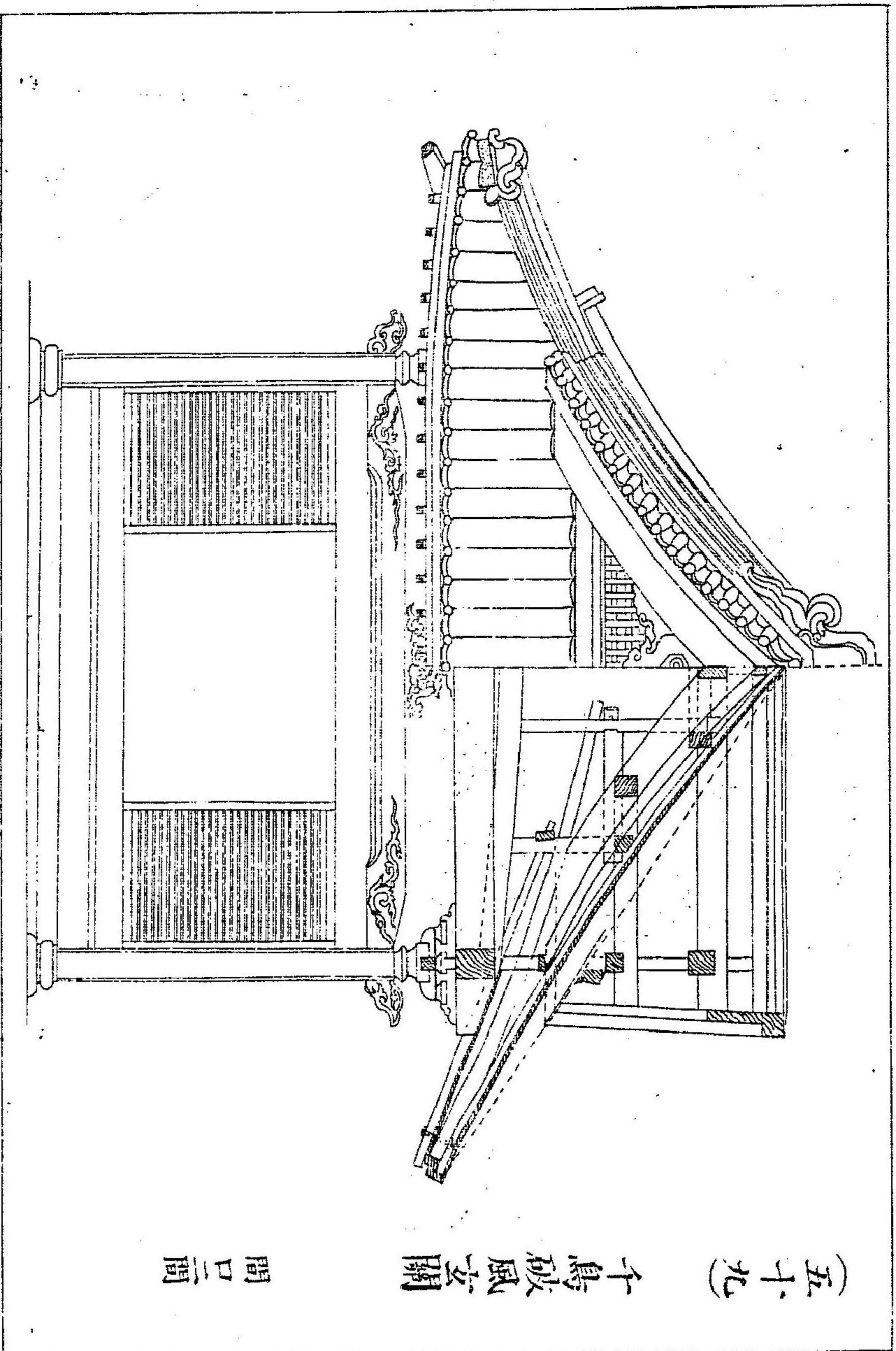
(五十六)
 土截骨組圖



圖姿關玄造屋母入風破り起 (八十五)

尺九口間





(五十九) 千鳥破風玄関

間口二間

圖姿面正付關玄風破唐宅住

(十六)

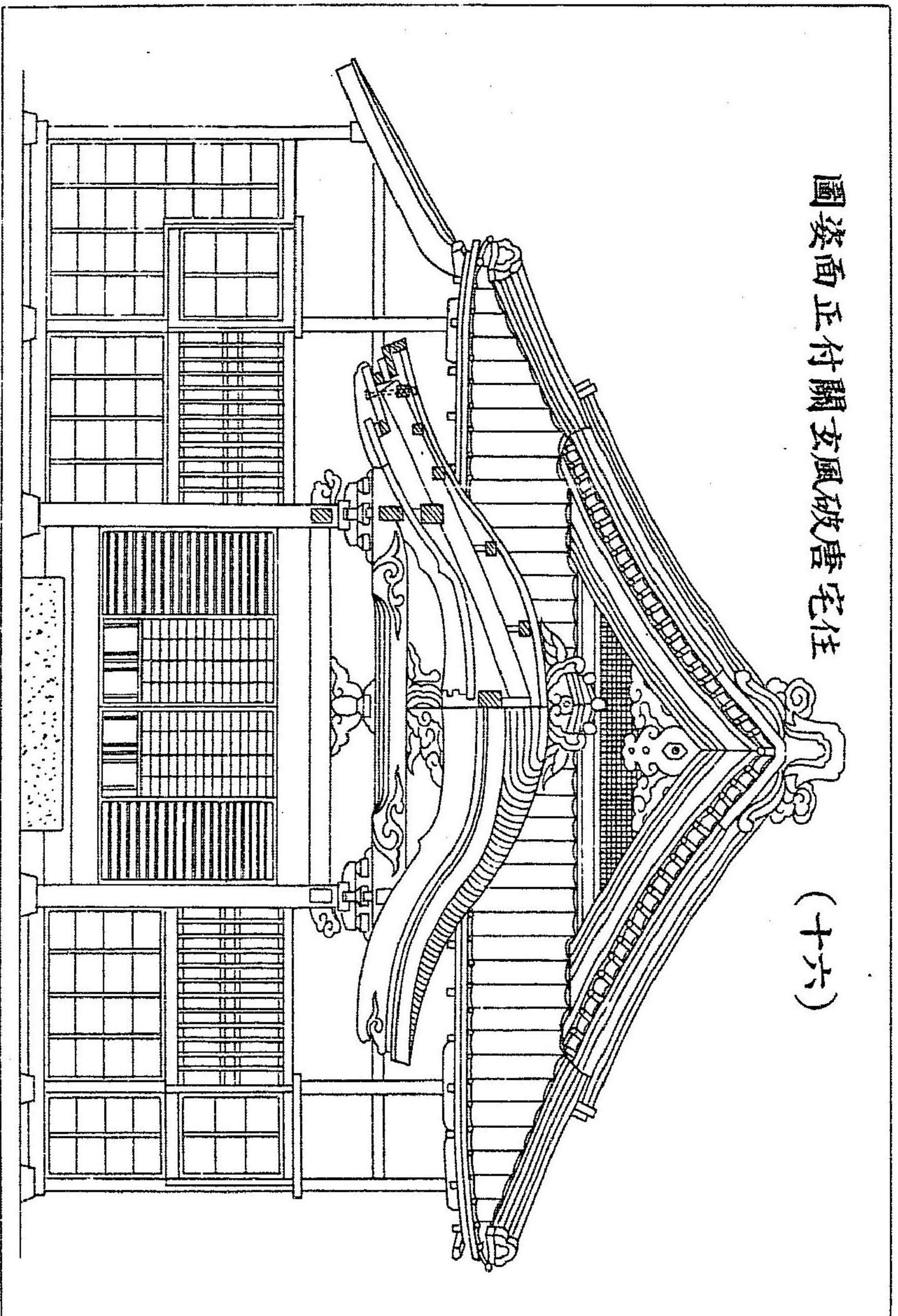
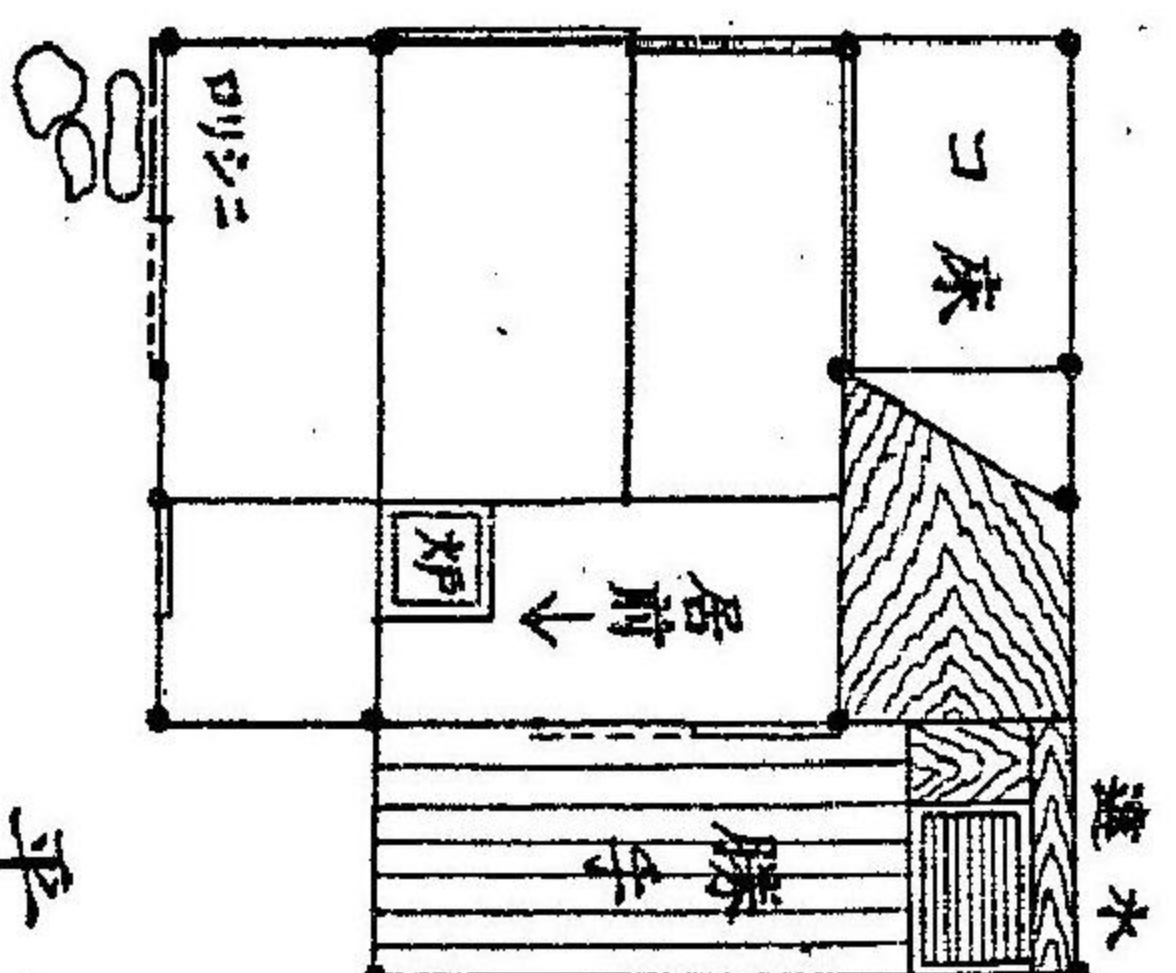
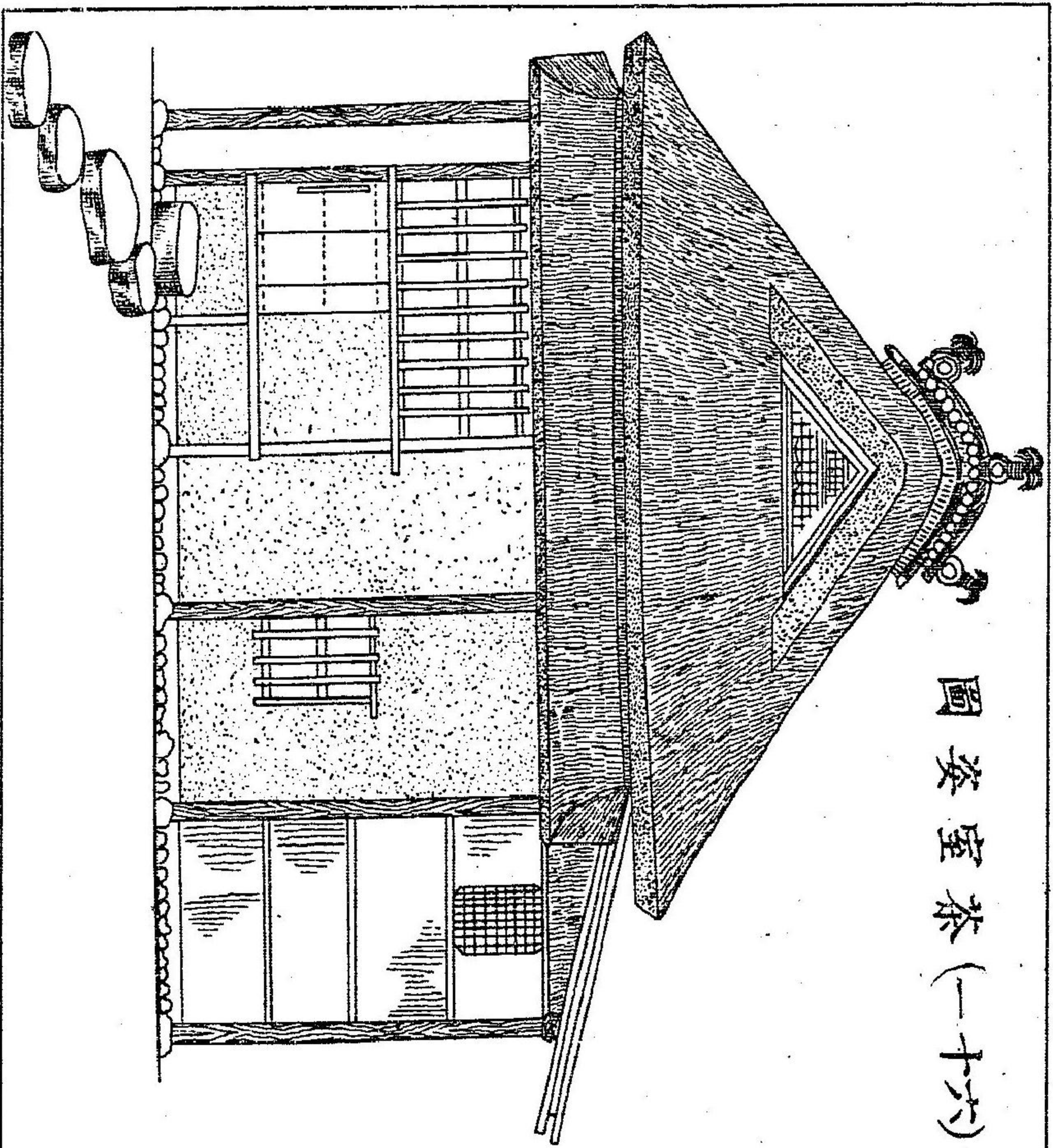
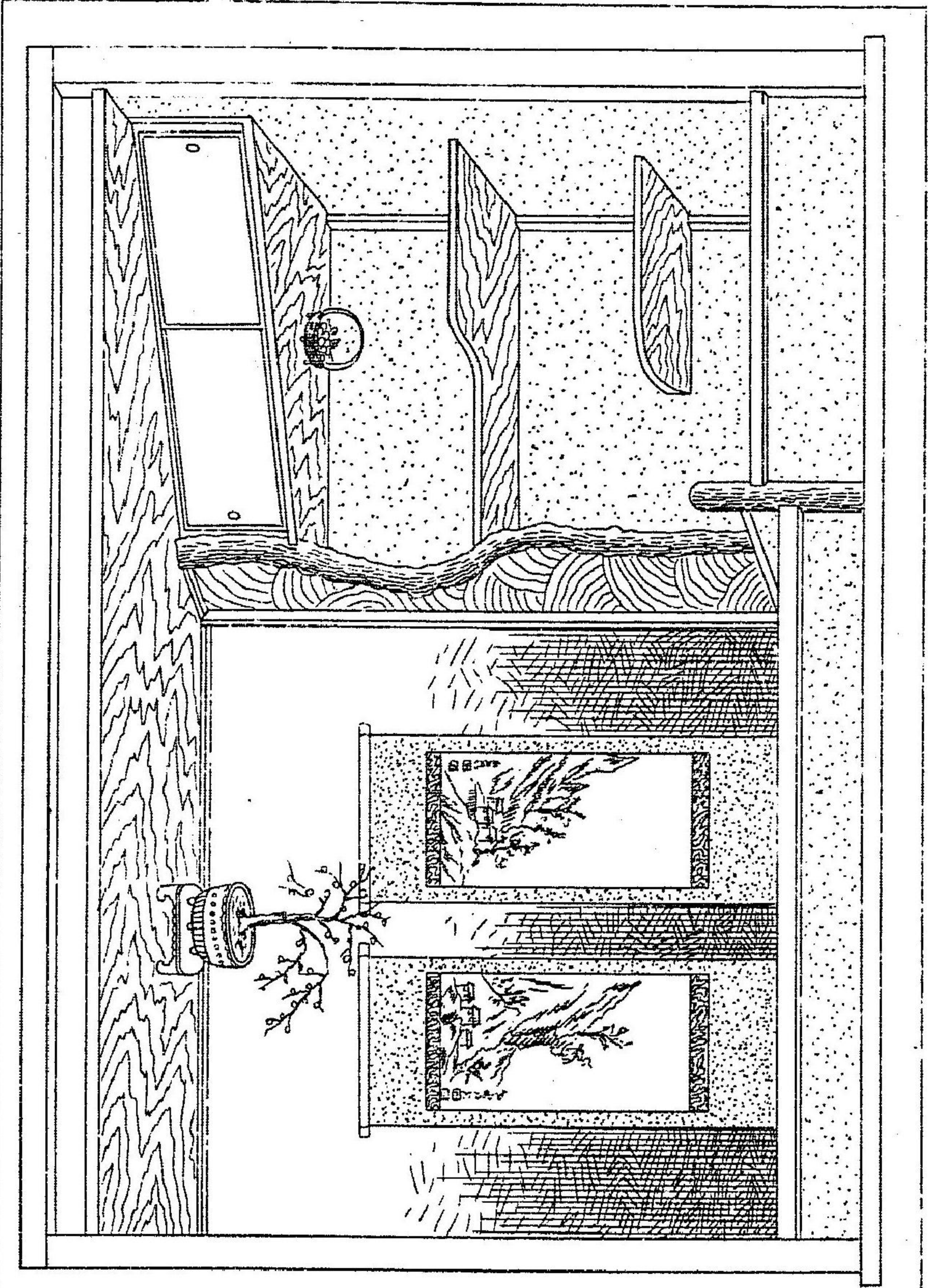


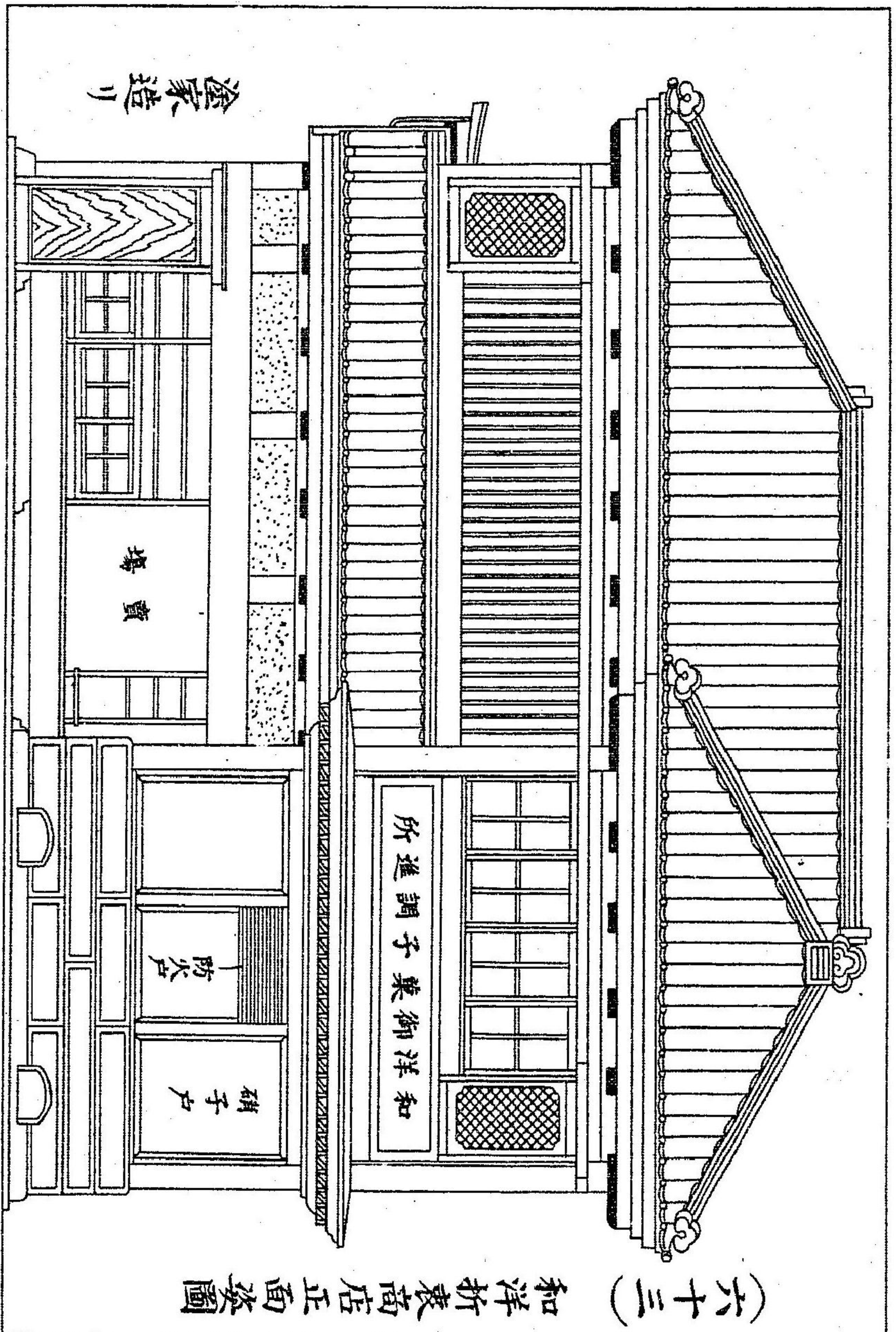
圖 姿室茶 (一十六)



平面圖 四帖半本勝手



(六十二) 其茶席床及三角棚起之圖



(六十三) 和洋折衷商店正面姿圖

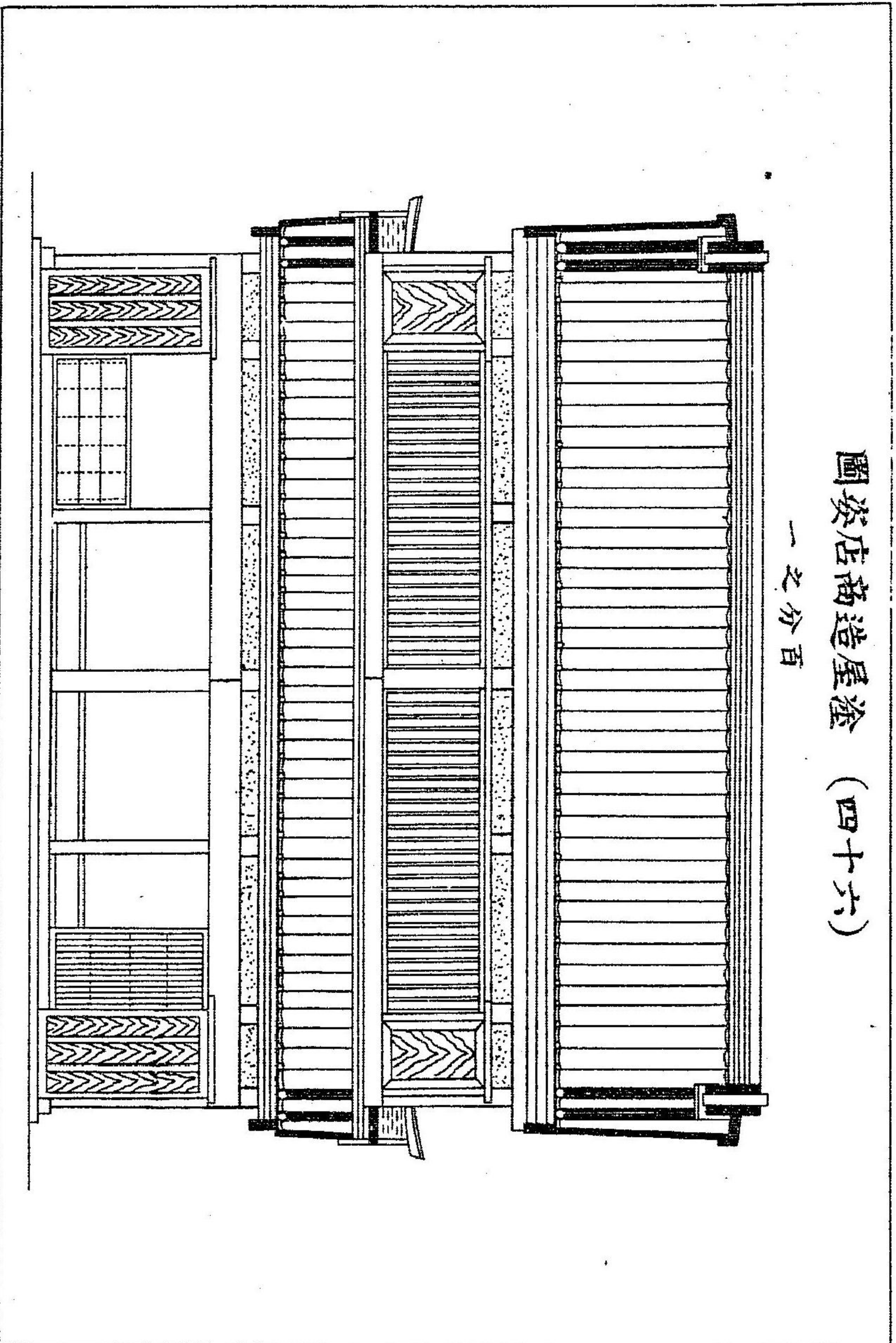
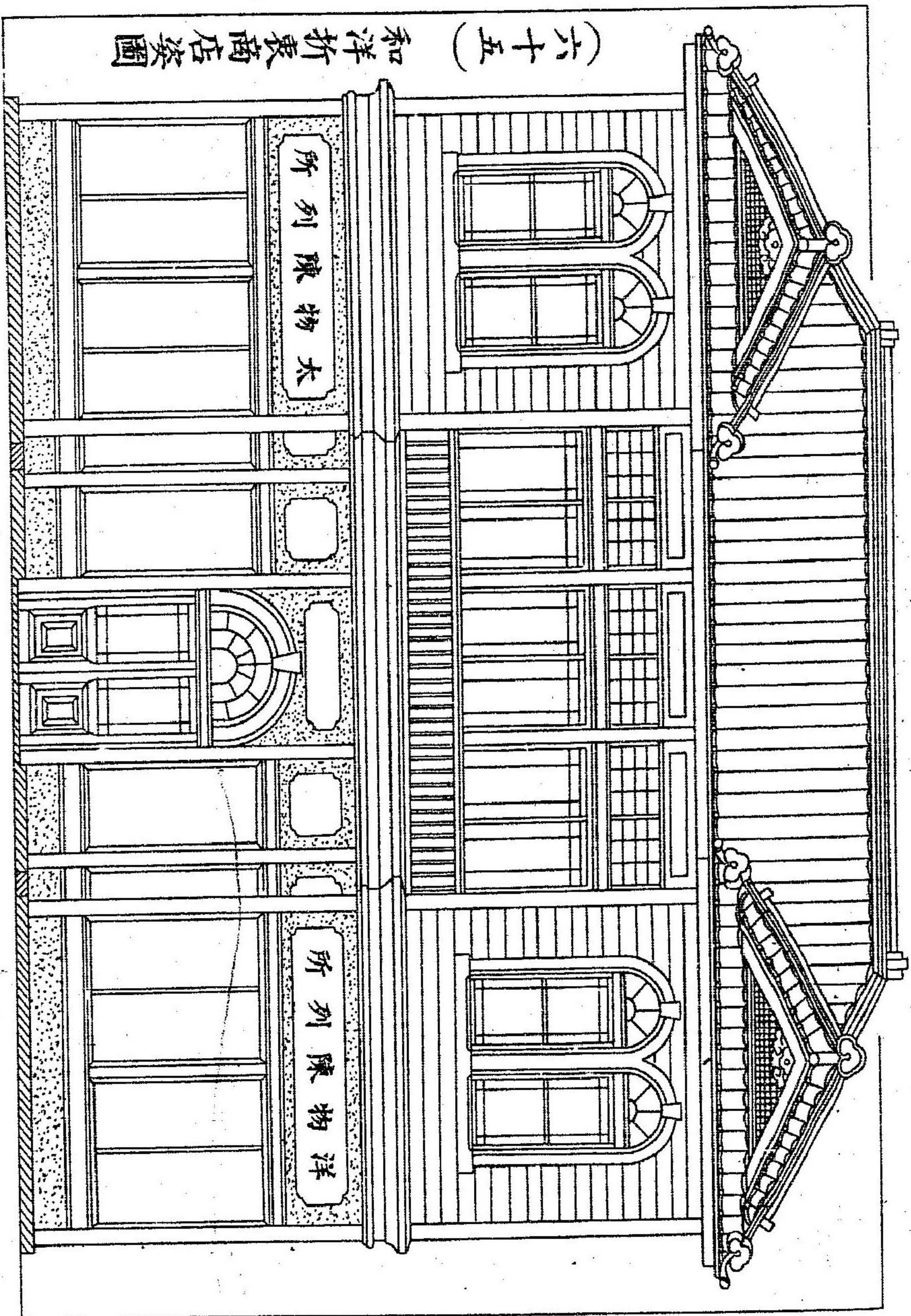


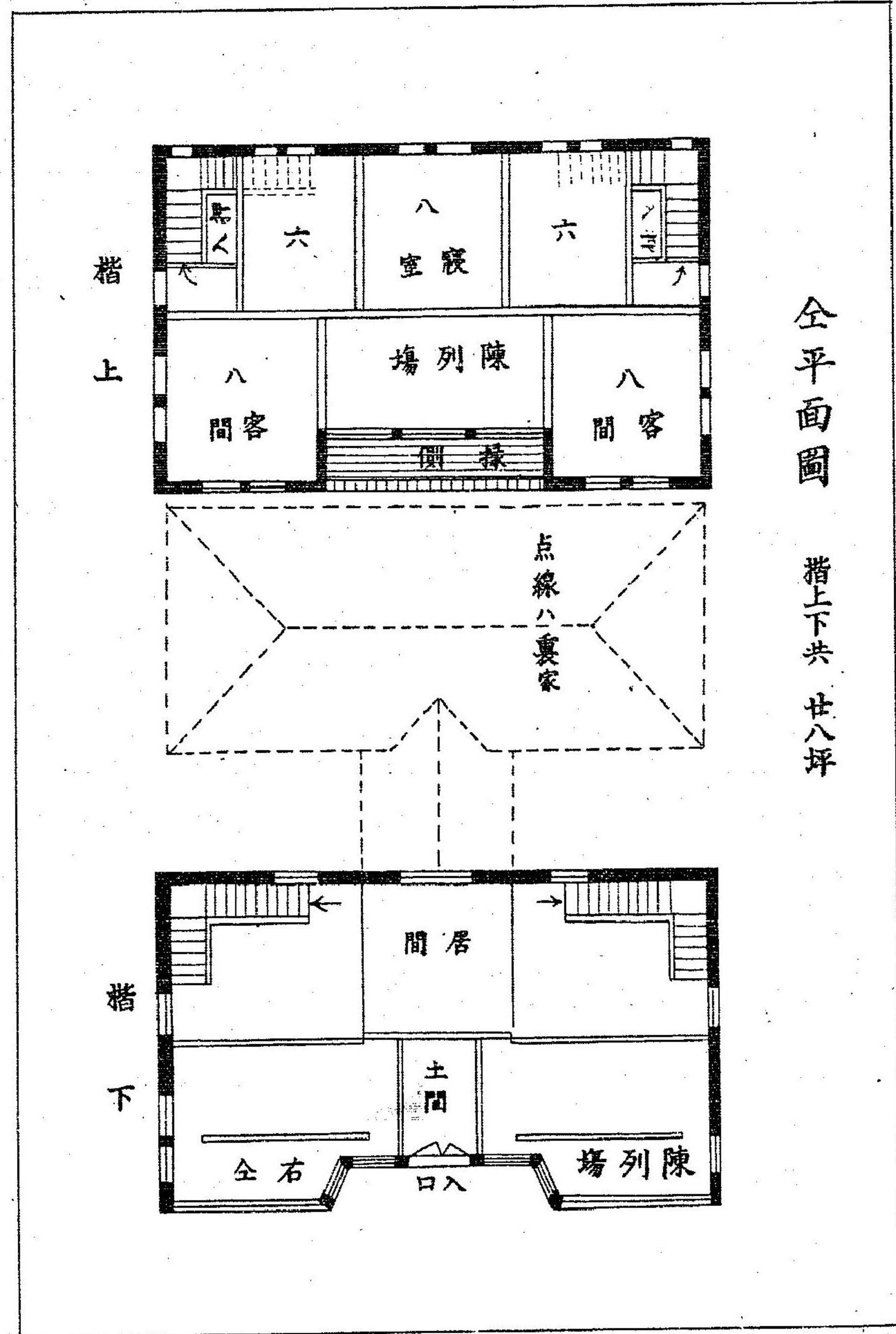
圖 商店商造屋塗 (四十六)
一之分百



(六十五) 和洋折衷商店姿圖

大物陳列所

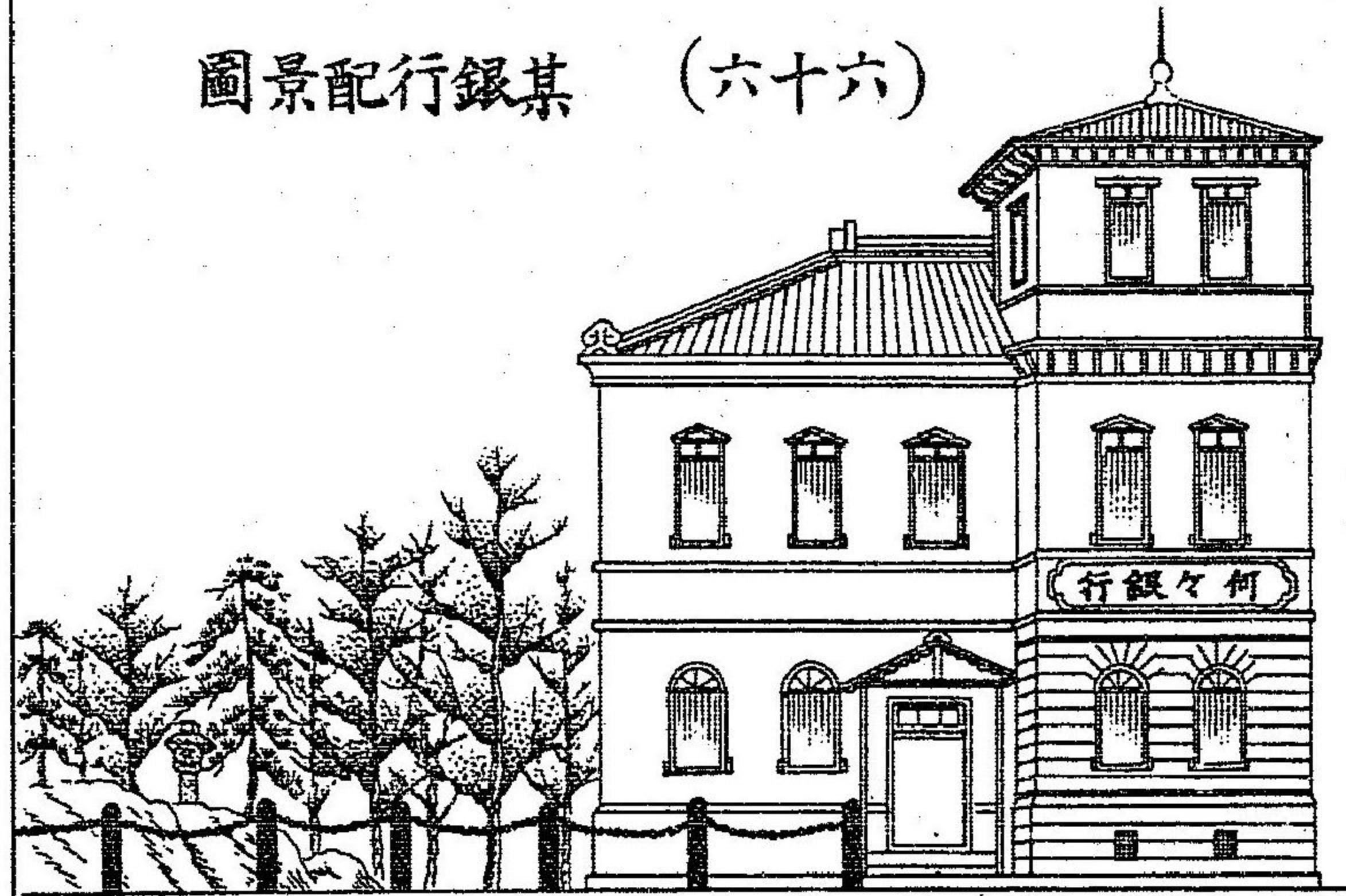
洋物陳列所



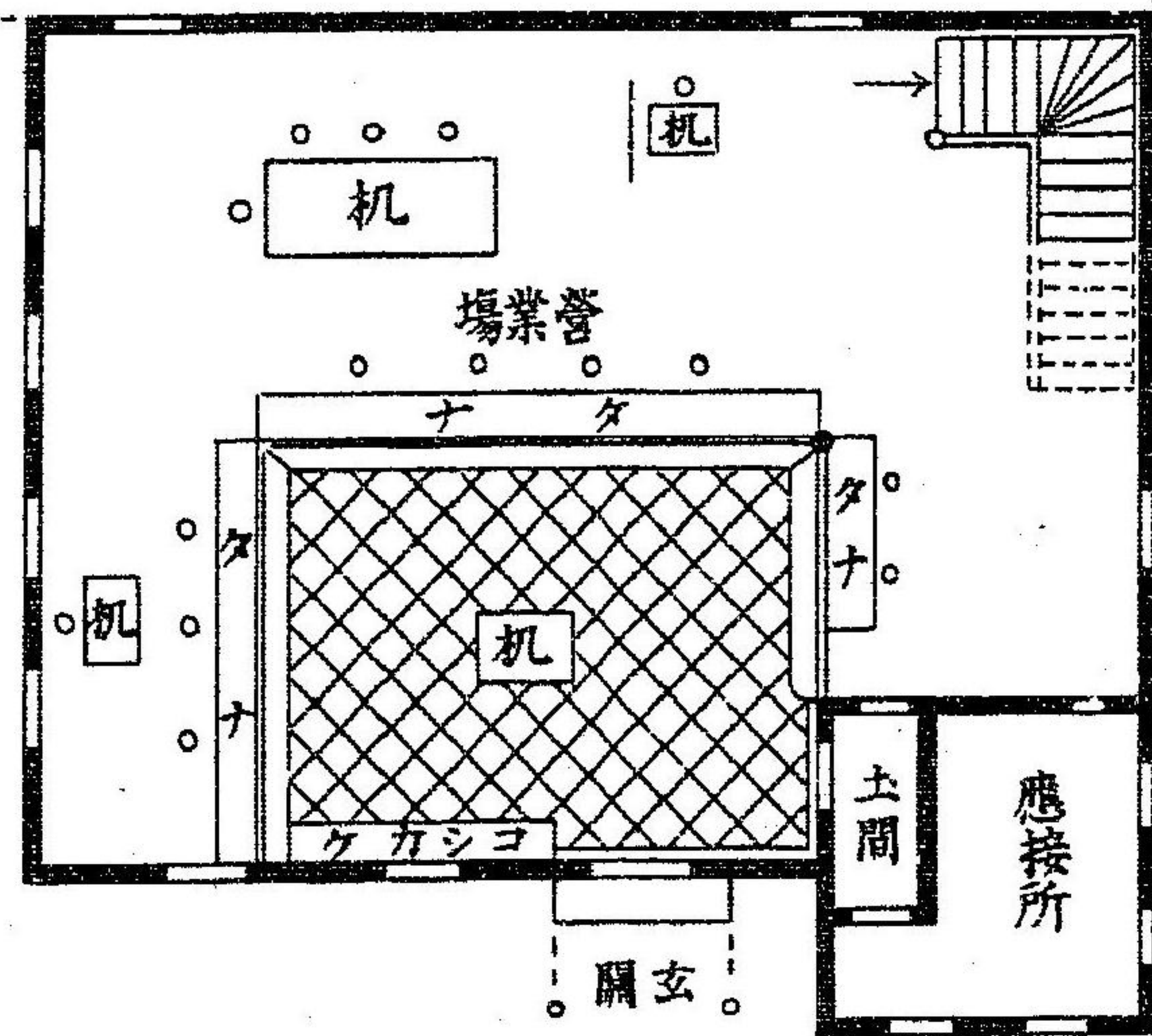
全平面圖

階上下共廿八坪

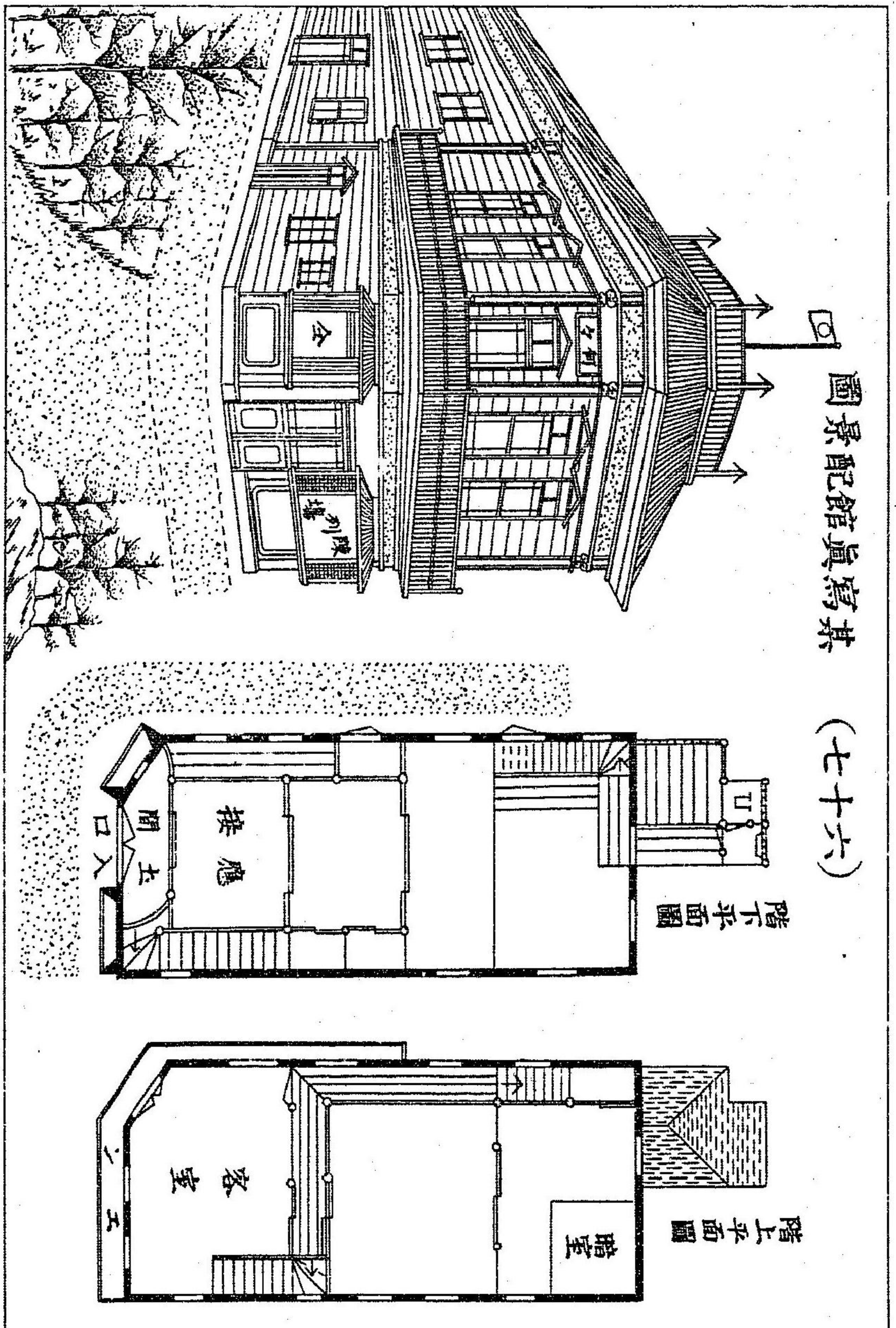
某銀行配景圖 (六十六)



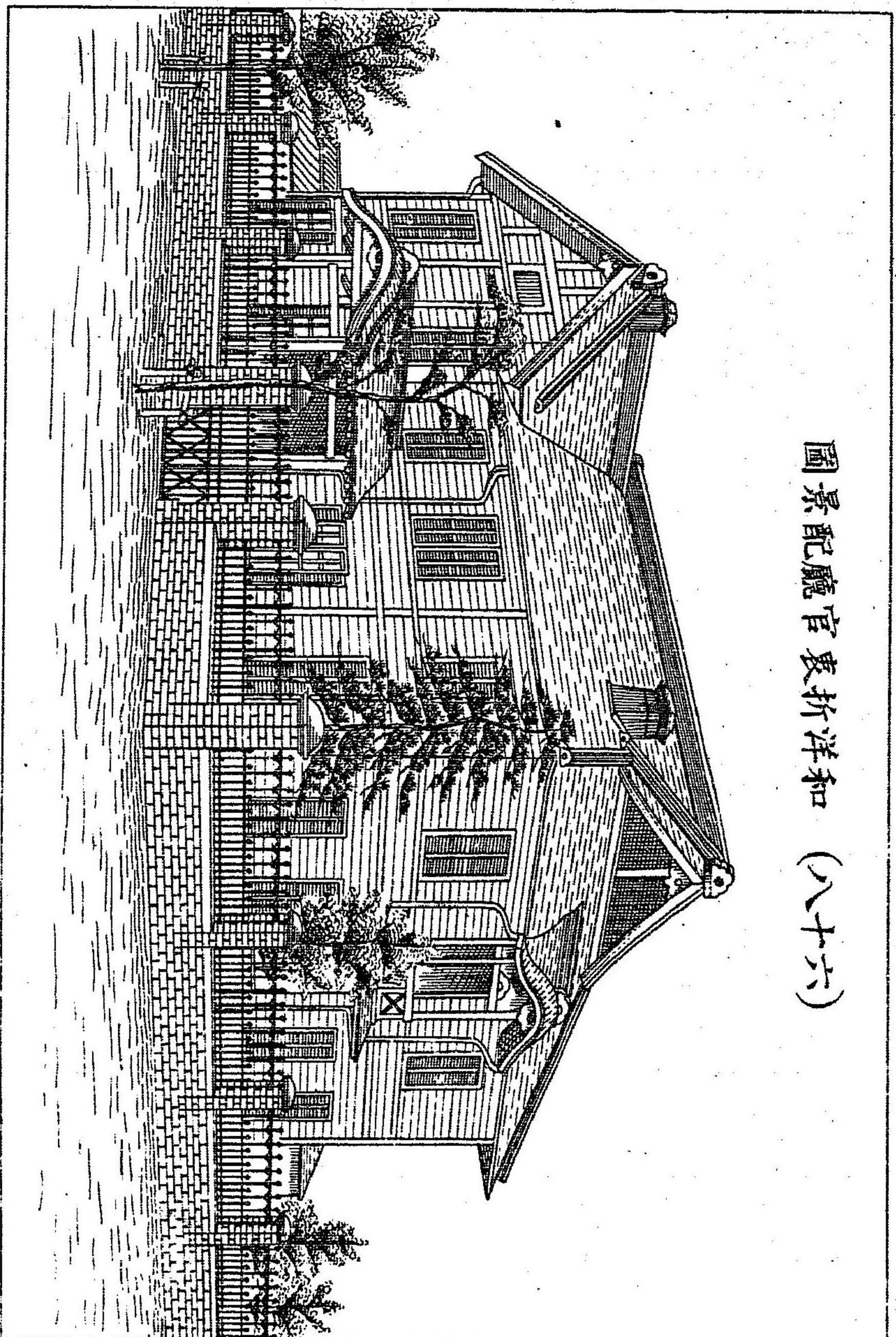
附屬屋

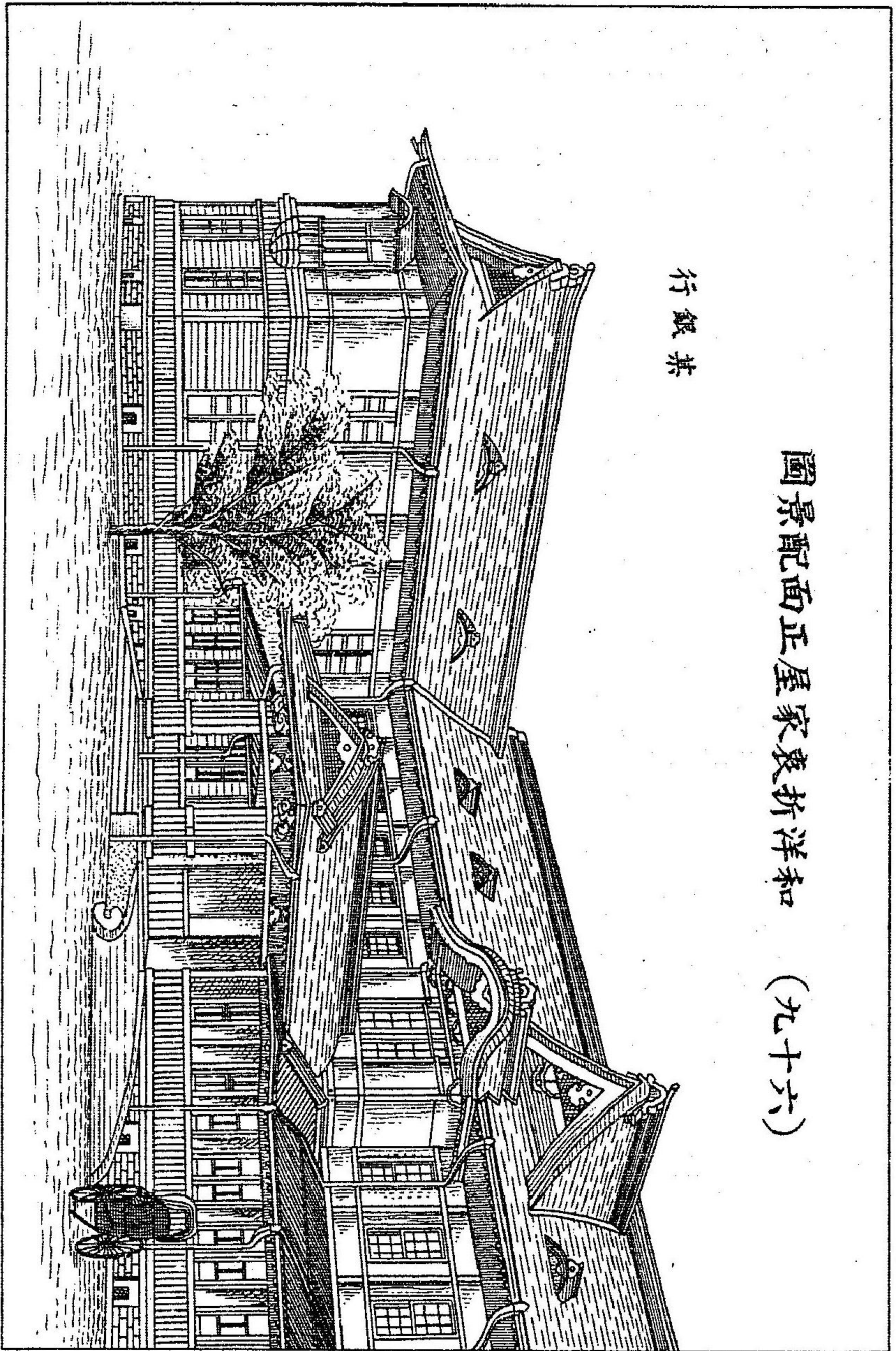


全平面圖



和洋折衷官廳配景圖 (八十六)





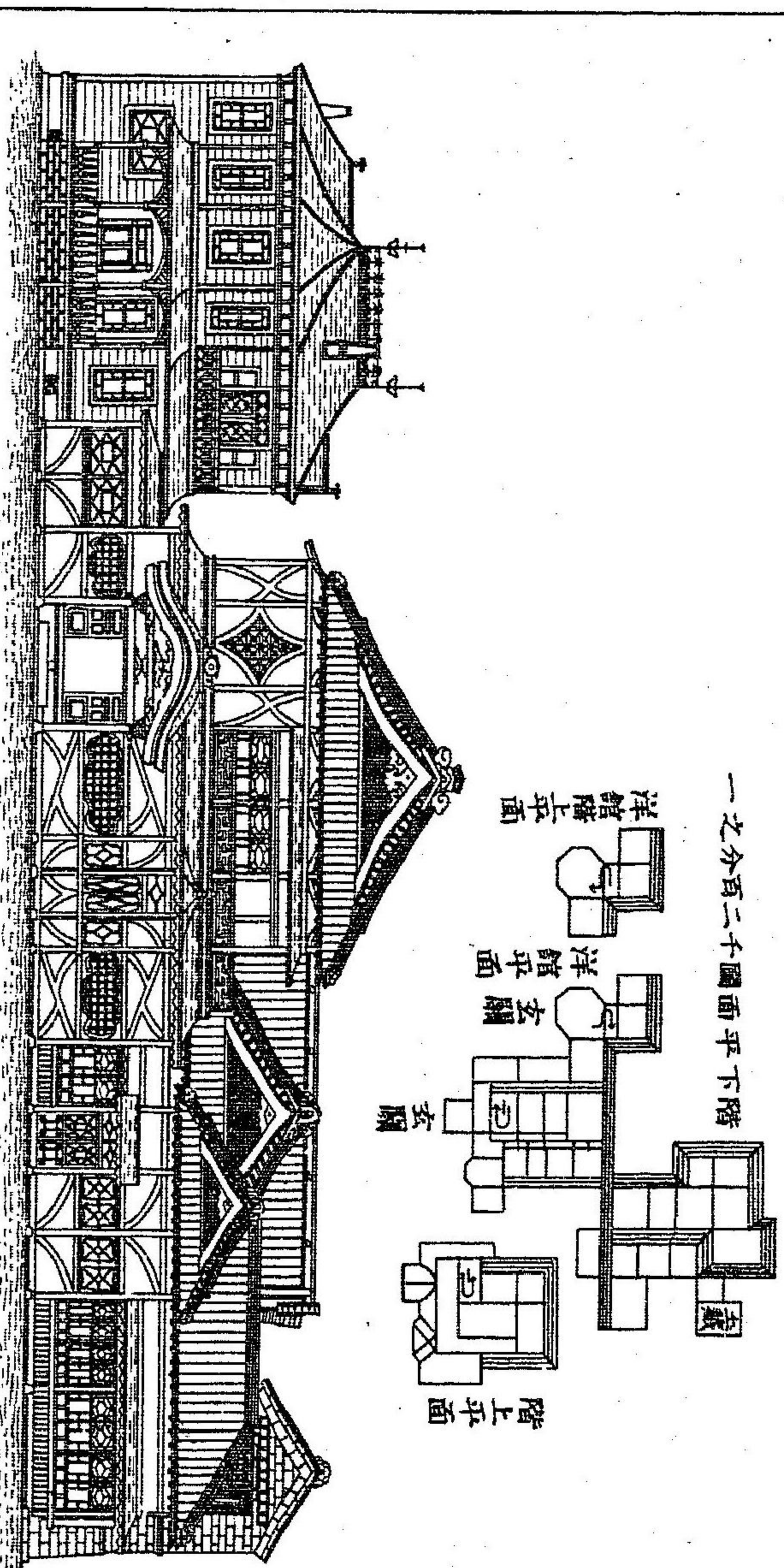
行銀茶

圖景配面正屋家裏折洋和 (九十六)

和洋折衷紳士住宅正面姿圖

(十七)

二百分之一



圖姿面正宅住袁折洋和 (一十七)

